週刊漫画サンデー

昭和三十四年七月十四日国鉄東局特別承認雑誌第五五八号
八月二十五日号 昭和三十四年八月二十五日発行

8月25日
創刊特大号

一流漫画家総動員の傑作集
十万円・ロケットクイズ

創刊号に限り
40円

実業之日本社

たのしい 安全なコースを

お選びください…

それが確実な貯蓄のコツです

貯蓄なら

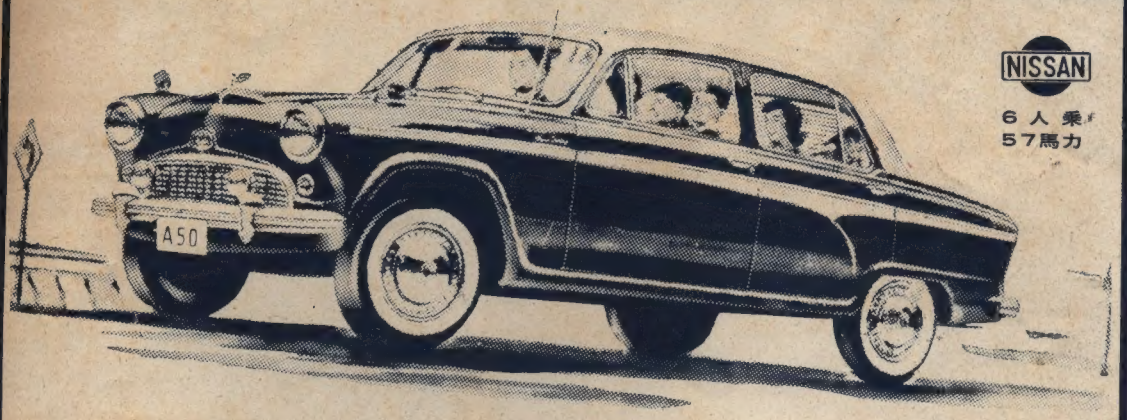
サンワのクーポン式 計画預金 を

夢のプランを実現する資金のお積立に,とても便利な預金です。

皆様に親しまれる

三和銀行

創業８３年・資本金５０億円・本店　大阪市御堂筋・支店　海外とも 180余



6人乗
57馬力

ハイスピードでも 安定性は十分

オースチン

デラックス・スタンダード

エレガントなスタイルのオースチンは、いま自家用としてぐんぐん増加しています。特に経済的なエンジン、耐久性にとんだ構造は、その使いよさとあいまって自家用に最適です。

日産自動車株式会社

ナンバー・ワン お顔拝見

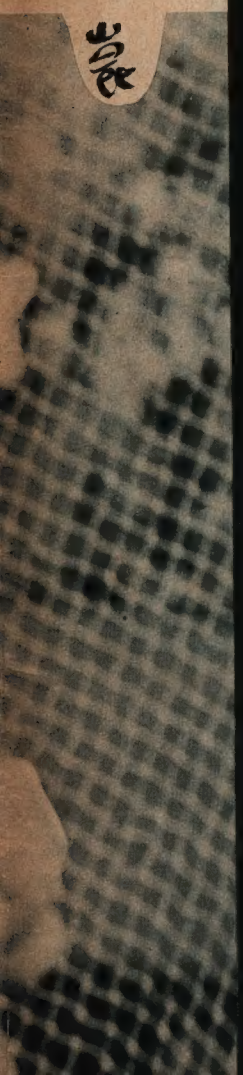
え・清水崑（しみずこん）

ペギー葉山

この頃ときたら、バーでもキャバレでも、のべつ幕なしに「南国土佐」である。昼間はさぞ分別くさい顔をしているだろうと思われる、四十、五十のおっさんが、「ナーンコクトサヲ」と大きな声をはり上げては、「ペギー葉山っていいねえ」とやっている。そういうときには、ポッテリとしたグラマー・スタイルで、ポチャポチャと人好きのする彼女を頭にえがいているに違いない。

レコードの売上げ三十万枚という空前の南国ブームをつくったのも、都会的ながら甘い雰囲気をかもしだす、彼女の姿態と顔にもよることが多いのではなかろうか

児島明子



ミス　ユニバース、世界中の美女の中の美女なんだから、われわれ輩がまず文句のつけようのないお顔。彼女のおかげで大和撫子の株がぐんとはね上ったのだから、ケチなやきもちをやかない方がよろしい。彼女の「可愛いおくさんになりたい」という心がけは、われら大和オノコどもを感心させた「俺の女房があんな女だったらなあ……」と世の男どもはひそかに思ったことだろう

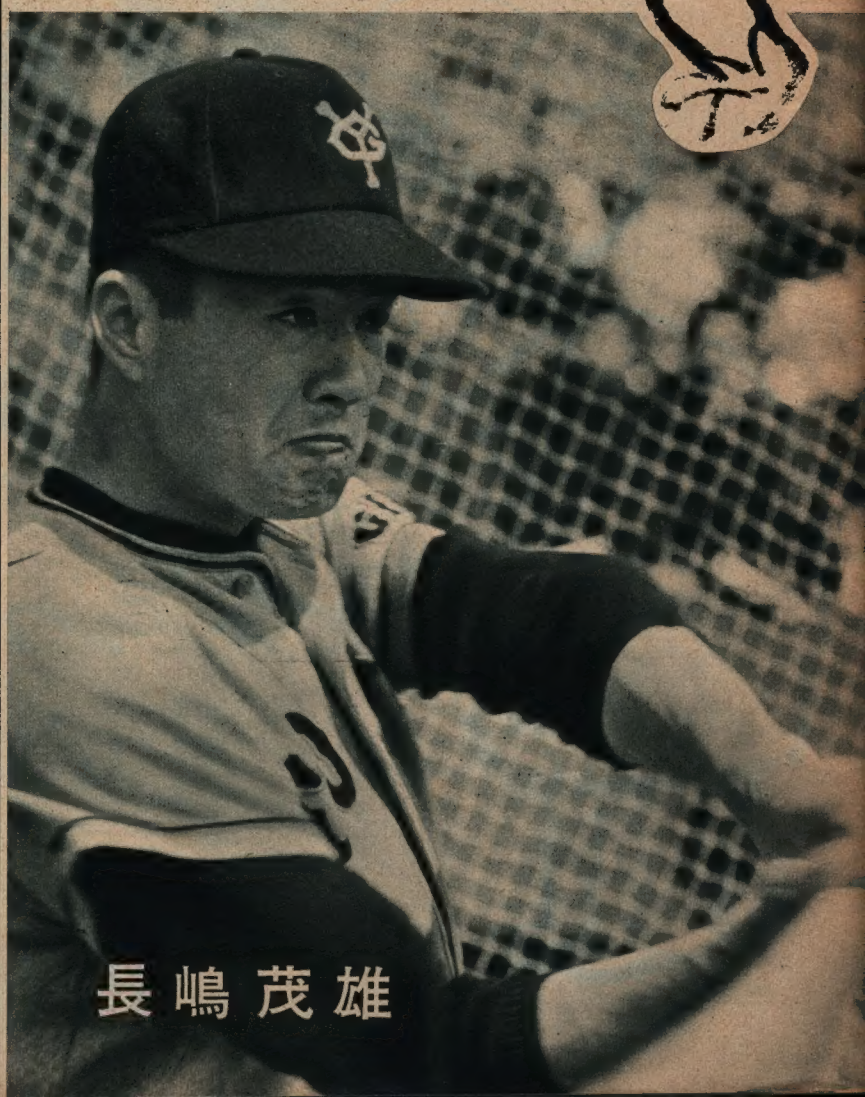
しかし、世界旅行に招待されるやら、マヅクスファクター化粧品会社の専属になるやらで、華やかな生活が約束されているが、忙がしくて当分「可愛いおくさん」になれそうもないのはお気の毒というべきであろう

ナンバー・ワン お顔拝見

「長嶋さんステキ！」ってなことを口走る女性にその魅力のありかを尋ねると、その第一は顔にあらず、胸毛にあらず、そしてまた打撃スタイルにあらずして、なんとアシュラの如くに馳けめぐるあのベース・ランニングのスタイルのよさなんだそうだ。

「だって、ああやって走る時は、長嶋が打った後でしょ。胸がスッとしているところで見るからますますステキ」だとさ。

走れ長嶋、人気メーターはぐんぐんまわる。



長嶋茂雄

どちらからでも いいんです

普通はご主人から提案されるようですが、こればかりは奥さんから言われてもいやな気はしないもの。

〝うちもマネービルを始めましょうよ〟

たったこのひとことでご家庭に生きくとした財産計画が生れるのです。

日興のマネービルクラブには、2千円からできるいろいろなマネービルコースがあります。資料をご請求の上さっそくお始め下さい。

日興證券

本店 東京・千代田・新丸ビル
兜町営業部 東京・日本橋・兜町

左のマークをハガキにはって、東京・日本橋・日興証券企画部宛お送り下さい。マネービルクラブの詳しい説明書をさしあげます。

（キリトリ線）

172—8·11

ンバー・ワン お顔拝見

岸信介

この顔はちよいと前の三人とは異質だ。「おなじナンバーワンでも不人気ナンバーワンだろう」などと悪口をいってはいけません。なるほど御面相はいただきかねるし、顔付に味もそっけもないから人気はないのも当然かも知れないが、七人の親分衆が互いにハを競う大自民党をまがりなりにも統御して、選挙にも大勝を博させたのであるから、いまのところ日本の男性ナンバーワンであることは間違いない。

いまは「ヘェー、日本の岸でござんす」と欧米諸国に顔つなぎの旅に出ているが、四等国の首相では、さぞ顔の効目も薄く、苦労をしているだろう。

プンプン・レーダー

那須良輔

週刊漫画サンデー

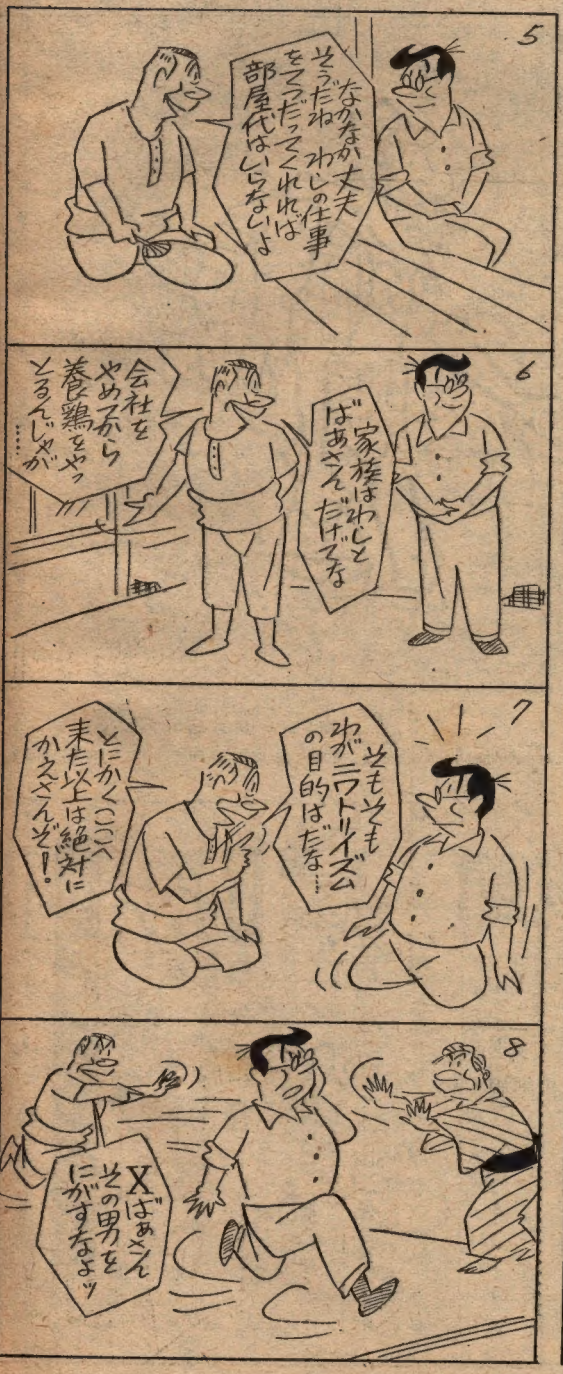
目次・八月二十五日号

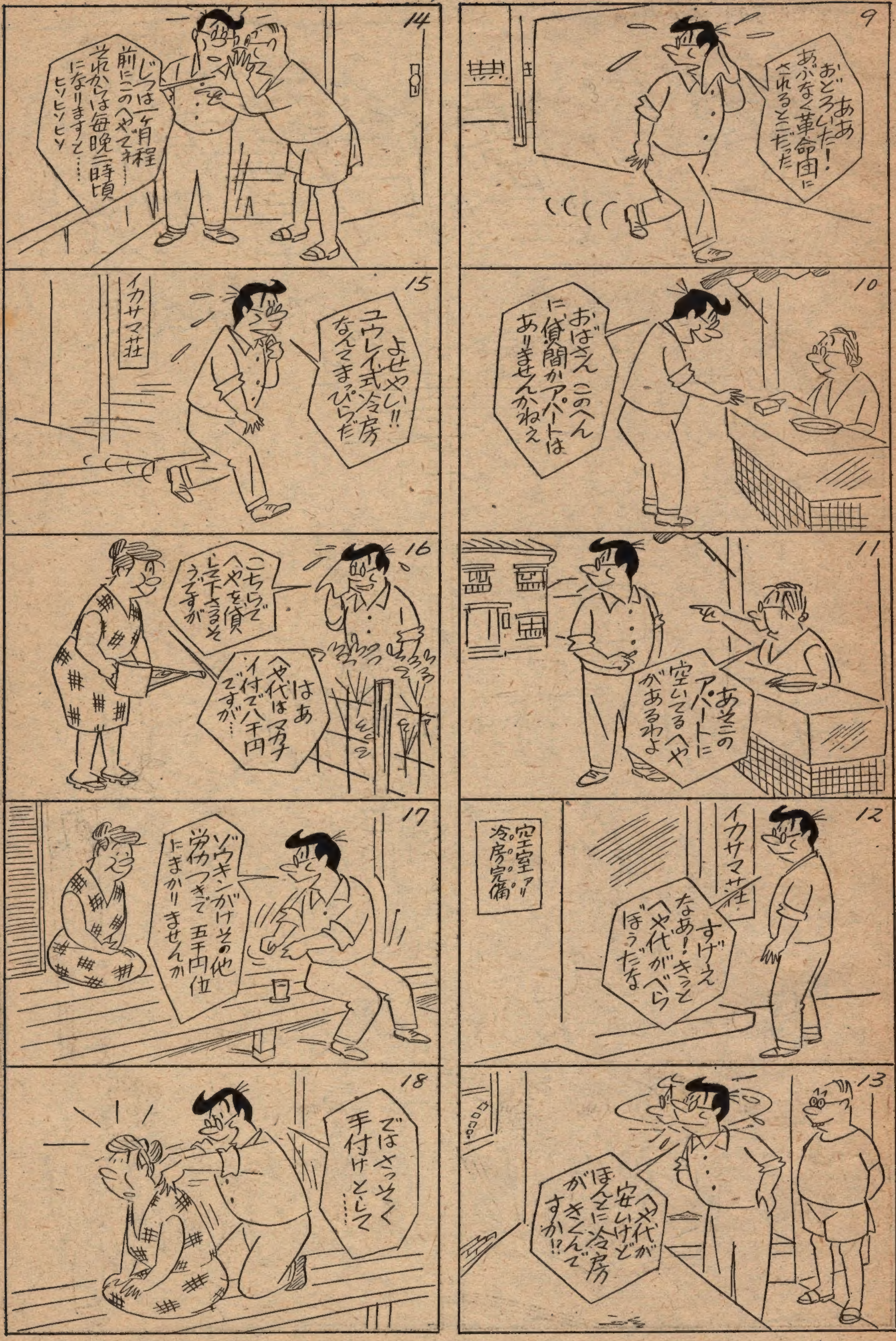
漫画特集 真夏のオリンピック……31
▽イチャモンねえちゃん……杉浦幸雄……55
▽ミスター珍社員……西川辰美……8
▽土堤坊主……清水崑……44
▽日出造似顔漫評……近藤日出造……40
特集 事件記者……12
連載マンガ
忍術時代小説 江戸忍法帖……山田風太郎 栗林正幸画……102
スリラー小説 妖異大士教……高木彬光 永田力画……66
作画傑漫
岡部冬彦・金親堅太郎 石川進介・松下井知夫……22
暑気払い漫画大会……80
まんが太閤記……森熊猛……62
特別読物 二十年間埋れた戦中秘話 浜松大量殺人事件の真相……96
ニュースリラー 事件記者・新成聞太郎特種メモ 白昼お妾殺人事件……48
納涼マンガ
◆三平の身の下相談……60
◆八当りサングラス……70
◆猫の目……52
◆ニュース・コント……50
サンデーフォン 映画……92
テレビ・ラジオ……93
スポーツ……94
歌謡曲……95
富田英三・塩田英二郎・小川哲男 改田昌直・境田昭造・やなせたかし 佐川美代太郎
◉特別レポート
▽米国務省を悩ます「世界一の美女」……72
▽ジェット基地に頑張る八軒の農家……20
▽海外傑作漫画……75
▽小咄・女ありて楽し……46
▽西から東から……61
◉今週の占い……71
◉東京アベックコース……64
◉新人漫画スクール……100
賞金十万円が当るクイズ……65
☆グラビア▽ナンバーワンお顔拝見
表紙・横山隆一

RENSAI MANGA

ミスター珍社員

西川辰美




9
ああ おどろいた! あぶなく革命団にされるとこだった
10
おばさん このへんに貸間かアパートはありませんかねえ
11
あそこのアパートに空いてるへやがあるわよ
12
空室アリ 冷房完備
イカサマ荘
すげえなあ! きっとへや代がべらぼうだな
13
へや代が安いけど ほんとに冷房がきくんですか!?
14
じつは一ヶ月程前にこのへやで縊……それからは毎晩二時頃になりますと……
ヒソヒソヒソ
15
イカサマ荘
よせやい!! ユウレイ式冷房なんてまっぴらだ
16
こちらでへやを貸し下さるそうですが
はあ へや代はマカナイ付で八千円ですが……
17
ゾウキンがけその他労働つきで五千円位にまかりませんか
18
ではさっそく手付けとして……

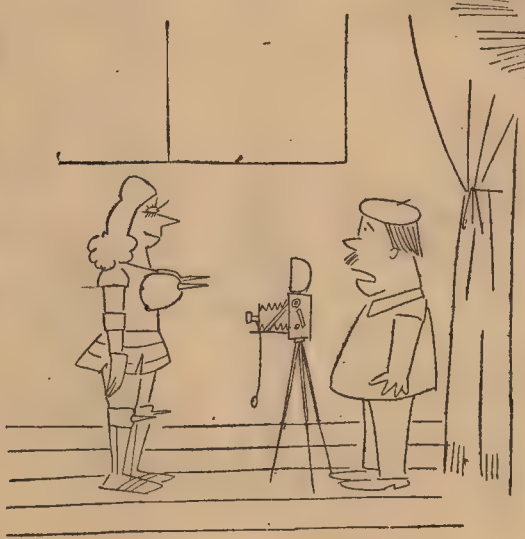
漫画百景

横山泰三

⇦ああ、これが、カミソリにならずにいられますか

⇦「そりゃあ、表紙にするのは顔だけだがね」

⇨荷物をお持ちしましょう



特集

事件記者

"現代の英雄"のせせびと悲しみ……

事件記者はスーパーマンか!!

〝事件記者のホームグランド・警視庁

事件記者の目の光る〝夜回り〟

テレビをみても、ラジオをきいても、映画をみても、小説をよんでも、世はまさに『ブンヤ』（新聞記者）時代。中でも花形は事件記者だ。単身ギャングの巣クツに乗りこんで大乱闘したり、捕われの美女を救いだしたり、まるでスーパーマンか月光仮面、こうしなけりゃ、ハナシは面白くならないにはちがいないが、いささかマユツバのお話も多いようだ。そこで、〝この時の寵児〟事件記者をハダカにして、その喜びも悲しみもひっくるめて、その実態をさぐってみよう。先ず事件記者の一日はどのように始まり、どのように終るのか。

ふくろう部隊と縁が深いからという訳でもなかろうが、事件記者のヒノキ舞台は何といっても夜である。彼らの腕のみせどころも、また夜なので

ある。だから彼らの活躍ぶりを夜の部からのぞくとしよう。

警視庁も六時ごろになれば、よほど忙しいところは別だが、どこの係りも宿直者を残して皆ひきあげてしまう。いつまで記者クラブでごろごろしていても、〝突発〟を警戒する以外、ケンカの相手がいないようなもので、話にならない。そこでいよいよ、事件記者の独壇場ともいうべき〝夜の部〟の開幕となる。

夜の部の演しもの、呼びものはまず「夜回り」というところだ。担当記者が昼間、いくら「廊下トンビ」をしても、警察の課長、係長など幹部は、こと新聞記者をイナすことにかけては、ひところの政治屋さんよりぐっと上手。ノラリ、クラリのこんにゃく問答で、カンジンなところではスルリと逃げる。第一線でジカに難事件と取りくんでいる主任以下の刑事たち――事件記者用語では〝ヘヤの連中〟――は、昼間は外へ捜査に出ていたり、警視庁地下の調べ室で、容疑者相手に新刑事訴訟法という名の〝インギン無礼くらべ〟をやっていたりで、なかなか捕えるのはむずかしい。

たとえうまくトイレの〝つれション〟などで相手をつかまえても「捜査の機密維持」はデカさんたの金科玉条。同僚や上司の目、口、耳がいたるところにある役所の中で、だいじなことをしゃべってくれるハズもない。そこで、捜査官が夜自宅へ帰り、いまならまず一風呂あびて、湯上りにユカタがけ、ビールの一ぱいもやって〝公人〟が〝私人〟に帰ったところをネラウのが「夜回り」だ。役所では「気はむずかしくて、仕事持ち」新聞記者泣かせの鬼刑事も、ウチへ帰ればタダの「おトウちゃん」。そこをうまくつけば、さしも固い口もホグレて、思わぬ特ダネの一つもころげこむ、という寸法だ。

「なんだ、そんなことか」と思う人もあるかもしれないが、そこらの古本屋で売っている社員名簿でも見て、新薬の見本など送るのとはワケがちがう。捜査員の住所は、いろいろの間違いをさけるため、原則として「部外秘」――自分の住所はもちろん、同僚の住所だってなかなか素直に教えてくれるデカさんなどいない。ここに事件記者の第一の難関「ヤサわり」（住所調べ）の苦労があるわけだ。庶務のお巡りさんをダマクラかして聞き出したり、あるいは年賀状、暑中見舞を何百枚も出したり……。

最近は新聞記者の世界にも合理の精神が入ってきたからまだいい。先輩が苦心してまとめた住所録を新らしく持場についた新人は、ソックリ教えて貰える。あとは自分でこれに補足してより完全なブラックリストをつくり、後輩に伝えていけばいいわけだ。数年前までは「社のニュース・ソースではない。オレのニュース・ソースだ」といって、自分のつきとめた刑事の住所など、ぜったいに人には教えない昔カタギの事件記者が多かったものだ。その頃は新米の記者は、刑事はおろか部長、課長の家まで自分で調べ出さねばならなかった。

そのかわり、自分で苦心してつきとめた「アナ」は、実に大切に育てたものだ。その気の入れ方は、先輩から教わった住所だけ回っておく、近ごろのブショウな新人たちには、ちょっと想像もつかないほどだ。

テキの家の前でハチ合わせ

住所が分って、さてそれからが大変だ。例えば、警察には官舎というものがある。部長、課長クラスともなれば、全部が官舎ずまい。ところがこの官舎というもの、実にみなよく似ている。馴れた者でもウッカリするとまちがうくらいに……。二年ほど前、こんな話があった。

B社の、I君としておこう。ある殺人事件が大づめに近づき、デスクから刑事部長に最後のダメ押しをするように命ぜられた「よっしゃ」気軽にとび出したI君、社旗をひるがえして、H町の官舎街へ。もう十二時を回っている……。

「通いなれるとの道は……」とハナ歌まじり、刑事部長官舎のベルを押して、待つことしばし、寝巻姿で起きてきたご主人の顔を見て「ウッ」となった。応接間に通されたI君、殺人事件のことなどオクビにも出さず、それから三十分ほど署長異動の話、婦人警官採用の問題など論じ、こんな話をするのになんでまたこんな時間に――とキツネにつままれたようなこの家人に送られてユウユウ外へ出るや、横っとびに飛んで車にころげこみ「フウッ」――そのしばらく前の異動で官舎が入れかわり前に刑事部長のいた官舎には、警務部長が入ったのを、あわて者のI記者、ウッカリ忘れていたのである。

夜回りに行った先で他社の記者とブツかるのも、まことに具合の悪いものだ。一社がねらうような

刑事は、大ていヨソの社もねらうからテキの家の前でバチ合わせ、こういった光景はしょっ中だ。

——昨年の暮のこと。Kという記者が刑事部のある課長室をおそった。その翌朝、ある団体に手入れ、責任者を逮捕する動きがあり、ウチの特ダネ、というわけで原稿は早々に書き上げてデスクの手元へ置き、最後のダメ押しに課長宅を訪ねたわけだが、時間はもう十二時を回っている。まだ帰らない課長の帰宅を待って車の中で張りこむこと一時間、ようやくヘッドライトが光った。

車から降りて自宅へ入ろうとする課長に、「おそいですなぁ」声をかけようとしたとたん、スッと人影が課長に近づいて話しかけた。なんとB社のT記者。彼もこの夜のK記者の動きに、タダならぬものを見出し、ひそかに後をつけていたものらしい。

「ようT君じゃないか。何だい、いまごろ？　トクダネか」先手をうつと、

「K君こそ何だい。例のヤツ？」

「いや、いや。さにあらず。単なる儀礼的訪問、アソビさ。ニュース・ソースには常に接触せよ。ことほれワンワン……ま、武士のタシナミさ。一緒に入ろう。エンリョするなっ……」

三人三様のハラの探り合い

酔ったふりして相手をケムにまき、疑われないよう相手も一緒に

応接間に入って三人、お互い何食わぬ顔で雑談しながら、実は三人三様のハラの探り合いだ。課長は二人の記者がどのくらい事件を感づいているか、どっちがよけいに知っているか？……　T記者は、Kのヤツ何か書くつもりか、書くとすればどの口だろう？……K記者は、Tはいくらか知ってるのかな、とにかくシラを切って、何とかダメ押しの一言だけは課長からとらねば：

T記者がトイレに立った。トボケきったK記者の演技に、ようやく気を許したらしい。チャンス。

「ところで課長。例の件、ビラ（逮捕令状）はとれましたか？」

「え？……ええ、まぁね」

「すると……あしたの朝？　ガサ（家宅捜索）は？」

「ま、そのつもりですが、いいでしょう、そんなこと。どうせ明日発表しますよ」

——明日発表する、つまり明朝、確実に手入れは行われるわけだ。たった一言だが、この一言を聞くために、事件記者は夜のメも寝ずにかけずり回っているのだ。

きて「これさえありゃあ」でK記者はいつ帰ってもいいのだが、テキもさるもの。帰ろうとするとウイスキーを持ち出してきて、しきりに引きとめる。しゃべってしまった以上、こんどは朝刊締切の午前三時まで、こっちをクギづけにして書かせまい、という「時間ギレ戦法」できたわけだ。

T記者はスッカリ安心したか、いいご機嫌で、彼自身が体験した、と称する大和ナデシコと白人女性との比較論などブッている。時計のハリはどんどん動く。二時……二時十五分……二時半……二時五十分……

もうなんといわれても強引に帰ろう、と決心したとたん、奥から「アナタ、ちょっと……」と令夫人のツルの一声。

「ちょ、ちょっと失礼」奥へ入ろうとする、その隙をとらえ、

「サヨナラッ」

ダットのようにとび出すと車に転げこみ、一番近い公衆電話ボックスへ。

「もしもし、あ、Kですが。さっきの原稿、間ちがいありません。使ってください」

「よし分った。ご苦労さん」

——ボックスを出て腕時計を見る。三時五分前。すべりこみセーフ……。

このバチ合わせがもっとひどくなると、ネコもシャクシも同じ刑事の家に集中して、収拾がつかなくなることだってある。

多久島事件のころ、捜査二課のデカさんでバカに記者仲間に人気のある人がいた。自分の担当している事件についてもカナリの材料をくれるし、他の班でやっている事件もかなり知っていて、彼のいうことはピタリと当る。われもわれもと、二課担当記者が彼の自宅へおしかけて、ついにこの刑事宅には、〝二課長別室〟というアダ名がついた。昼間、二課長の部屋の前でウロウロしていた各社の連中が、深夜ともなると刑事にしては立派な彼の家に集まり始めるからだ。しまいには、みんな行くから夜行ってもダメだ——というわけで、社会部ではあまりやらない政治部モドキの〝朝がけ〟（朝、出勤前に自宅を訪問すること）までやる記者が現れた。

そのうちに、このデカさん、警視庁をやめてしまったので、このテンヤワンヤの夜回り合戦も自然に幕となったが、あとから考えて見ると、この人「どうせじきにやめるんだから」という気持で、気軽にしゃべってくれたものらしい。

つれこんだが、さて困った。最後に課長の一言を聞いて確認しなければ新聞にのせられないし、さりとて競争紙のT君の前で聞くわけにはいかない。締切りにはあと一時間……。

コンのいる「尾行」「張りこみ」

捜査一課とちがって、捜査二課や公安部など知能犯、思想犯相手の捜査では、大手入れの前夜ともなると係官は家へは帰らない。事前に相手方に情報がもれ、逃げられるのを防ぐために手入れに参加する係官は全部、前夜からアジトにカンづめにし、翌早朝、そこから「うち入り」となるわけだ。

この段階になると、もう「夜回り」は通用しない。何軒歩いても「アラ、まだ帰りませんの」…「何ですか役所の方に泊るとか」…「親せきに不幸があって出かけましたが」…ETC。わかりきったウソを奥さん連中から聞かされているうちに、締切り時間はすぎ、朝を迎えてしまう。ここで代って登場するのが刑事顔負けの「尾行」「張りこみ」だ。

例えば、アジトへ向う刑事を尾行してアジトをつきとめようとする。この時、さあこれからアジトへ向いますよ——と広告でもするように、ゾロゾロつながって警視庁の前から車に乗りこむ、といったヘマは、映画やテレビならいざ知らず、本職の刑事ともなれば絶対にしない。一人、二人ずつ、間を置いて別の階段から降り、別の入口から出たり、いったん自宅へ帰って新聞記者を安心させ、それからソッと裏口から抜け出したり…サマザマの手を使う。

数年前の日共九幹部潜行時代のこと。Yというベテラン記者が、昼の間、公安部を回っていて「どうもおかしい」小首をかしげた。課員の出入りがいつもとちがう。〝事件のニオイ〟がする。夕方、警視庁横手に車を置き、張り込んでいると、果して主任がソソクサと階段を降りてきた。

タクシーをとめて乗りこむ。Y記者の車も勿論あとを追う。社旗は外してあるのだが、やはりジャの道はヘビ、S主任は早くも尾けられているのを感づいたか、日本橋辺まで来ると、いきなりタクシーを降り、都電に乗りこんだ。Y記者も間一髪、動き出した都電にとび乗った。こうなればもう仕方がない。「オイ、Sさん、どこへ行く」ピッタリ、そばへ張りついた。「何でもないよ」S主任、トボけていたが、Y記者、ここが天下分け目、S主任のウデを固くかかえこんで離さない。

「はなしてくれ。オイ、無茶するな。本当に何でもないんだったら…オレをクビにする気か」

「クビ?…ああ、クビにしてやる。しゃべらなければ、絶対はなさない」

まわりの乗客は、そろそろ好奇の目を向け出す。S主任、降りてまた別の都電に乗ったり、地下鉄に入ったり、またタクシーに乗ったりするがY記者も必死。ダニのように食いついて離れない。

一時間ほど、日本橋を中心にグルグル回ったあげく、S主任とうとうネをあげた。

「Yさん、あんたには参った。何でも教えるから、ちょっと手を離してくれ。クツのひもがとけちゃったんだ。逃げやしないよ。アジトはそこさ」

「そうか」Y記者、思わず気をゆるめて手をはなしたトタン、S主任、もの凄いスピードで走り出した。力は強くても太っているY記者、かけ足は苦手。たちまちS主任は横丁へとびこんでしまった。

「とにかく、この辺に間ちがいないんだから」Y記者、近くの旅館、料理屋などをシラミつぶしに当り出した。幸いこの近所に、そういった店は少ない。何軒目かに入ったスシ屋で、電話をかけようと奥へ入ると、ノレンにかくれた階段のしたに見なれたS主任のクツ。他に同じような黒グツがずらり。

「アンタには本当に負けたよ」あとでS主任がY記者にカブトをぬいだ。その翌朝の新聞でY記者の新聞だけが、

「きょう日共幹部大手入れ」

五段抜きのスクープで光っていたことはいうまでもない。

殺し三年、面とり八年

この他、あまり世間に知られていない事件記者の仕事に「メンとり」（顔写真さがし）というのがある。殺人や事故の被害者の顔写真が小さく新聞にのる。あれを探してくる仕事だ。

弱い性格と言葉の不自由の悩みを解く新しい療法！

人の気持は十人十色などと古くからいわれています。たしかに楽観的な人、悲観的な人、とさまざまです。そして、それぞれの人がその性格のゆえに人から愛され、社会的に成功もしたり、また反面うとんぜられ、社会的にも日陰の人生を送っていたりするのがこの世の姿ともいえるのです。しかし、このような人の中には、人なみに社会的に活動もしたい、恋もしたい成功もしたいと思いながら、ひそかに、ご自分ひとりが精神的悩みに悩んでいる方がいます。

たとえば、人前や目上の人、異性などと話はおろか、ドキドキしたり赤面するだけで人と会うことを嫌う人。小さな事も苦にして悲観したり劣等感を持ったりする人。ドモリの人。その外、不眠症、神経衰弱、慢性の神経性胃腸病など、薬物や電気療法でも治療困難なこれらの悩みをもった人。こんな方は是非これらの悩みを解決している文部省公認の東京正生学院の精神強化療法を一度はお受けになってはいかがでしょう。

おすすめします。

診査や質問相談は無料で応じてくれますし、説明書は請求すればすぐ送ってくれます。住所は、東京都牛込局区内鶴巻町3の9 財団法人 東京正生学院です。

とにかく、相手は突然の不幸に嘆き悲しんでいる。その〝おとりこみのところ〟へとびこんで行って写真を借りてくるのだから、ハナシは簡単ではない。下手なことをいえば「この野郎、ヒトの不幸につけこんでショーバイする気か」とくる。そういわれればまさにその通りなんだから、一言もない。「殺し三年、面トリ八年」などといわれるユエン。

ある年の夏。荒川放水路に男女の水死体が浮んだ。女は人妻だった。「邪恋を清算」というカタ通りの心中である。女の写真、ということで泊りのB記者は、女の家へ車を走らせた。江東地区の小さな時計屋さんだった。あちこちの軒先に近所の人たちがかたまって、その店の方を見ながらヒソヒソ話をしている。

「どうもこのたびは…」殊勝げに頭を下げて用件を切り出すと、店先に坐った三十男は、乳のみ児を抱いたまま放心したように、宙をみつめたきり。何もいわない。「あの、奥さんの写真がありましたら」重ねて催促すると、この哀れなコキュ氏、（妻を寝とられた男）「たくさんです。ほんとにもう、いいです」

あとは黙って赤ん坊をゆすっている。記者は黙って家を出た。

タフで聞えたB君が、あとで酔ってはくり返していた。

「なぁ、人間じゃないよ。女房に他の男と死なれた男のところへ行って、奥さんの写真ください、なんて…ケッ、おれはシタをかみきりたくなったよ。…だけどさ、あの女房は田舎の女で東京に写真のありそうなところって、亭主のウチしかなかったんだよ。新聞記者だもの仕方ないよな。ほんとに仕方ないよ…」

この他、香でんを包み、焼香して貰ってくる「正統派」…葬式用に写真を大きくのばしてやる、といって借りてくる「エビタイ型」…。

交番の白自転車などを借りて乗りつけ、何気なく頂だいしてくる「ハッタリ型」など…一枚の顔写真をめぐっての、事件記者の悲喜劇はつきない。

真昼の事件記者

このように事件記者の腕のみせどころは夜の部だが、だといって昼間はのんびり遊んでいるわけではない。昼間も追いつ追われつのスクープ戦がつづく。それには先ず事件記者の本城、記者クラブをのぞいてみよう。

東京・桜田門。おホリに面した鉄筋五階だての警視庁ビル。四六時中、制服警官が立番していて、一般の人にはちょっと近よりにくい正面玄関を入って、つき当りの階段をトントンと二階へ。上ったら左手の廊下をずっと歩いていくと、右側に「七社会」というフダの出ている大部屋がある。

これが「事件記者」――つまり「社会部警視庁担当記者」の本城だ。あわて者は「ナナカイシャ」と読んだり「シチシャカイ」といったりするが、正式には「ナナシャカイ」朝日、毎日、読売、共同、日経、東京、時事の七社が集まって作った記者クラブ、という意味。先だって時事が廃刊になったので現在は六社しかない。ほかに三階にもNHK、産経、東タイなどの「警視庁記者クラブ」もあり、時事がなくなった時は、そのあとガマをねらって猛烈な運動があったようだが、アチラ立てればコチラが立たず…で結局、補充はせず六社のままになっている。

この六社が五十坪ほどの大部屋の半分を、六畳くらいずつ六つに仕切って使っている。ウナギの寝床のようなセマ苦しいところにソファーベッドを入れ、机が三つ四つ、イスが五、六脚、丸テーブルが一つ。整理戸ダナや本立、黒板などが雑然と置かれ、机の上にはジリジリと回せばすぐ社会部のデスク（次長）が出る専用電話とツウの電話が二本。警視庁関係ならどこでもすぐつながる警察電話が一本。それにラジオ、テレビにすぐニュースを知らせてやれるように、その係との直通電話を引いている社もある。

ここで、各社ともキャップ（主任）の下に八、九人の粒よりの〝事件屋〟が、社会部の、いわば前線本部を守っているわけだ。

これから彼らの昼間の活躍ぶりを、公安部担当のA君の日記を追ってのぞいてみよう。

七月二十七日。

▽午前九時三十分――家を出ようとしている時、クラブのS記者から電話。池袋の人世坐労組の手入れだ、という。タクシーを拾って警視庁へ。

▽午前九時五十分――クラブ到着。S記者、泊り明けでネムそうな顔をしている。暴行傷害などで労組員七人が捕まったそうだ。池袋署の次長に電話して、大体のリンカクを聞く。そこへキャップも出勤してくる。事情を簡単に報告、夕刊一版はS記者の送稿してくれた第一報です

ませ、四階公安部へかけ上る。

▽午前十時二十分――公安部公安二課のH係長、S主任警部、K主任らから手入れの様子、事件の詳細を聞き出し、池袋署の話と合せて取りかえ記事を書き、「お使いさん」（原稿はこびのオートバイ）を呼んで社へ送る。

▽午前十一時――公安二課長に会いに行くが来客中で会えず。公安一課三係へ行く。H係長、I警部らに「ヤァ、ヤァ」一時間ほどダベるが大した話は出ない。

▽午後一時――公安、警備とも動きなく。クラブに降りて雑談。関係記事のスクラップをつくる。

▽午後一時半――念のため、公安二課へもう一度電話してみる。朝の手入れで捕らなかった委員長を、たったいま逮捕した、という。すぐデスクへ連絡。夕刊三版からウチは「委員長ら八人逮捕」と入った。あとで他社の夕刊を見たら「副委員長ら七人逮捕」みんな同じ。ささやかながら、わが社の特ダネになった。

▽午後二時――Cデスクから電話。朝刊担当だが、きょうはアナがあきそうなので何かないかとの催促。公安、警備関係はきょう記事になるものはないの

で、防犯部をブラブラ回る。この日はシケ。どこの部屋へ行っても、口をあけてセンスでバタバタ。こう暑くてはネェ：：。防犯課のT警部のところで、二、三日うちには記事になりそうな話を二つほど聞き出す。

▽午後二時五十分――クラブにおり、N記者とスシをとって昼食。消防庁直通のスピーカーが「中野区文園町の火災は、六十坪ていどにて延焼防止」とがナる。「六十坪か：：もう入らんな」ユウユウとスシを食いつづけていると、続けてスピーカーが「なお、この火事で焼死者二名ある模様」――とたんに二人、ハシをおっぽり出して電話へ。S記者、B記者も「オイ、ヤキトリ（焼死者）二人だって」血相変えてとびこんでくる。五分間で火もとと焼死者の名前、年令を聞き出して送稿。夕刊は間に合った。

▽午後三時四十分――公安三課長室へ、来客中。仕方がない。腰を据えて待つ。課長別室からクラブへ連絡すると、デスクから朝刊早版用に人生坐の件、書きかえてくれと電話があった、という。中野の火事以上に大ごとらしく現場のN君からのSOSでS記者が応援にとび出したそうだ。

▽午後四時――ようやく課長に会える。北鮮帰還にからむ朝鮮人の動き。外人登録の話。麻薬の話。等々：：。

▽午後四時四十分――雑誌の婦人記者が来て、社旗にまつわる話を聞きたい、という。Cデスクの紹介。いろいろ雑談する。ウラ若き婦人記者、ハナの頭にア心セを浮べて一生けん命、こっちの話を速記でとっている。女の子はトクだ。日ごろ不愛想なB記者まで、進んでコンセッテイネイに説明する。

▽午後五時――麻薬係へ借りた写真を返しに行く。

帰り、公安部のNデカ長（部長刑事）と廊下で立ち話。「なんか、ええネタないかね」逆に聞かれた。古ダヌキめ！

▽午後五時半――退庁時間のベルが鳴る。泊りのT記者が出勤してくる。人世坐の取りかえ原稿、書いて送る。

妻子に弱い男たち

時の男たち、事件記者の一日はざっとこんな具合だ。午前二時、三時までかけ回り、社の車に送られて帰って、翌朝はまたすぐ飛び出す毎日がつづく。しかも捜査本部でもできたら、三日や四日帰らないことなどザラ、という事件記者の家庭は、およそ世間の常識からは遠い。

大きな事件が始まると女房を実家へ帰してしまう男：：。いつも女房に「三日くらい帰らなくても心配するな。一週間たっても連絡がなかったら、クラブへ電話しろといっている男：：。三つの坊やに「カイチャ、キライ。パパ、いつもバイバイって：：」と泣かれた、防犯課のT警部のところで、二、三日うちには記事になりそうな話を二つほど聞き出す。

七月のある日曜日。A社の捜査一課担当のX記者が、二カ月ぶりの休日を子供にせがまれて、親子三人、全く珍らしい動物園行きを〝決行〟した。たまの休み、ほんとはゆっくり寝たいのだが、いつも淋しい思いをさせている妻子のために、思い切って重い腰をあげたX君には、世のパパさんたちには何でもない、このささやかなレクリエーションも「快行」といいたいものだったのだ。

ゾウのおりの前で、子供にセンベイを投げさせていると、後からポンとかたをたたかれた。振り返ると、同じ一課担当のB社のY記者だった。女の赤ちゃんをだいたY君の後ろで、六つ位の坊やの手を引いた奥さんが腰をかがめた。

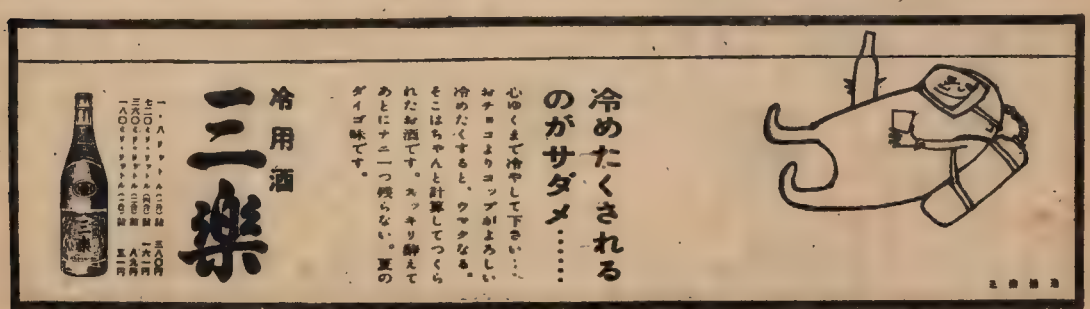
「君もか」

「ウン：：子供にせがまれて」

――日ごろはカタキ同志。荒川の通り魔、スチュワーデス殺し、玉川の投げヤリ殺人：：続けざまの〝凶悪犯罪ブーム〟に疲きつ抜かれつ日ごろは現場で合っても口もきかない二人が、この時はなんともいえない感情にせまられて、しばらくモノもいえずに立ちつくしていたという。

こんな暮しをしている事件記者の「救い」は、やはり書くこと、そして抜く（特ダネをとる）ことだ。どんなヘソ曲りでも自分の記事のスクラップはちゃんと作っている。

お角力さんが負けた勝負のことは、口にしないのとおなじで、事件記者も酔えば口をついて出るのは、輝かしい特ダネの思い出ばかり。抜かれた事件のことはメッタに口に出さない。スポーツとか何とかいうけれど、そんなものではない。みんな、新聞それ自体が、好きで好きでたまらない連中ばかりだからこそ、この、ハタから見たらおそらくコッケイな長距離レースを、別に不平もいわずに走りつづけているのである。

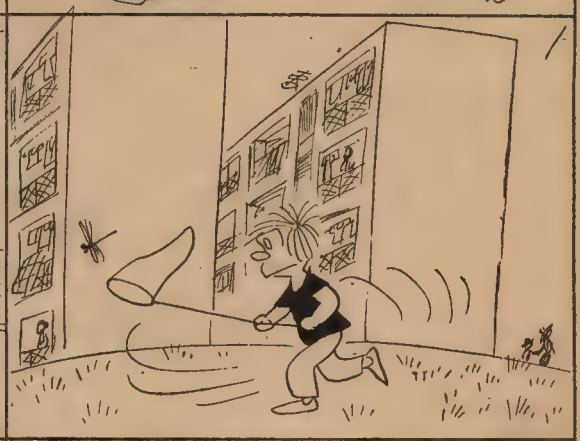


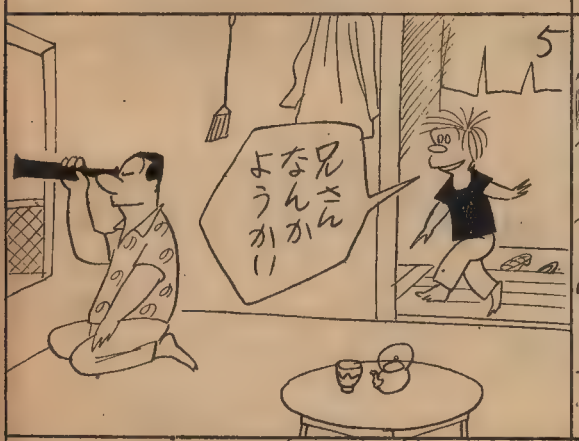
RENSAI

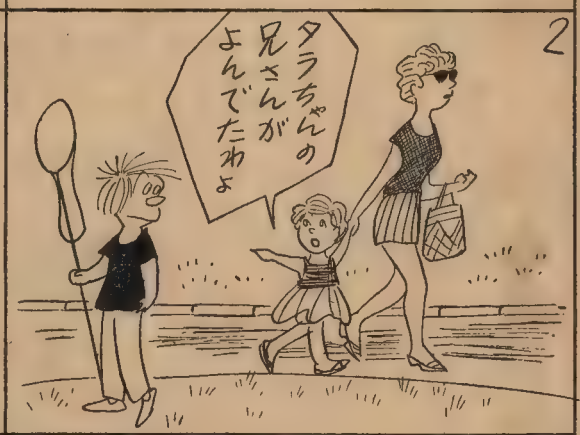
デコボコダンチ 凸凸団地

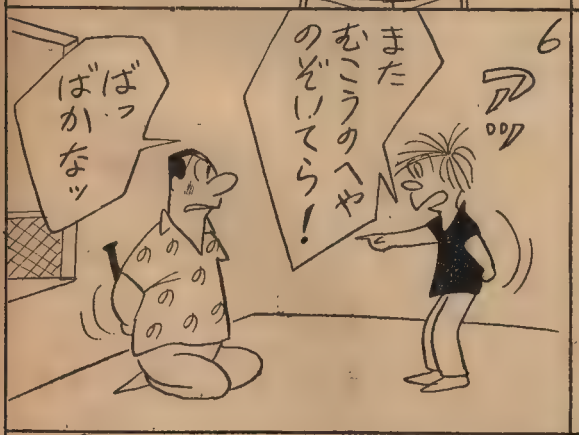
NO. 1

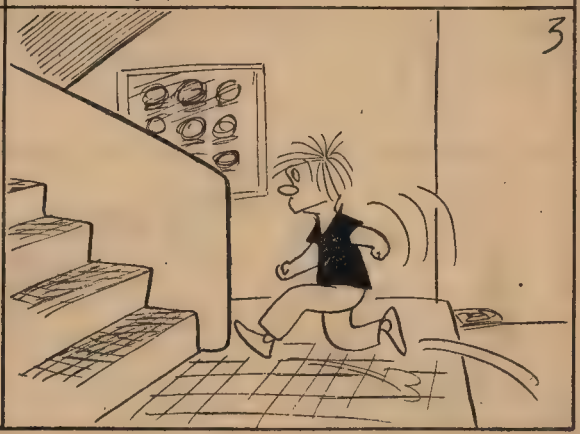
秋好馨

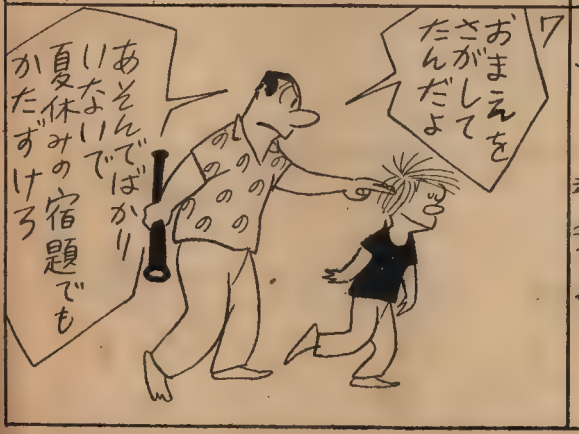












8
とかなんとかうまくごまかしてら
9
ここんとこわかんないよスケダチたのむ
うるさいいまめしのしたくだ
10
さてめしはたけたがおかずがないなあ……
11
ひとっぱしりなんかかってきてくれや
しょうせいもっかたぼうでありますよ
12
ならいいよたのまないよ
13
アッまたのぞいてる
14
こどものくせにツベコベいうな
おぜんをもっとこっちへよせろ
?
15
むこうのおかずでけっこうめしがくえる

ニュース・ストーリー

ジェット基地に頑張る八軒の農家

茨城県百里基地の紛争

防衛庁への挑戦

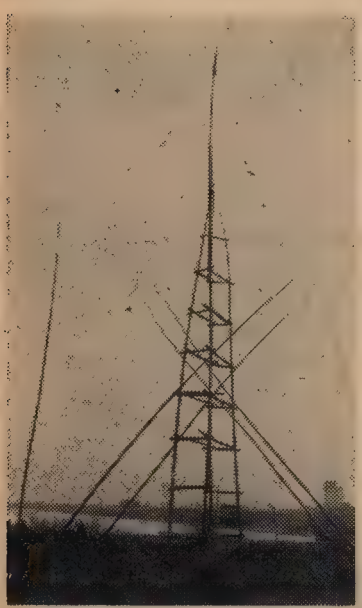
滑走路の真只中に新築中の倉田さんの家

基地反対の女町長、山西きよさんのリコール問題で話題をまいた、茨城県東茨城郡小川町で、いま工事を進めている自衛隊百里ジェット基地の誘導路は、八月末までに完成し、あとは滑走路工事を残すだけとなるが、基地予定地と、その周辺の基地反対農民は、近ごろまた活発な動きをみせはじめた。いままでにできあがった基地施設で、八月一日から練習機とヘリコプターの飛行訓練を行えという陸幕長命令がでて、七月十四日、訓練開始の発表と同時にヘリコプターだけが飛んだ。

「基地はまだ完成しないし、予定地内に頑張っている農民もいるのに、これを押して飛ばすならできる限り抵抗する。ジェット機だけは絶対に飛ばせない」ともいった基地反対の前女町長山西きよさんが、この二月リコールされてから半年、婦人や青年の支持で反対運動はさらに根強くなってきた。

基地予定地と、その周辺の反対農民たちで組織する基地反対期成同盟では、反対農家の各戸に赤旗と『防衛庁関係者立入禁止』の立札をたてた。基地予定地内の町道には赤旗の竹ザオをさし、基地工事で倒されるとすかさず工事監督官事務所に抗議し、事務所のガラス窓、天井、あるいはコントロール・タワーに基地反対のビラをべたべたはりつけ、ときには技官をかつぎ出して格納庫近くでとりかこみ、吊しあげる。工事で農道にミゾが掘られると、支援団体の応援でシャベルを手に夜襲し、ミゾ埋め作業をするといった具合。こんなとき、工事を請負っている西松建設の作業員らとの間に衝突寸前の不穏な空気となる。しかし待機していた警察官が出動する寸前には、農民たちはさっさと引揚げて行く。

実にうまくなったと石岡署幹部がぼやくほどだ。



青年たちが立てた誘導路西端のヤグラ（向って右が格納庫）

十五メートルの竹のヤグラ

この男たちの後にいて、何かと力づけているのが〝反対主婦〟だ。基地反対婦人部に入っている婦人で、動員をかければいつまでも二百人出動できるという。宮内氏が新町長に就任した直後、連日波状的に町長を訪れ、町役場や町長宅に座り込んで基地工事の中止を訴えた。婦人たちは、

「飛行機が飛ぶと思うと、夜もおちおち眠っていられない」「どうしても基地ができるのでしょうか」「町長さんたのみます」など涙声が場内にあふれ、単なるいやがらせとは思えないような真剣な空気がみなぎった。県内の那珂湊市民が米軍爆撃演習場の返還運動をくりひろげると、婦人たちは自費でバス四台を借切り、同市民の応援に出かけた。

つい先日には反対運動に忙しい

農家や青年幹部宅に四人、九人と出かけ、援農して反対運動による農作業のおくれをとりもどした。

婦人たちの活動にバックされて、当局や防衛庁にくいさがっているのが、青年同志会の青年たちだ。総勢二百五十人、青年行動隊のような役割を果し、少くとも五十人はいつでも出動できる態勢にあるそうだ。五月中ごろと六月末には「基地予定地内の町道三号線はわれわれのものだ」と、誘導路予定地の西端に竹ザオでヤグラを建てた。高さ十五メートルで突端に赤旗をつけた。このようなヤグラを基地施設わきの防風林、基地反対期成同盟委員長信戸智利雄氏宅など五ヵ所に建て、有線放送施設に使いたいと青年たちはいう。防衛庁工事事務所の監督官が「防衛庁の管理する土地だから立入ってはならない」と警告文書を渡そうとしたが文書を払いのけて監督官を追い返した。

基地工事の中止を陳情する反対主婦――中央の椅子にいるのが宮内町長

基地闘争 夏の陣

また、滑走路予定地の下真中に七月末、倉田勝男さんが新築家屋のむね上げしたときなども、青年たちの力がものをいった。こんなとき同盟と同窓会が一体となって当るが、高いところでの危険な作業は青年たちがかってでる。百里基地建設がどんなに進んでも長年いだいてきた夢はすてないと、倉田さんは決意のほどを語っていた。

開拓農民は家の新築が日常生活の目標になっている。それがいまでは基地問題をめぐり、小川町の平和と全国民の幸福につながっているというのだ。若い人たちは百里基地対策委員会や町議会でも、傍聴席から基地賛成派の委員や町議にくいさがり、宮内町長に質問をあびせる。基地問題がでるときには、必らず顔を出す青年同志会長松原日出男氏は、

「賛成派ではおれたちが支援団体にそそのかされているといっているようだが、とんでもない。もしジェット機が飛べば、騒音だけでもひどい。事故もあるし、農作物の被害も大きい。あきらめの生活はしたくない。ひところのようにがむしゃらに体当りするような青年はいなくなったが、基地反対の気持は少しも変っていない。真面目にものを考えるようになり、団結はかたくなった」と説明している。事実、工事中の基地施設におしかけても、はげしい語調で作業員とどなり合うことはあるが、暴力をふるうようなことはほとんどない。

しかし青年は反対運動の推進力であると同時に一家の原動力でもある。苦しい問題もかかえている。「基地に反対してもいいから、仕事だけは欠かさないでくれ」とこぼす親もいる。リコール投票前までは基地反対の会議というと、ほとんど壮年層や老人が顔を出して青年たちをあまり出したがらなかったものだ。ところがその後、青年たちは「山西さんに頼りすぎてはいなかったか」と自覚し、オヤジ連中をさしおいて会議を開くようになった。

「農作業を改善して、なるべく暇をつくろうとするがなかなか出られない。農閑期に入っても農作物の種類によって仕事は山ほどあるのだから……」と悩む青年も多い。しかし練習機が飛ぶ予定だった去る一日には、原水爆禁止の大会が水戸にあって、反対農民が分散したにもかかわらず、青年や婦人たち約百人が監督官宿舎におしかけ抗議した。半分くらいを予想していた防衛庁関係者もちょっと戸惑ったほどだ。

防衛庁では町当局とはトントン拍子に話をすすめているものの、滑走路予定地にがんばる反対農家八戸がさっぱり説得に応じないため、七月末遂に滑走路の測量をはじめた。

工事関係者は測量結果を防衛庁幹部に報告して決断をあおぐ腹らしい。基地賛成派町民は町政刷新連盟を解散して協和会を結成し、防衛庁と町当局の一連の動きに協力態勢を固めている。八月中には七月十四日以来中止しているヘリコプターとともに練習機の発着訓練がはじまる。基地建設をめぐる両派では、九月末までを基地闘争夏の陣と呼んでいる。

反対農民の闘志をもやしたヘリコプターの発着訓練

昔むかし、お巡りさんがありました……

岡部冬彦

「だって、あんたがムリに開けろっていうからですよ」

⇦「エート、鬼ガ島ってどこにあるんだろう……」

夏のアララカルチヨ　やなせたかし

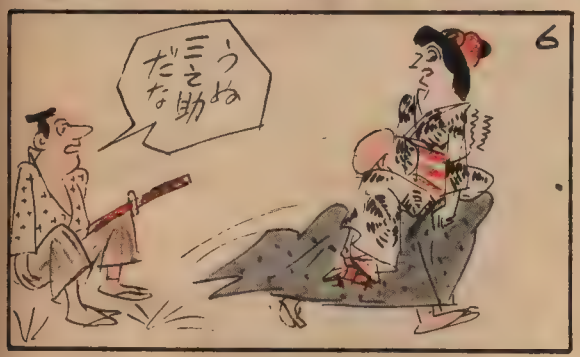
服をきてからつきあうわの巻

雲の上もエロばやりの巻

もも切り犯人の巻

俺たちゃライバルだ！

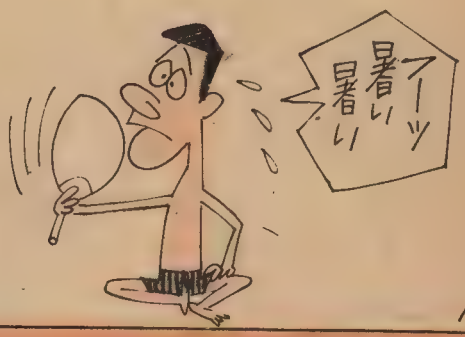
小島功

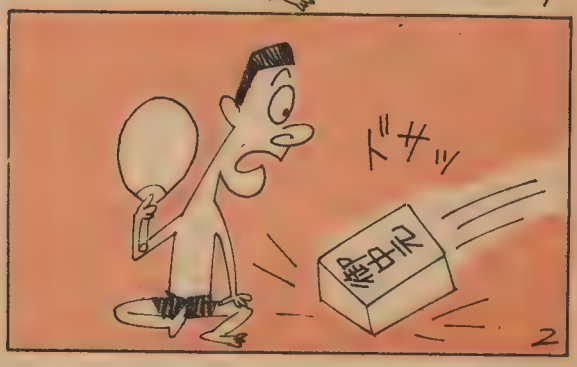


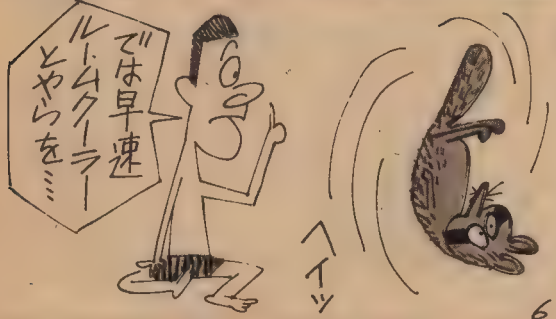
9
残念でした満員でございます。
あっ七之亟め！
10
私もうこんなのいやよ！
ええっ！そなたがふったら
11
拙者は切腹いたす
12
介錯はひきうけた！
13
お二人ともやめて！きらいよ！
14
今夜のところは素直に帰って
彼女の夢でもみながら寝ましよ
15
ならんぞ！
勝手じゃ
ゆかるさん
16
よしジャンケンで眞二ッ！
17
18

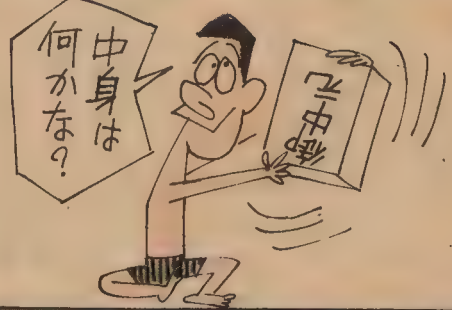
ユルフン太平記

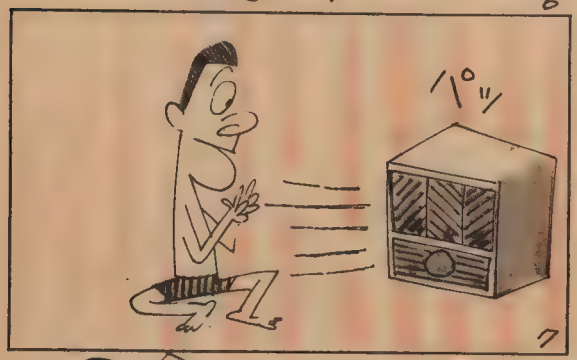
佐藤六朗

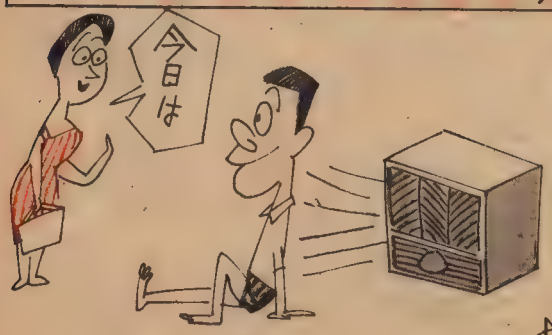




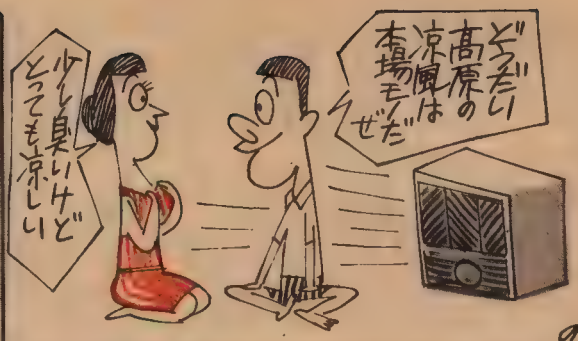






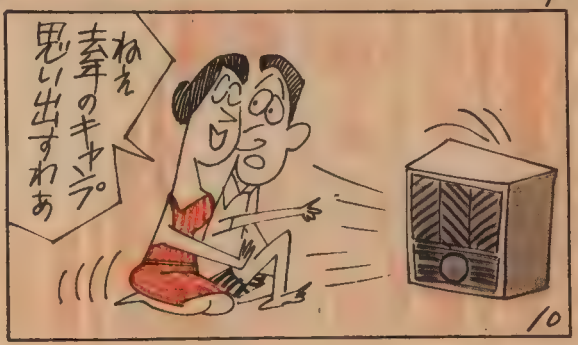


14

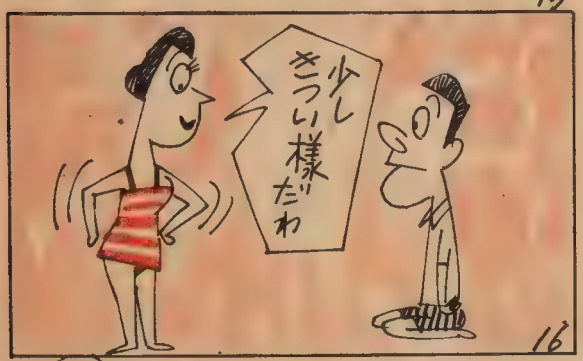


9

15



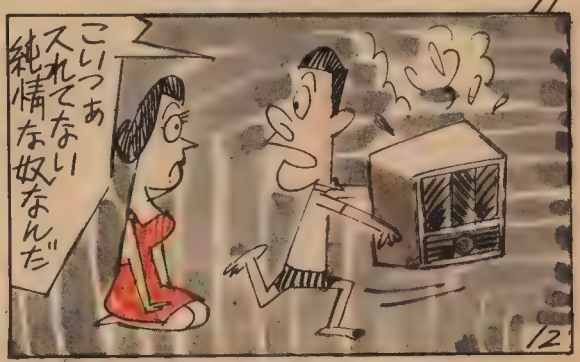
10



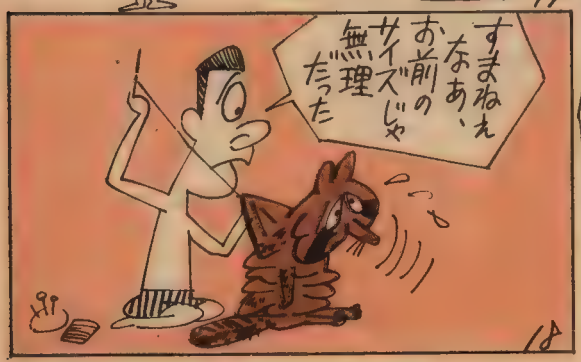
16

11

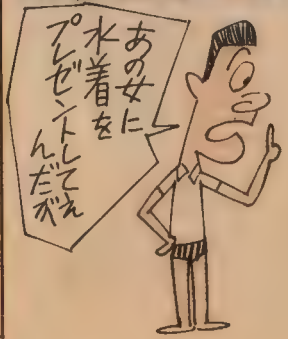
17



12



18



13

No.1 まゆつば旅行記

服部みちを

9
こんなに金があってどうして
あんたはこの国の苦しみをご存知ない
10
やい手を上げろ！
11
金を受けとれ
ポン
12
この国は一文なしがブルジョアなんです
へー
13
そんなら燃やしちまえば安心さ
14
どうもピントこない
バレたらすごい罰金がもらえるんですぜ
15
ウ～
まてっ
バレタ～
パトロール
16
警察署
17
だいたいいくらぐらい燃しましたか
いやホンノ二三千円です
18
さー！正直に白状しろ
おさつのゴーモンとはひどい

とんだトバッチリ

小川哲男

アリの水害対策

「おおい、洪水がくるぞーっ」

蝿とりリボン

「え、球だって、見なかったなあ」

漫画特集

真夏のオリンピック

森吉正照　アヤタクニオ

小林治雄　吉田幸夫

近代三種競技

特集・真夏のオリンピック

⇦ 買う （その一）

「いそがしい……」

⇨ うつ

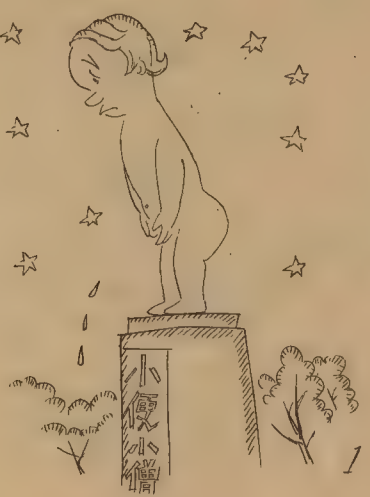
下手な鉄砲も
かずうちゃあたる

特集・真夏のオリンピック

ミス・オリンピック
フランス代表

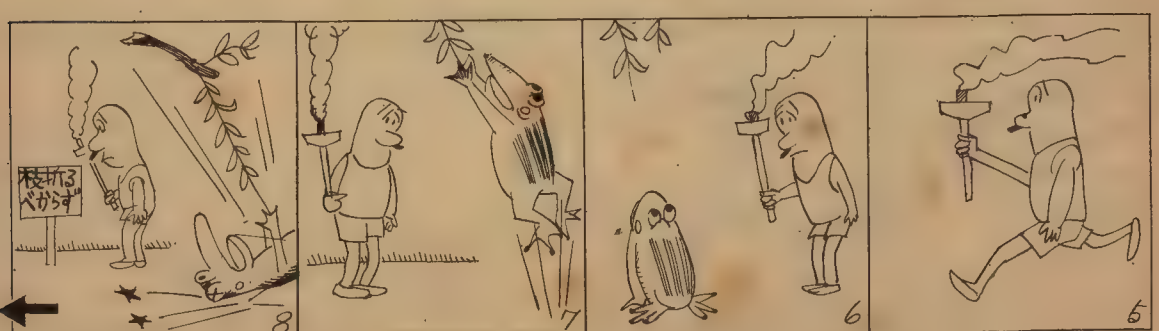
⇧買う（その二）

今年は赤痢大流行



飲む

暑い夜

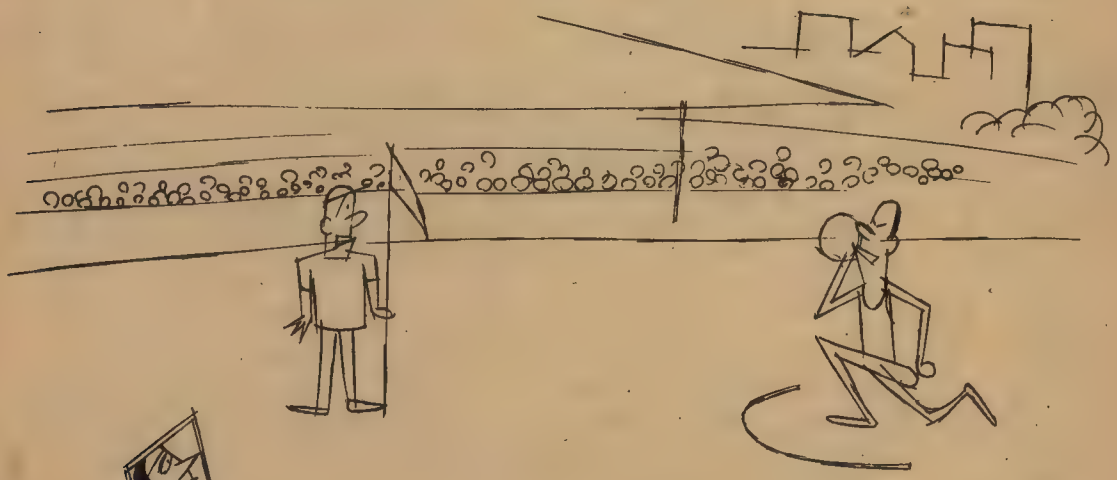


特集・真夏のオリンピック

ミス・オリンピック
アフリカ
ピグミイ族代表

⇩ 重量挙

夏の新アルバイト
……モモ切り魔から
守る“持ち上げ屋”



⇧ 砲丸投

特集・真夏のオリンピック

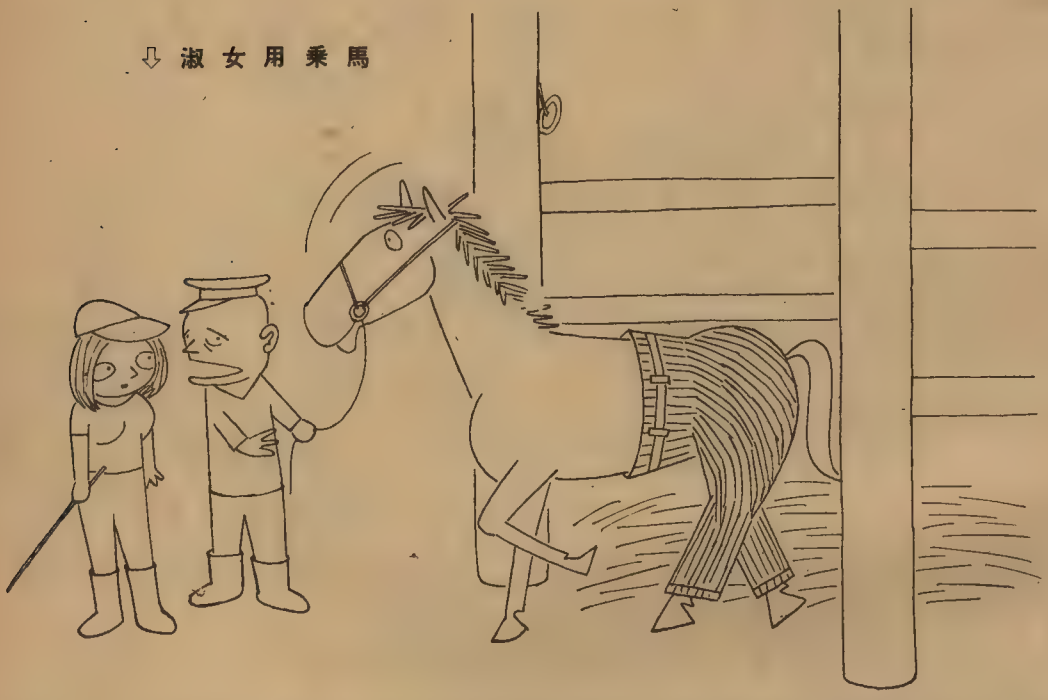
ミス・オリンピック

ソ連代表

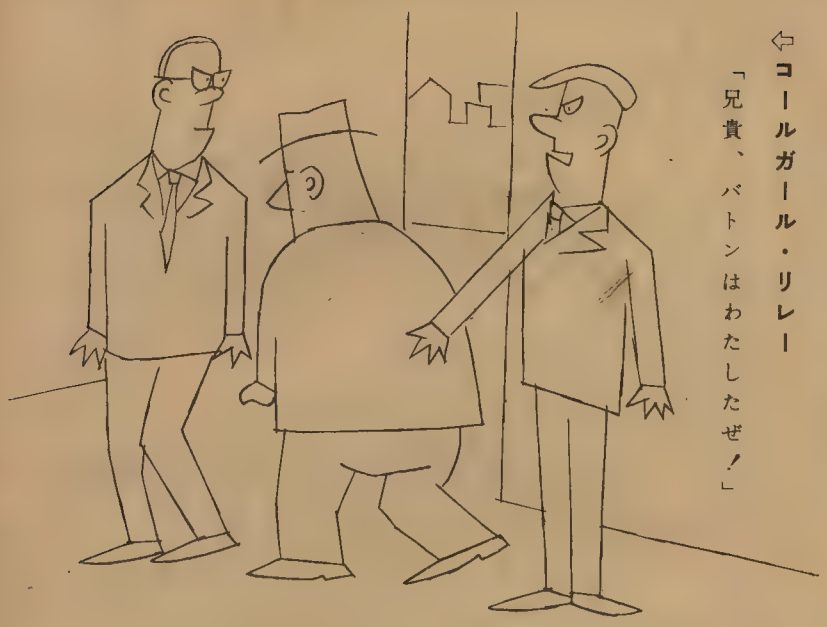
⇧棒高跳

「ガンバッテー！」

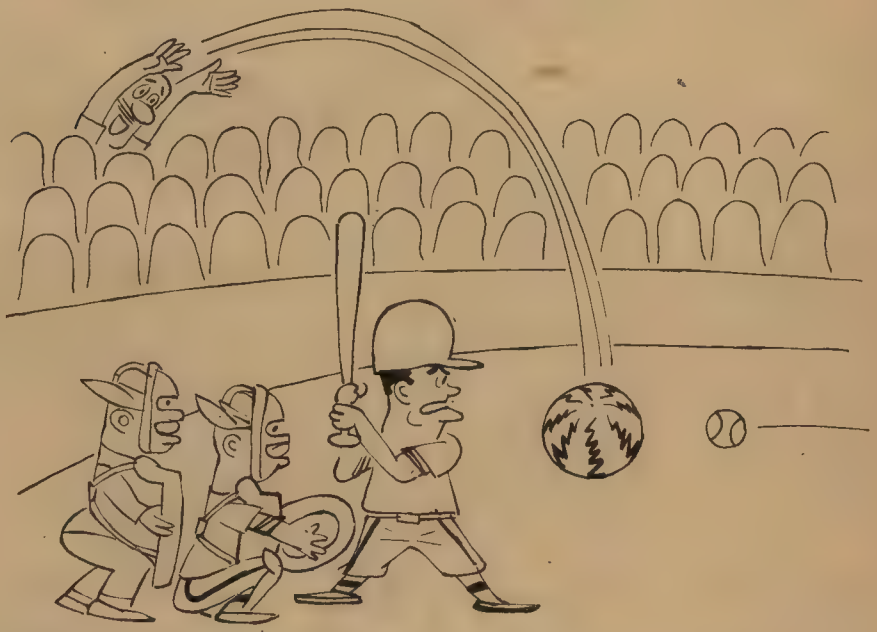
⇩淑女用乗馬



特集・真夏のオリンピック



⇦コールガール・リレー
「兄貴、バトンはわたしたぜ！」



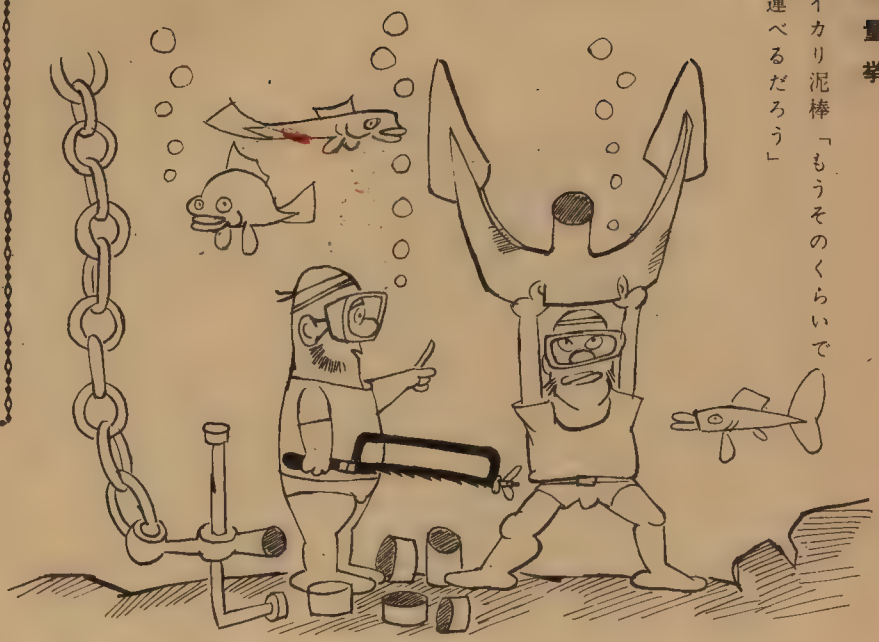
⇨砲丸投
「おーい、ナガシマー！
レフト・スタンドへ打ちこんでくれー」

特集・真夏のオリンピック

ミス・オリンピック
イギリス代表

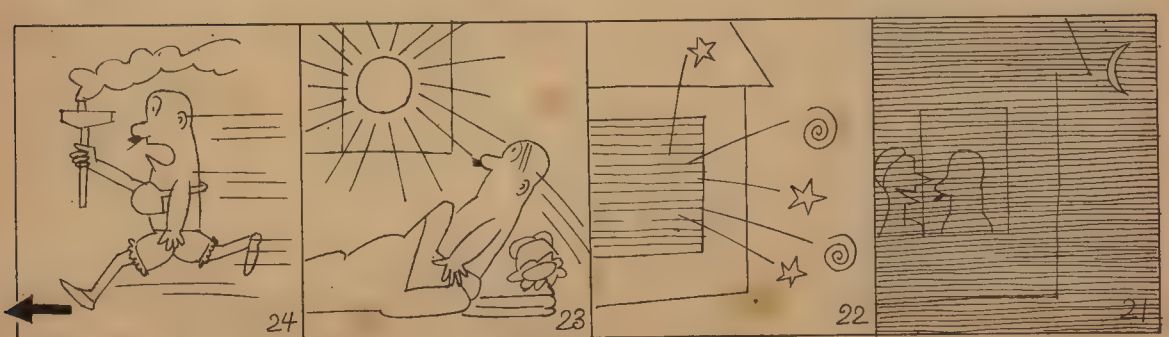
⇦重量挙

イカリ泥棒「もうそのくらいで運べるだろう」



⇦水泳

世界新の表彰台
「きみイ、ジャマだな、どいてよ」



特集・真夏のオリンピック

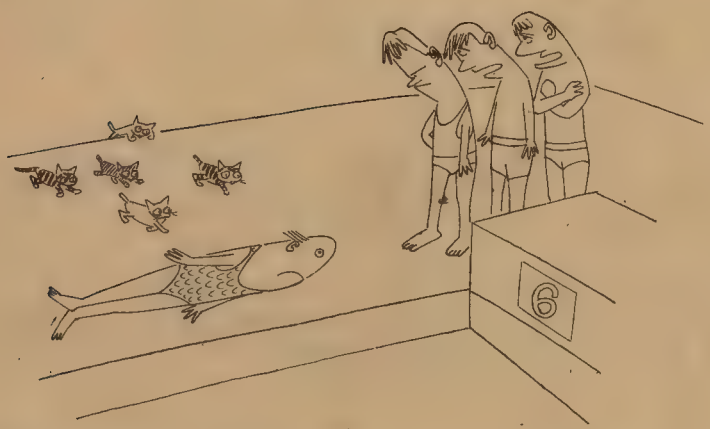
ミス・オリンピック
アメリカ代表

⇦ 走巾跳

「起居寝食ハミに」

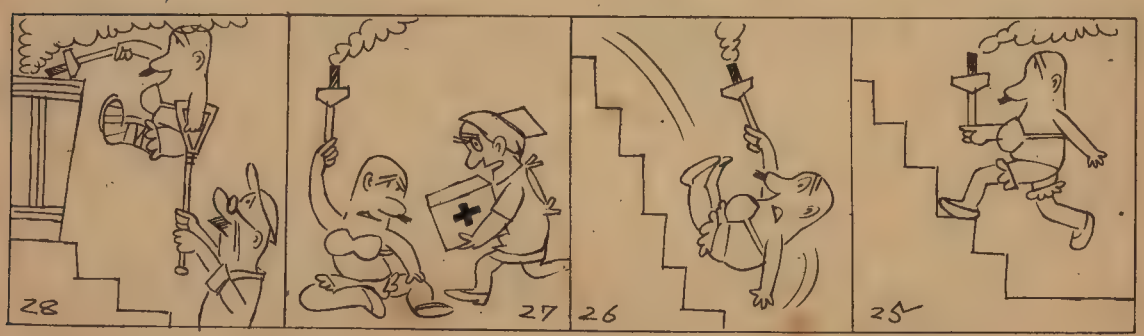
⇨ 器械体操

「油をさしてトレーニングなさい」



⇦ 水泳

「サカナになりきるんだ見たまえネコがよってくる」



お暑いです！

石川進介

⇩ 年頃

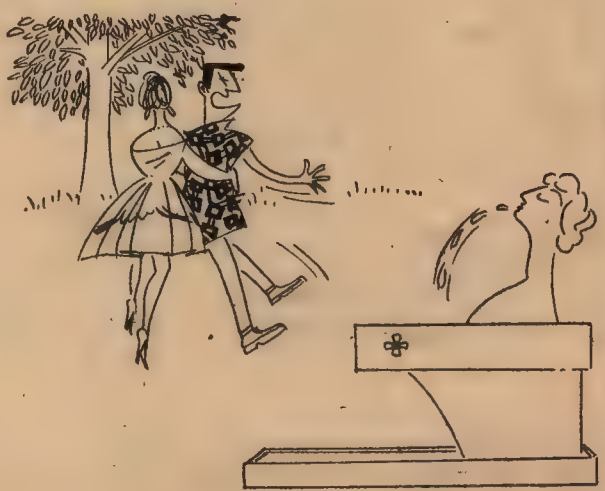
「こりゃ娘っ！　あれは
ヘソではないわ」

細道のすれちがい

「ヘッヘッヘッ、
二重のスリル」

やきもち

「水ぐらい飲ませて
くれたっていいじゃ
ないか」



日出造似顔漫評

：スクリーンの女王四人集：

水谷良重

絵と文　近藤日出造

(水)谷八重子という人は大変つつしみ深い人である。カマトト、と思わせるほどの教養で身をつつみ、セリフ、と思わせるほどの格調高いしゃべり方をする人である。

日本女優の最高峰、という意識が、一見窮くつなそうした雰囲気をつくらせているのか、そうした雰囲気を身につけていればこそ、日本女優の最高峰たり得たのか、どっちがどうなのか知らないが、とにかく肩が凝ることだろう、と会う度にお察しした。

(さ)て水谷良重さん。

母上が、肩を凝らせ、腹にためて吐き出し得なかった人間性のバカバカしさをテケレッツのパアと代弁して吐き出しているのが彼女で：：その意味では稀に見る孝行娘というべきであろう。

(だ)から水谷八重子さんは、この娘の結婚をわがことと喜んだ。

良重さん、しわがれ声でもっと歌え。長い脚で、もっとはねろ。白木君、賑やかにドラムを。

山本富士子

日出造似顔漫評

(ガ)マみたいな顔した男やアンコウみたいにぶざまな男どもが、わが身もかえりみず勝手な熱を吹く。

「お富士さんはたしかにいただけるけれども、いかんせんちょっと太りすぎたねえ」

「どう見ても、もはやマダムのタイプだよ。食指動かずさ」

(こ)んなゴタクを並べながら、実は、いただけるものならばお富士さんをいただきたい、と夢にまで見るのがガマ君であり、動かして甲斐なき食指をひそかに動かし吐息するのが、アンコウ氏であり……

山本富士子はたしかに太った。太ったから、冷たくケンのあった鼻が、あたたかくほのぼのとにおうようになった。

(太)った山本富士子はたしかにマダムの様相を呈している。

マダム……即ち母性。

ガマ君やアンコウ氏は、お富士さんの衿元に顔を埋め、顔を撫でてもらったらどんなに心地よかろうか、と童心にかえる。

山本富士子は、完全な女だ。

日出造似顔漫評

美空ひばり

(こ)の一家を見ききすると、涙ぐましくなる。一家ケン族、うまず、たゆまず、それ歌え！　それ演じろ！

ひばり君のヒタイの髪の生えぎわが、この頃お母さんとそっくりになってきたのを見ても、涙ぐましくなる。お母さんは、広いヒタイの生えぎわのあたりに筋を張らせて、苦労をした。金歯をピカピカ光らせて、子供を売り込んだ。子供をかばった。

(テ)レビで見ると、ひばり君の広いヒタイの生えぎわにも、この頃チラと筋が走る。気苦労の筋。意地の筋。喬木に風多し。

ヒタイにチラと走る筋を時にシワと見間違い、早く結婚させにゃ、と余計な心配をする。貫禄が、彼女を年より老けさせた。

早く結婚させにゃ。

団令子

日出造似顔漫評

㋐る中年男がいった。

「ウチの女房は立派だよ。ミメうるわしく才タケて、おれには良妻、子供たちには賢母、姑には申し分ない嫁で近所づきあいがマメで、手料理が上手で世帯持ちがよくて、まったくの話、一点の非の打ちどころがない女房だよ。

㋑いうことはつまりだね、あんまり文句をいうところがなさすぎて、面白くもおかしくもない女房ということ、なんだ。あんまりちゃんととのっているので、息苦しくて浮気をせずにはいられない、という女房だということなんだ。

㋒おれは今しきりに浮気をしたがっているんだが……、団令子なんて人にお相手願えないもんだろうかねえ。

なぜ団令子がいいのかって？

そりゃア君、ととのった理くつや計算をはなれて、無意味にポチャポチャと遊ぶには、理想的じゃないかあの人」

土堤坊主

清水崑

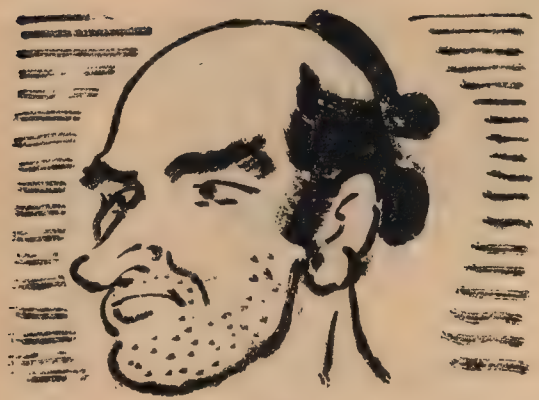
〔第1回〕　不思議な男

❶今より百五十年ほど前、徳川も末期の文化年間、小田原藩主大久保公の家老服部の屋敷に「土堤坊主」というアダ名の一風変った若党がいた。年のころ二十六、七。身の丈は六尺以上で筋骨隆々、眼光が鋭く、口数は少いが、大きな声を出す。

若党というのは、中間と侍の合の子のようなもので、百姓上りだが、次第によっては武士に取立てられることもある。給金は年に三万六千円。月給に割ると三千円。

住み込みで食費は主人持ちだから、だいたい、こんにちの女中さんの待遇に相当する。

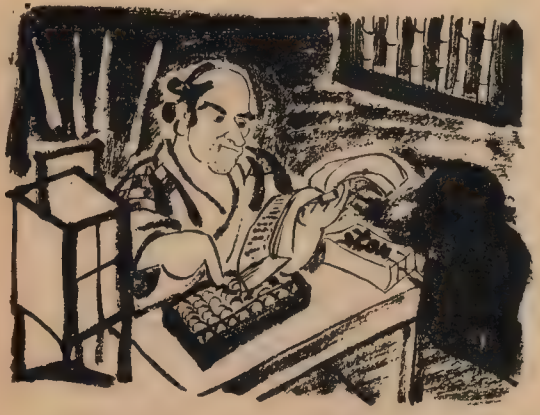
だが、土堤坊主は、金に不自由している風は全く見られない。



❷かの男が服部家の若旦那付若党として住み込んだいきさつはよく分らないが、どうも手前の方から志願して来たものらしい。

服部家には息子が三人いて、毎日、小田原藩立の学校に通っている。かの男の仕事の大部分は、若旦那の通学のお供をすることと、講義中は講堂の窓の下にいて、その講義を傍聴することと、夜は、三人の傍に坐って復習の助言をしたり、乞われれば、自分の体験をポツリポツリ語ったりすることが大部分であった。

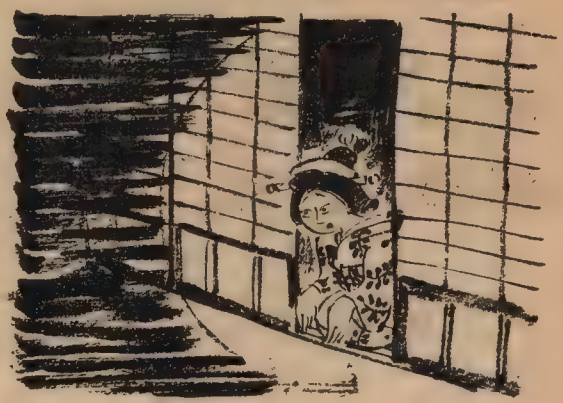
余程学問好きの男らしく、漢書の「大学」などをいつも懐に入れている。若党になるまでに、ひとかど独学を積んで来た様子である。



❸かの男は、骨組のガッシリとした六尺豊かの大男であるのに似合わず、手先が大へん器用で、夜の復習のお相手がすむと、大工道具などをコツコツ作ったりすることがある。またソロバンが巧みで、自室に入れば読書の他は、たいてい帳面を拡げて、金銀貸借の勘定に没頭するのが常だ。

帳面には、自分所有の田畑の面積や、人に貸した金の明細や、小作米の数量や、給金の積立額なども書込んである。

所有田畑総計一町五反歩（一万五千平方メートル）。それらを百姓に貸して得た小作米が十三石四斗、金にしてざっと十三万四千円。貸し金七万余円、自分の給金の積立四万円。



❹だんだんたつうちに、「土堤坊主は世帯持ちがいい」という噂が立ちはじめた。じっさいに、若旦那をはじめ、服部家の財政を預かる用人までが、ひそかにかの男から金を立替えてもらっている模様である。

倉蔵という中間にいたっては、年給をかの男に受取ってもらい、いろいろな支払いもかの男に任せっきりにし、月づき一定のわずかな小遣銭だけをかの男から受取って暮している。意志弱の自分の才覚だけでは、とても旧来の借金の返済は望めなかったのだろう。

ある晩、近所の武家の女中でお春という十七、八の可愛い娘が、かの男のところへこっそりやって来た。

❺「折入ってご相談がございます」

「うむ」

「…少々用立てて頂けないでしょうか」

「何に使う？」

「それは、あのう…」

「どうやって返す？」

「給金でお返ししたいんですけど、その給金は、わたくしの親元が、とうに前借しておりまして、…ほんとにどうしたらよいことやら」

「返す当てはないが、急場しのぎに貸してくれというのですな」

「はい」

当時の女中の給料は、年一万五千円が相場。月給にして千二百五十円である。

❻「お春さん。一つ聞くが、台所の薪や炭の使用量はどうなっている」

「要るだけ使っております」

「それだ。そこがくふうのしどころだ。ご主人に掛合って、薪と炭の現在の入用平均高で請負わせてもらいなさい。あとは焚き方を研究して薪と炭を節約すればよい。あんたが節約して残した薪は私が買取る。買取って主人に売る。どうだな」

「でも、その焚き方が…」

「いかにもむずかしい。だが、やってやれないことはない。まず、薪三本で火を鍋の底に丸くあてて、完全燃焼させて、煙を出さないようにくふうする。それから薪を取り去ったあとの火力と消し炭をうまく利用するのさ」

❼数日後、かの男は、お春を訪ねて、節約実況を視察した。

「ううむ。薪の方は、これでだいたい私の考えた通りに、余分が出始めたが、まだ鍋炭の節約が全然できておらぬ」

「でも、これ以上はどうしても」

「炭がすぐ傍にあるからできないのでその炭全部を私が買取るとしたらどうだ」

「…やってみます」

以来、お春の苦心がどのくらい惨憺を極めたか知らないが、一念のほどは怖ろしいもので、遂に薪の一部と炭はまるまる使わないですむようになった。見届けて、かの男は、お春が所望するだけの金を貸してやった。なんとも不思議な人物である。

（つづく）

海外傑作
小ばなし

女ありて楽し

アリバイ　「いいのよ、大丈夫だったら。この電話ウチの人からなのよ。あんたと今飲んでるとこだって」

絶対の妙薬？　「このクスリの効能かね？　そりャァすばらしいよ。第一、僕がすでにインポテントだろう、それなのに女房が姙娠したくらいだからね」

人畜同権　若い婦人がマント狒々（ひひ）の檻の前で靴下をなおしていると、監視人が走って来て、そこの前にある立札を指さしていった。

「これが読めないんですか」

立札に曰く

「動物を刺激することお断り」

バカは誰だ！　若い女優が楽屋で一人で化粧していると、やきもち焼きの良人が額に青筋をたててはいって来た。「おい、もうさっきっから、二人もバカ者がお前を訪ねて来てるな」

「アラ、うそよ、あなたが一人来ただけよ」

○医者「犬がかみついたって……まあ、ゆっくり拝見しましょう」

長すぎる…　あるところに講演に行ったジョゼフ氏は、聴衆の中でしきりに腕時計を気にしている人を見つけ、あてこすりをいった。

「時間というものは長いものであります。何遍見ても短かくはならないものであります」

いわれた人のとなりにいた人が立上っていった。

「私もそう思って、忠告したのですが、この人は時計が止っているのではないかと心配しているのです」

定　義　「女がノーといったら、まア、考えとくわ、といったと思えばいいし、考えとくわといったらイエスといったのと同じさ」

「じゃァ、はじめっからイエスといったら？」

「バカだよ、その女は」

あすこにいる！　「僕は三遍結婚して三

○カヨワキ夫、激戦のアト　床屋「サテ、どこからそったもんかなア」

○料理の時間　「お塩をひとさじ、化学調味料を少々加えまして、トロ火でトロトロとにつめますと……」

蹴られた……　医者は新来の患者の向う脛のヒドイ青あざを見ると訊いた。

「あなたはラグビイをなさるんですか？」

「とんでもない。見たことはありますがやったことはありません」

「じゃア、何か交通事故でも？」

「いゃア、ただ昨日、女房と友人のうちでトランプをしたんですが、向い側に女房がいまして：」

野放し　独身主義の劇作家が気取っていった。

「私は子供は好きなんです。しかし、他人の子供が好きなんです」

後援会長の貴婦人が膝をのり出していった。

「それを条件にプロポーズなさって、お断りになるかたがいらっしゃるかしら……」

噂がコワイ　アンリーは女房のマリーの前で青くなって怒鳴った。

「ほかのヤツとならいざ知らず、ガストンと出来てしまったなんて、なんということをしでかしたんだ」

マリーはすてばちな調子でいった。

「ガストンがどうして特にいけないのさ？」

アンリーはどもりながらいった。

「ガストンはお喋りじゃないか。俺が寝取られたことが村中にすぐわかってしまう」

女心　一人の貴婦人が医者のところに来て、近頃妙な夢を見ると訴えた。

「昨夜なんかとても変なんですの。ぜんぜんハダカで帽子だけかむってシャンゼリゼを歩いている夢なんですの。その帽子は、黒のシュスに白い花をつけたものんですー」

「さア、別に大したことはありませんな、夢ですから……」

貴婦人は美しい柳眉をさかだてた。

「どうして大したことがないんですー　その帽子は去年の流行じゃありませんか」

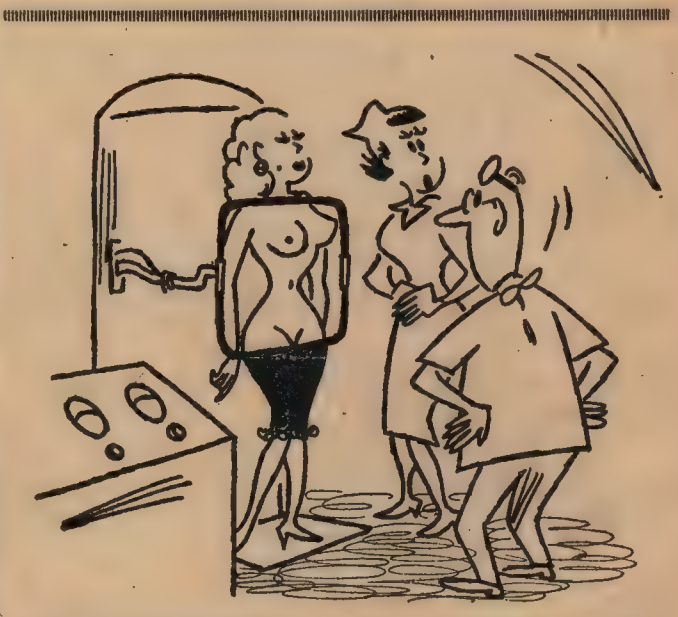
避妊？　フランスのカレー市のそばにヴーヴ（後家と同じ綴り）という村がある。

そこの村に来る人は、皆、村の入口の立札を読むと吹き出してしまう。

それにはこういうことが書いてある。

「ヴーヴ！　子供に気をつけよ」

本当は自動車への注意なのだが……。



○ヌード用Y光線発明さる　看護婦「先生、まだですの？」

メモ事件

〔第1話〕

腕ききの捜査ゼロ課長と新鋭事件記者の対決!!

真昼の惨劇

唇をひくひく震わせるハダシの女

事件記者の新成聞太郎が、東京の新聞社から大阪へ転勤してきた第一発目の仕事は、まことに奇妙な具合で事件そのものが、彼の許へ飛びこんだことから始まった。

「待つということは、やり切れんことだナ。だが、これも、われわれの仕事の一つだ」

つぶやきながら聞太郎は、古い家並みにそって歩いていた。真夏の昼下り、帝塚山住宅の一角は、生活の音すべてが消えたように静かだった。その時、聞太郎は短い女の叫びを聞いて足をとめた。

「キャッという悲鳴」聞太郎は首を振った。「キヌを裂くようなとくれば文句なしに月並みだナ。こんなリードじゃ記事にもなるメエ」

また歩き出した途端、露路をまわって走ってきた若い女が、聞太郎の横っ腹に衝突した。

「は、早よ、来とくなはれ」

あえぐ女はワンピースにハダシでちからつきたようにブッ倒れたが、どうしたわけか握ったままのハタキを、右手から離さない。

まっ青になって歯をくいしばった女は、左手に聞太郎を引っぱって駈け戻った。その家は小粋なたたずまいから、一見して女ばかりの暮らしと分った。部屋はやわらかい雰囲気につつまれ、甘くなまめかしい香りが流れていた。奥六帖の間へ入るところでハダシの女は立ちすくんだ。

握っていたハタキで縁側を指し示したが、新しい恐怖に襲われたらしく唇をヒクヒク震わせ、再びその場へ崩れてしまった。縁側の端に中年の女が仰向けに倒れていた。この方は庭石のように動かなかった。近寄ってみると、のど元が鋭利な刃物でえぐられ左頸動脈も切断、おびただしい血が吹き出していた。

ニュース スリラー

事件記者・新成聞太郎特種

白晝お妾殺人

殺されている女の美しさは、スカートの一部が引き裂かれているだけに、むしろコワイほど凄かった。肌がぬけるほど白く表情の線はやわらかで、いまは一種お能の面めいているものの、ふくよかなからだといい、奈良のお寺にある国宝級の女の仏像へ、思い切り情熱的な近代女の血を通わせたら、こういうのができ上るかもしれぬ。家庭の主婦が身につけている世帯じみた生活のシミもなく、さればといって女ひとり生きる未亡人的な生理の哀感もない。見下している聞太郎にとって、この女が生きていたついさっきまでは、所詮なんのかかり合いもなかった。

だがこんな風に一塊の肉片と変ってしまったからには、事件記者聞太郎は、これに最大の関心を払わねばならぬ。次の居間の、赤い文机の上に電話があった。聞太郎は夜警本部の武者記助刑事を呼び出した。

「あんたの大キライなコロシだよ」

名乗りをあげてから彼は続けた

「あんた自身で現場へ来て貰いたいと思って、真先に知らせるわけだ。ガイシャ（被害者）は僕の推定に誤りがなければ三十五歳の二号サン、いやオテカケだ。その女にはもう役には立たぬが鑑識の医師は急行させて欲しい。この点が大切だが、ホシ（犯人）は、まだ現場から四キロ以内の円周の中にいると思われる。ジンダイ（風態人相）は目下不明だがビラ（着衣）は相当の返り血を浴びている。不審者尋問の緊急手配が要る。現場は帝塚山の……」

受話器を置くと、ハタキの女が眼を見開いて、にじり寄った。

「あんたはん、どなたですねん？　犯人を見やはった？　おテカケさんのこともぞやけど……よう知っていやはるよってに、うち、なんや恐ろしい……」

聞太郎は名刺を出し、安心させようとした。

「分っているついでに、もう少し喋ろうか。よければ推理といってもいいけれど……いや、これはホシの観察というべきだろう。キミは二階でハタキ掃除をしていた。階下で悲鳴がしたので降りてみると犯人が女主人を脅していた。刃物をみてキミはびっくり、ハダシでとび出した。まさか人殺しとは思わないだろう。キミはヌスットだと呼んできた。気配に逆上した犯人は女主人をつき刺して逃走した。屋内は少しも物色されていない。もし殺人が行われ犯人が逃げた後でキミが階下へ来たとしたらキミはまず手近かな電話へとびつくだろう。キミは僕と一緒にこの部屋へ戻り、初めて女主人が殺されているのを知って気絶しかかったネ。このタイミングがちょっとでも狂ったら……キミも間違いなく殺されていた」

やっとハタキを手離した女は、横目で死体をうかがい両手で顔を覆った。

のどをつまらせ、

「その通りです」

とうなずいて、つけくわえた。

先刻、正午すぎ、玄関のブザーがなった。女主人は外出しており掃除中の彼女が玄関少しあけ「どなたです？」とたずねた。職人風の三十男が立っていて、

「左官屋の親方に、裏のカベのぬりかえを頼まれ、下見にきた」という。

「主人が留守やから分りません」と断わっているところへ運命のお妾さんが帰ってきた。

これも首をひねったが、知らぬ間にダンナが頼んでおいたのだろうと、その男を通したという。

留守番中に掃除をしていたのは親セキの娘で、ときどき泊りがてら遊びにくるのだったという。聞太郎が被害者を妾と断じたのは彼のいう現場観察の結果ではあるが別に一つの前提知識があった。大阪には、妾がベラボウに多いこと。それらしき住宅街やアパートへ石を投げると、必ずお妾さんに当るというぐらいのものだ。

現に聞太郎の住む阪急沿線のアパートは十二世帯のうち四戸までが妾。その大家も二号だ。彼得意の観察に従えば大阪商人はせっせと金を貯め、ある日金勘定のソロバンをはじいてみて、「そうや、このへんで、あの女をかこったろ……」とつぶやく。

これを見て商家の妻「うちとこのダンナはん、甲斐性はホンマもんだっせ」と自慢したりする。

こういう土地柄なのである。

腕ききの捜査ゼロ課長

・・「お前さんは重要参考人だ」・・

パトカーのサイレンがひびき、ひっかたいでつっ走る刑事部の自動車も到着、武者記助刑事を先頭に府警本部の一行が入ってきた。

「気の利いた電話ありがとう。そやけど……お前さんにこんな女関係があろうとは……ホンマに知らなんだで……」

記助刑事は聞太郎をみつめ、
「むろん、お前さんは重要参考人や」と言い切った
「なるほど、この腕ッききの老刑事のやり方は、こういう具合なのか」聞太郎は内心ドキリとした。自分は複雑な立場にいることを感じて不安がかすめた。
「現場にいる者は一人残らず疑ってかかれ」
この刑事、手ごわいゾ。社へ一報は入れてあるが、早く先輩記者が来てくれぬことには変にまごつくと夕刊の締切りにおくれる。
「参考人といわず重要容疑者として逮捕してもかまわんぜ。それもこの娘さんの話を聞いた上で、あんたが、そのつもりになればの話だが……」
聞太郎は、そばに落ちているハタキと、タタミに残る女のハダシ跡を指さし、経過を語る証拠として主張した。
武者記助老は大阪府警刑事部に三十年間勤めて、なお一介の刑事だ。彼が過去に解決した殺人事件は数え切れぬほど多い。人びとはいま彼を捜査零課長と呼んでいるが、それが彼の手柄を称える気持と、目下の彼の地位に対するレンビンの情とが入り混った表現なのだ。では……と別の人びとはいぶかるだろう。
そんな名刑事がいるのに、なぜ大阪府警は十五もの捜査本部を抱えこんだのか。これは新記録であるばかりでなく、ほとんどが迷宮入りの状態である。

老刑事の地道な捜査

武者記助老は自分の足で現場を踏み、その眼では細部を見なければ、捜査へのファイトが湧かぬというイコ地な男だった。
彼は快刀乱麻を断つ推理で、犯人を割り出すという神業をやったことはない。犯行場所の型から犯罪の手口を押え犯罪者の性格をかぎ分けた。そこからほとばしる二分のカンを頼りに、残る八分を地道な努力で埋めた。
聞太郎は一度その捜査振りを実地に見たらと考えていたのだった。
「お前さんを逮捕する――のは止めるよ」
娘の訊問を終ったところで記助老が聞太郎にいった。
「さあ、邪まにならんよう、お前さんの仕事をしとくなはれ」
聞太郎はメモをとり出した。記助老は独り言のようにして以下のことを教えてくれた。犯人は本職の左官屋ではない。この家のカベは外見上もちゃんとしている。本職の左官屋なら、ウソにも自分がこの立派なカベを修理にきたとはいえない。
犯人はこの家が女暮らしと知って、あるいは聞いて真昼間やって来た。犯人には土地カンがある。このヘマな逆上ぶりはマエ（前科）のある手口ではないにもかかわらず、凶器を持参している。よほどつきつめた失業者だろう。
「ま、こんな見当や。オレはまず、このあたりの似たような稼業仲間の聞きこみから始めるよ。晩にひまがあったら、また逢おうやないか」
武者記助刑事は、鑑識の連中を残して、凶行の家を出て行った。

光る手の

その夜十一時すぎ、所轄署に設

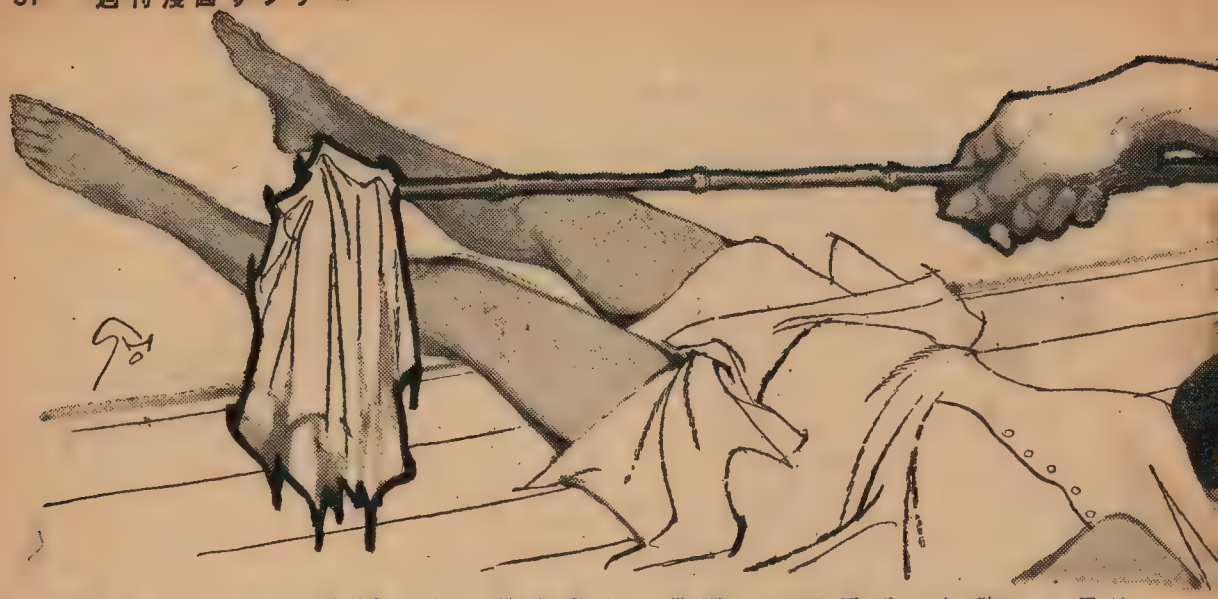
ニュース・コント

夏休み

学生時代に、一番楽しいのは夏休みです。
一番楽しくないのはその夏休みの宿題です。――でも最近の子供はちゃっかりしているから、平気ですネ。
「お父さん、ビールッて美味い？」
「そりゃァ……美味いなァ、会社から帰ってきて、一風呂あびて、肌抜ぎになってこの冷いビールをキューッとやる気分は格別だナ」
「あのネ、毎晩ビールをのんで、どきげんになっているのはいいけれど、今、僕が夏休みだってこと知ってる？」
「ああ、知ってるヨ」
「じゃァ、もう八月に入ったんだから、そろそろ宿題をやり始めた方がいいんじゃないかなァ……また月末になると徹夜だぜ、お父さん」

ミス・ユニバース

世界一の美人。ミス・ユニバースの児島明子さん――凄いですねェ。これで大分、日本女性の株が上ったそうですが、児島さんも去年は自動車事故で負傷をしたり、ほんとうにお気の毒でしたが、何しろおめでたいことです。
「第一位になられたご感想は？」と、新聞記者の質問に
「ケガの功名ですワ」
――なんて児島さんがいったかどうか分りませんが、中には予選で落ちた女性で、ケチをつけてる人もいます。
「何ョ……昔から美人薄命といって、ミスに選ばれた人は、あまり良くないそうね、お母さん」
「そんなことはありませんヨ、美人薄命だなんて……」
「あら、どうして？」
「お母さんをごらんなさい」



けられた白昼の妾殺し捜査本部へ、武者記助刑事が見知らぬ男と一緒に引上げて来た。男の片手には手錠が光っていた。

容疑者は西成区の簡易アパートに住む三十六歳の失業者だった。本部での自供によると以前に土建人夫、親方と折合いが悪くて職を失い、身重の妻をかかえ生活はドン底へ落ちた。たまたま現場ちかくに住む手伝職の仲間から、「帝塚山にきれいな一人住いのおテカケがいる」と聞き、刺身ホウチョウを買って妾宅へ出かけた。コヤツはしさいらしく、ゆっくりと家中を見まわる風をした。そのうちお妾さんが炊事場の仕事を始めた。頃はよしと、この野郎、用ありげな口調でお妾さんを縁側に呼び寄せ、おきまりの「金を出せ」とすごんだ。

お妾さんにしてみれば、いままで雑談していた左官屋が、まさか……という気があるので相手にしない。残虐な犯人はいっそ殺して……と、お妾さんの左頸動脈へ切りつけた。悲鳴に、二階の娘が飛び出したが、だれか来ては大変、犯人はお妾さんを押し倒し、馬乗りになってノドを突いた。吹き上げる血しぶきに、猛烈な恐怖がわいた。

彼は物色する気力もなく、お妾さんのスカート前部を引きちぎり、血のりのついたホウチョウをくるんで裏口へ突進した。

こうして大阪の街から、一人のお妾さんが姿を消した。この事件に関する大阪府警本部防犯部の資料には、じづかに閑居する善良な婦人を、無雑作に殺害するとは、憎むべき殺人鬼ウンヌンと記してある。

え・堂昌一

松川事件

八月十日。いよいよ松川事件の最終判決が開かれますが……赤間被告他の無罪か有罪？　という大問題は、一体どうなることか。

〝世にも不思議な物語〟の宇野浩二氏、〝松川事件〟の広津和郎氏の支援で、赤間被告のお母さんも、

「長い間、何度か流しましたが涙を拭くのもこれでようやく、最終ハンケチです……」と。

キャッチ・ボール

道路交通取締法で、せまい路地や、交通のはげしい道路でのキャッチボールを禁止されることになりました。

最近の野球ブームを反映してか、物凄いキャッチボールの流行……いろいろと事故や器物破損の原因になるというので、未成年者は注意勧告、大人は三千円の科料というのですが一体どうなるでしょう。

「おい高田。馬鹿に景気がよさそうだなア……何か、うまい仕事が見つかったのか？」

「日に軽く、五六千円になるヨ」

「ヘエ、一体何をやってるんだイ？」

「うん、簡単なのさ……道路でキャッチボールをしてるだろう、そこでわざと球にぶつかって、痛いたイ、交番へ訴えると騒ぐんだ、お巡りさんがくれば、科料だろう……だから、千円位で示談ですますのサ」

「坊や、ここにあったお菓子食べたでしょう？」

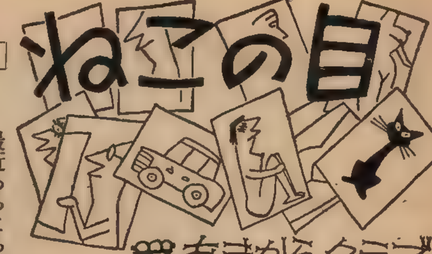
「ボク、知らないヨ……」

「嘘をつくとブチますヨ！」（ビシャン）

「アーン。じゃア、ボクが食べたんだよオー」

「まア、坊や……泣きながらどこへ行くの？」

「宇野浩二先生か、広津和郎先生のとこへいってくるヨ」



ねこの目

——イカス便りを待ってるぜ　読者交歓ケッサク集

最近あちこちの雑誌で〃読者交歓室〃というのが流行している。一口にいうと読者同士の通信欄である。十人十色とかで、交歓内容も千差万別、思わずふき出したくなるような文面もある。以下は数誌からのバッスイだが、御返事を出したくなったらあなたもどうぞ——

［スター型］

☆小林桂樹に似ている独身男五尺六寸十九貫三十五才会社員都内の女性と文通交際し度し写真同封お便り下さい返確（港区麻布新網町一ノ一九喜久美荘　松尾勇）

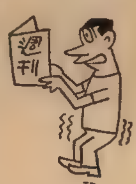
☆フランク永井と旗照夫をミックスしたような二三才の男性趣味ドライブ音楽映画近代女性とフランクな交際したし返事確。（大田区馬込西一ノ一六一二　中川冬人）

［流行歌型］

☆心にグットくる友情をまっています。フンドシきつくしめて同性の便りをね。イカス便りを俺はまってるぜ。男性だけ。（浜松市寺島町　倉田武男）

［ブルブル型］

☆週刊誌旧号沢山あり。お譲りを致します。防犯とくに詐欺に関する手口等述べた書ありましたらお分け下さい。（青森県十和田市通　中渡隆）



☆壮烈なる青年の切腹に関心ある方のお便りお待ちします。キリリと締めた六尺上を朱に染めた男性割腹！当方廿八才の筋肉質。（新宿区柏木五の一〇一四　矢島茂夫）

［アバズレ型］

☆私は二十二才の気ままで浮気な女です。市又は近県のヤクザタイプの男性写真同封の上お便り下さい。ヘンジカクジツ（名古屋市中村区名楽町三ノ十七　近藤和子）

［立候補型］

☆小性（生の誤植らしい）十八才の青年、ゼンコクノミナサンドナタデモヨロシイオタヨリクダサイトクニキンケンノカタヘンジカクジツマツ（姫路市山野井町二二　立川憲一）

［ロマグレ型］

☆パパが欲しいか洋画洋楽喫茶食事等に同行希望の女学生や若い女性の便りを待つ費用一切持つ余裕ある旅行好きな退屈紳士（群馬県境局区内尾島町粕川富岡耕一）

［そのものズバリ型］

☆当方イカス男性、財アリ、イカス女性又ハ精力絶倫ナル未亡人ト交際シタシ

夜店芸術録音

バナナ売り

どうだい、見るからにうまそうなバナナじゃないか、こうしてお目にかかるのもお久しうござんすという次第で、われわれにとっては昔の恋人に会ったようなものだが、カルピスが初恋の味ならこってりしたバナナの味は年増の恋だねえ、一度味をしめたらこたえられないねえじゃァ（バタン）

さァお客さん、バナナはそうやってただ見とれておるだけのものじゃない。買って帰って食べるものだよ！え？　治療代の保証がなけりゃア買えねえ？　へへへそれほど恐れなくともよろしい、生命には別条がない。これは保証しとくよ！（バタン）ありゃ、これでも手を出さねえところをみると、あんまり見事なものだからしもじもの手には入り難きものと思っとるらしいが、イヤ苦しうない、余が許す、近う寄って買って帰れよ！（バタン）ハハハハ、民主主義の当世ではこんなセリフは流行らねえ、まアものは試しということがある。バナナの味を知らねえアプレゲール諸公も一度は食べてみるんだねえ、バナナは食ってただうまいばかりではない。不思議なことに腹が張るよ、イヤ、ただ腹がふくれるばかりではない。栄養が豊富で精力がつく、どんなに逞ましくなるかは形を一見しただけでもわからないというもんだ！（バタン、バタン）

効能はわかったがさぞや高価じゃろうと恐れているのかね。それはもちろんじゃがお客さん、バナナの税金は酒よりもタバコよりも安いことは確かだ、しかしこれは芭蕉と申す木の実じゃからモトはタダだ！（バタン）アー　タダといったからってそう争って手を出しちゃァいかん。モトはタダでももぎとる人々に賃金も払わんならんし、はるばる台湾から運ぶんじゃから船賃もいる。安いといってもバカにならん輸入税もかかっておる。一切合財ひっくるめて、一山二百円というところが先ず飛切の安い相場だが、今夜はお客

手紙乞ウ（新宿区市ヶ谷阿田町十九　吉屋茂雄）

☆色を好む浜っ子。自称二十才の美男子、赤線の灯が消えてからオレは淋しいんだ。誰か遊んでくれよ、僕は仲々いかないぜ（横浜市中区間門町三一四　土屋浩義）

〔同じく女性編〕

☆私の悩みをどなたがシビレるほどイカせて。若いハンサムでなくとも結構。中年のベテランに酔ってみたい。返事確実写真送付。（豊中市橘通り一ノ二二曲直部富久子）

〔金色夜叉型〕

☆結婚して銀座で小売店出したい。関西以北の方望。二十五才まで。写真同封便りまつ。遺産三千六百万アル、二十三才電子技術者（東京都墨田区隅田町佐藤一郎方　鈴木一正）

〔クイズ型〕

☆メザマシドケイウムシメガネツタイキウメイプツツジダイストライキユカクスリヨウホウンガツカインセキンコメ。（神戸市須磨区末須磨北町一ノ一九中津方　志永一栄）

車のジンクス

暑さとともに、ますます交通事故がふえている。中でも多いのが自動車事故。なにしろ「自動車は凶器である」なんていわれるような時代だからネ。タクシーに乗るのも、まったく命がけというわけだが、そうなると、またいろいろと縁起をかつぐ人が出てくるもので。

最近いわれ出したのが「三で割れない車は危険」というジンクス。つまり自動車についているプレート・ナンバーの数字が三で割れる数字ならば安全というわけ。なんでも今まで事故を起した自動車のナンバーを調べた結果、こんなジンクスが生れたんだそうだが、暗算に弱い人は、ひとつソロバン持参で安全なタクシーをさがすんですナ。

〔詩人型〕

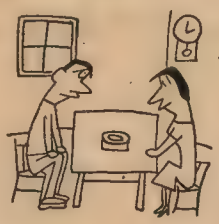
世の美しきもののすべてに我れ情熱を捧げん、理想と現実の厚き壁を突き破り、真実一路を歩まん、当方廿九独身会社員健康。（横浜市港田島町局止メ　尾崎トシオ）

スリラー笑

ある殺人事件

陰気な感じのするうす暗い部屋。部屋のまん中に、古ぼけたテーブルが一つ。

このテーブルをはさんで、さきほどから、男と女がじっと向い合ったまま坐っている。二人のあいだには、息づまるような緊張感が流れている。時計の音が一つボーンとなった。



男がなにか訴えるようなまざしで女を見つめ、口をきいた。

女は黙っている。

男の口調は次第に熱をおびてきた。しかし、女は口を開かない。テーブルの上に置いた男の手は、興奮にうちふるえている。

目は、するどく女をにらみつけ、なんかを、詰問している様子。

女は、ただ黙って坐っている。

その時である。男がなにか大声で叫んだかと思うと、急に体から力が抜けたように、バッタリとテーブルの上に、うつ伏せになった。

それでも、女はただ冷やかな目つきで男の姿を見つめているだけだった。

こうして、男はこの女に完全に黙殺されたのである。

さん方の懐中も特別に考慮して（バタン！）百八十円、百五十円まで負けておくがどうだ！（バタンバタン）

オヤオヤあんまり安いんでタマゲたのか未だ手が出ないねえ、じゃァ少しつりあげようか、——百二十円ならどうだ！アレ、今夜はバカに遠慮深い人ばかり揃っている。よし、小きざみにまけるのはめんどうくさい、ソレ最後の一声だ、（バタン）タダの百両！

百円ならタダも同様だ、ねえ一体何本あるとおもう？（バタンバタン）

オットット、そう一ぺんに手を出しても困るよ、先に声をかけた人から分譲することにする。ハイ有難う、ヘイ有難う、ねえお客さん、実際惚れ惚れするようなバナナじゃねえが、これが百円とは全く安い、売るのが惜しいくらいのもんだ！

ぶつぶつ帳

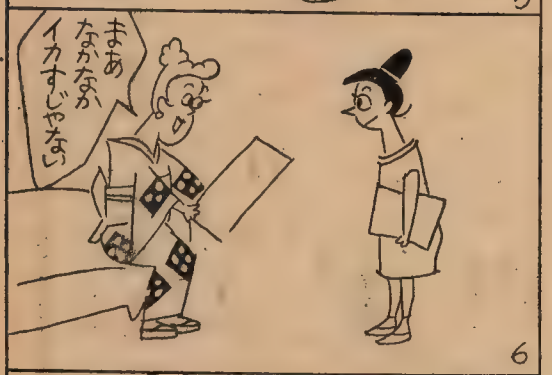
電話公債も買う必要がなく、電話料も払わなくてすむ、その上一通話ごとに二円也の手数料がいただける。

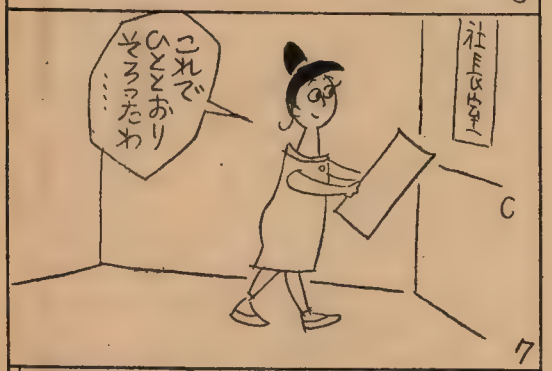
さらに先方からかかればベルがなって自家用にも使えるこんな丸もうけの特権を与えられているのが赤電話だが、夜になると家の中にしまい込んじゃう持主が大部分。

夜は利用できないなんて公衆電話がありますかってんだ。「赤電話は夜も出しておくべし」という規定をつくってもらいたいね。

スットン京(きょう)ちゃん

井崎一夫

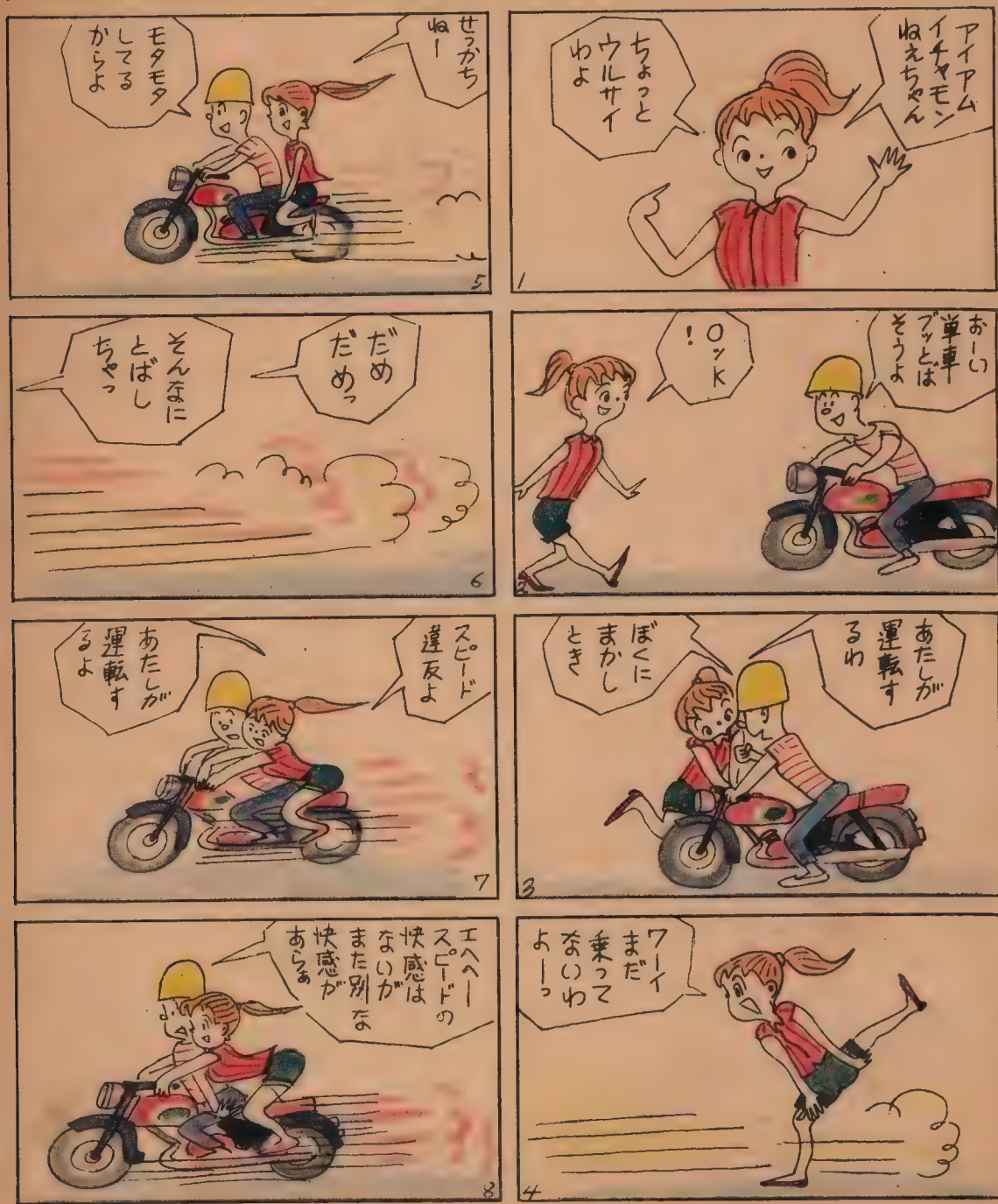


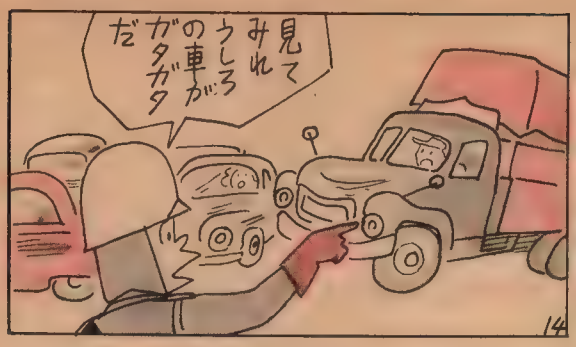


れんさい 1

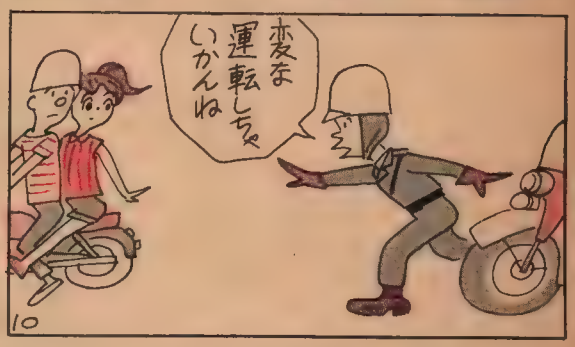
イチャモンねえちゃん

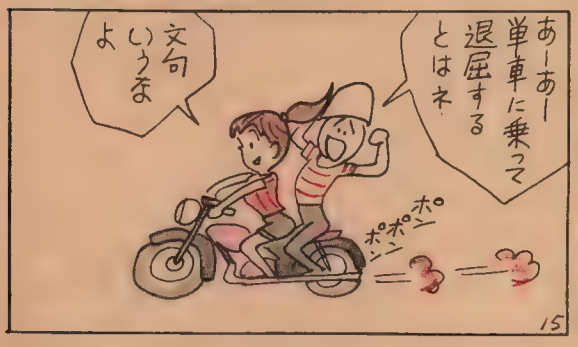
杉浦幸雄




きみ
きみ
まち
たまえ
9

見て
みれ
うしろ
の車が
ガタガタ
だ
14

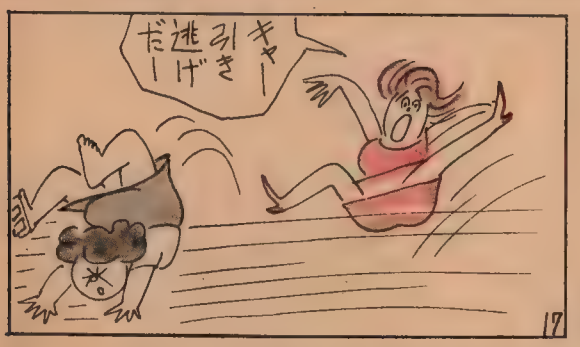

変な
運転しちゃ
いかんね
10

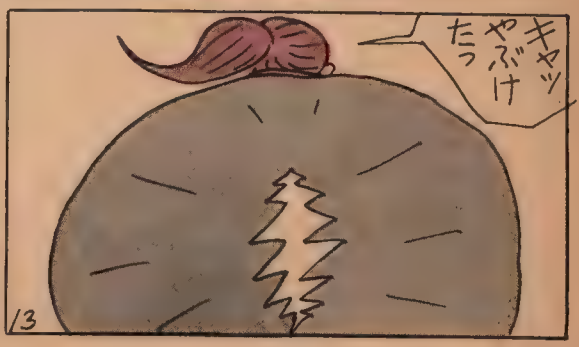

あーあー
単車に乗って
退屈する
とはネ
文句
いうな
よ
ポン
ポン
ポン
15

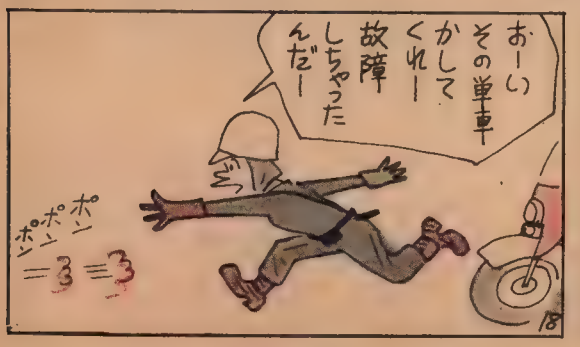
あら
時速
四〇キロの
安全
運転
よ
もう一度
やってみて
み
11

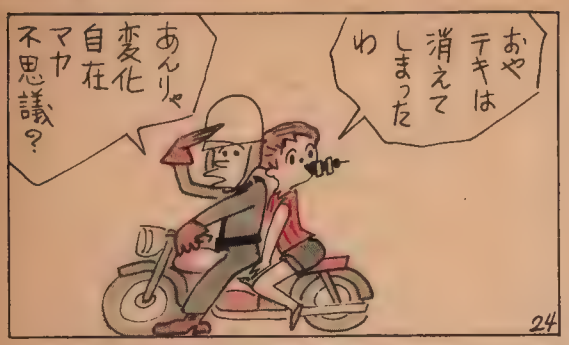
ヒャッ
ブッ飛ば
しやがる
なー
16

そーれ
その姿
だ！
12

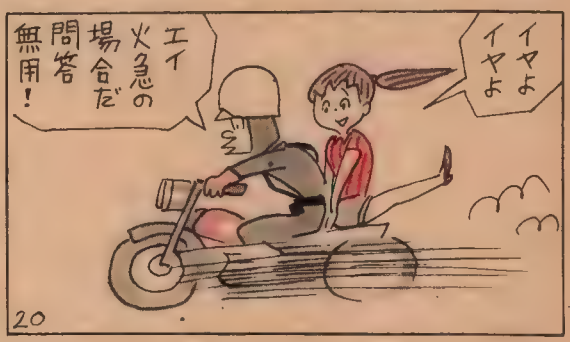

キャー
引き
逃げ
だー
17

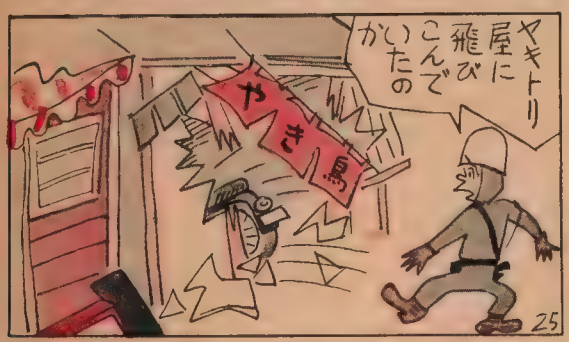

キャッ
やぶけ
たっ
13


おーい
その単車
かして
くれー
故障
しちゃった
んだー
ポン
ポン
ポン
18

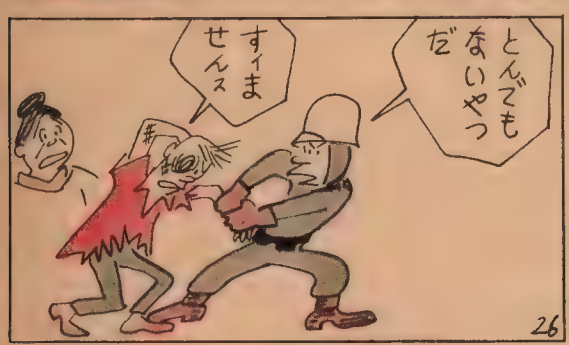

たのむ
たのむ
イヤーよ
お尻が
やぶれてる
から
おりられ
ないわ
19

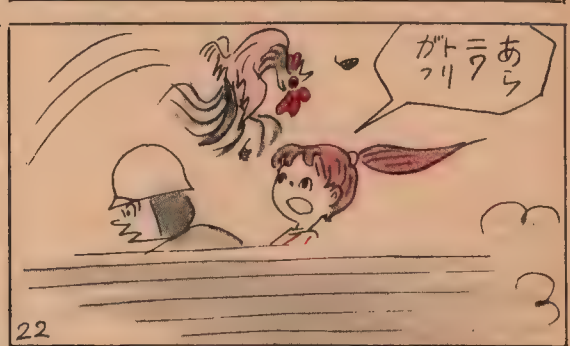
おや
テキは
消えて
しまった
わ
あんりゃ
変化
自在
マヤ
不思議?
24


イヤよ
イヤよ
エイ
火急の
場合だ
問答
無用!
20

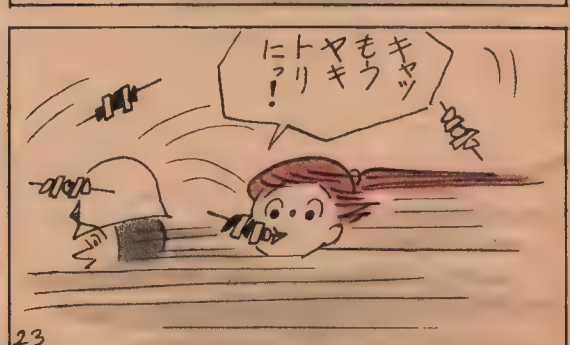

ヤキトリ
屋に
飛び
こんで
いたの
か
やき鳥
25

ウヘー
白バイが
来やがった
ぞ
21


とんでも
ないやつ
だ
すィま
せんぇ
26


あらニワトリがっ
22

やっ
今度は
あのお嬢さん
がいないっ!
29


キャッ
もうヤキトリにっ!
23

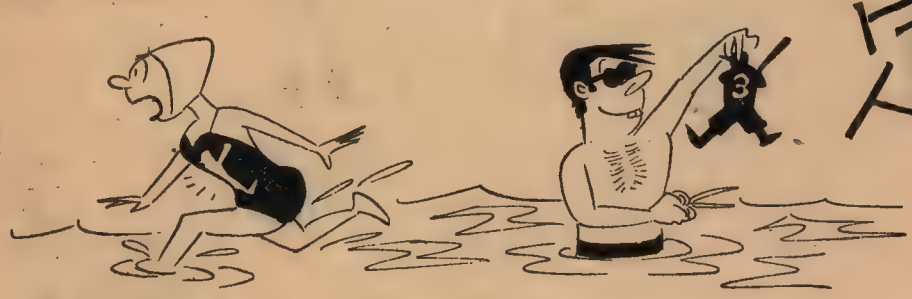
あたし
ここから
出られ
ないの
よ
28

れんさり 忍術武士道

萩原賢次

お天気評定

所ニヨリ
俄雨（ニワカアメ）
アリ



海上ハ荒レル模様……切リヌキ魔

多少小雨ガ
残ルデショウ

金親児太郎

担当　林家三平

〝悩める者は幸なり〟とキリストはいいました。その点、僕は、実に不幸です……人間、悩みのない者はいないんだそうですけれど、しかし僕にも悩むということができない、悩みがあるのかも知れません。

でも、人間は諦めが肝心です。笑っても一生、泣いても一生ですから、どうせなら笑って過しましょう。え？　人が悩んでいるのを茶化すなんて、とお叱りになる方がいるかも知れませんが、すべては時間が解決してくれますヨ。ですからその間だけでも、僕とつき合ってみてください。

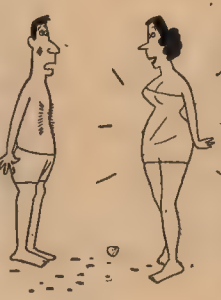
ただし後で、大変な鎮静剤を飲んじゃった、と後悔なさっても責任は持ちませんよ。

でも一生懸命なんスから、夕べ寝ないで考えた三平の身の下相談、もしお気にさわったら：どうもスイマセン!!

○

毎年同じ水着だと彼氏に嫌われるワよと、A子さんにこれ見よがしにいわれ、悲しくなりました。そりゃアA子さんのように代えたいとは思いますが、家庭の事情で買えません。彼氏に嫌われるでしょうか。

純情な乙女



解答　彼氏のほうを代えてみたらどうですか。

○

結婚を約束した女性がいるのですが、ある機会から突然、美貌の金持の令嬢にプロポーズされました。どっちの女性と結婚すべきでしょう。

一青年

解答　それは、いくらか貧しくて容貌が五人並以下であろうとも、徳義上、婚約した女性と結婚すべきが当然です。――そして、もう一人の女性の住所を至急、僕に知らせてください。

○

主人の勤務評定の点数を少しでもよくしたいので、校長先生のところへお中元に行きたいのですが、一体何を持って行ったらいいか迷っています。

教員の妻

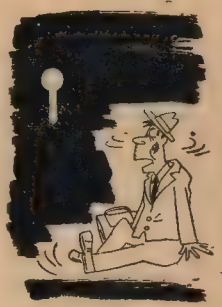
解答　ちょっと、待ちなさい。今に生徒のところからきますから……。

○

いかがわしい週刊誌を読んでいるところを、お母さんに見つかりました。何かうまい、いい訳はありませんか？

ローティーン

解答　そんなことは訳ありませんヨ、次の通りおっしゃいナ。「大丈夫だヨ、お母さん、いかがわしいところは飛ばして読んでるから……」と。



○

彼女に海へ誘われたのですが、金づちなので内心困っています。浮袋など使わずに何か溺れずに泳ぐ方法はありませんか。

カナヅチ生

解答　死海をご存知ですか……塩を一俵背負って海へ行きなさい。塩分が多ければ大丈夫、泳げなくても浮かびます。――それが何より証拠には、おみおつけの、お豆腐をごらんなさい。

○

人工衛星時代の避暑法で、どこかの星に行って、マスコミを、あッ!!　と驚かしてやろうと思いますが手っとり早く行ける、地球に一番近い星を教えてください。

宇宙人

解答　物ホシが一番近いでしょう……もっと近いところでしたら、目と目の間をげんこつで殴って見なさい。

祝創刊
週刊漫画サンデー
一流雑誌はみんな
大日本印刷

ニュース・ピックアップ 西から東から ニュース・ピックアップ 西から東から

馬の落しもの

〔北海道〕

さすがに北海道、落しものもデカイ。

先月の十四日、岩見沢市北浜で、タヅナをつけた馬が、ブラブラ放浪しているのを近所のお百姓が拾って警察に届出た。十四、五歳、鹿毛のメス馬だ。

届けられた警察でも困り、「遅くたって明日の朝までには分るだろうから——」と拾い主の長島与作さんにあずかってもらった。

ところが、何日たっても飼主の届出がない。長島さんからのヤンヤの催促で、テイ鉄を〝証拠品〟に捜査もしてみた。隣接の四つの警察にも、この〝品触れ〟を回した。しかし、依然として落し主は現われない。飼料費はかさむばかりだし、「落しものではなく、捨て馬らしい」ということで、「金にかえて、保管する」ことに決ったが、この馬、齢はとっているが、なかなかの駿馬だそうだ。

大トラ、機関車を占領

〔小倉市〕

九州は小倉での話。

去る六日の夜八時ごろ、日豊線下り行橋行きの列車が、小倉駅の一番ホームに入ってきたときだった。二番ホームにいた男が、いきなり線路に飛び下り、砂利をつかむや、この列車の機関車めがけてツブテの猛射。

おどろいた機関士が、逃げ出すと、この男、さらに機関車によじのぼり、シャベル、ヤカン、バケツと、手当り次第にとっては投げ、とっては投げ。まことにシシフンジン。ホームの群集も、列車の客も、このただならぬ孤軍奮闘ぶりを、ただ呆然と眺めているだけ。

間もなく、かけつけた小倉鉄道公安室員に「業務妨害容疑」でつかまったが、この男(三二)——「早く月給を二倍にしろ」と、いつかな静まらない。

安い月給を飲んでしまった恐妻男の悪酔い、と分ったが、この大トラで列車も二分四十秒遅れた。

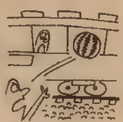
カッコ内をお読みください

〔鹿児島県〕

鹿児島県水産試験場では、先日同場宿直室で夏季囲碁大会をひらいたが、ところで主催者側にとって頭痛のタネは、この暑いのにご苦労願う出場者へのオマケ景品。とぼしい予算の中から結局、一等テレビ（の足）二等電気冷蔵庫（の氷皿）三等電気洗濯機（のホース）四等手回し扇風機（のハンドル）五等ミキサー（のコード）六等以下ビール（の空ビン）と決まった。もちろんもらえるのはカッコ内だけ。（南日本新聞）

投石もデラックス時代

〔福岡市〕



二十二日夜九時半ごろ筑肥線上り五四二ディーゼルカーが前原—波多江間の糸島高校付近に差しかかった際、突然土堤の上から列車めがけてスイカが飛んできた。

二両目の窓に命中してガラス一枚が割れたが、車内はスイカの種や赤い身が付近に散らばり、汁が一ぱいついて惨たんたる有様。

幸い乗客には、ケガはなかったが、みていた人の話では三十四、五歳、野良着の男が列車めがけて投げたもので、博多公安室では石を投げるのはよくあるが、スイカまで投げるとは…とあきれ顔。（フクニチ）

桃色キャンプ

〔福島県〕

福島市八木田上流の須川畔でキャンプしている青年たちが、夜な夜な飲み屋の女性などを引っぱり込んで〝よからぬ真似ごと〟に及んでいるから取締ってほしいと、このほど付近の人たちから福島署に届出があった。

太田町交番からお巡りさんがすっとんだが現場は聞きしにまさるものすごさで、毛ズネも露わなどの青年五人が昼間からテントの中でゴロリゴロリ。昼間は真ッ裸で水を浴び、夜は〝野獣〟のように町をはいかい、飲み屋の女などを連れこむという、まったくの〝原始生活〟ぶりでした。

しかし相手がいずれも三十歳を越した立派な社会人？ ばかりだけに〝補導〟という奥の手を使うこともできず、六法をひっくり返しても軽犯罪法ぐらいにしかひっかからない巧みさなのですっかりお手あげ、結局「なるべく早く解散してください」てなことでお茶をにごした。まず〝桃色キャンプ騒動〟のお粗末でした。（福島民報）

路上のキス禁止法

〔ローマ市〕

ローマでは今、公衆の前でのキスがいいか悪いかで大問題になっている。ことの起りは一九五五年六月二十日に最高裁判所で下された次のような判決にある。

「ある状態下におけるキスは不道徳的な行いを表わすものであるから、法律によって禁じられる」

これによると、道路である青年が自分のフィアンセに道路上であった場合、軽くキスするのはかまわない。しかしもし熱烈な抱擁がともなった場合は違法となるというわけだ。こうなると一番困ったのは、若い男女ではなく、お巡りさん達である。一体どの程度を取締り、どの程度は見逃すべきか劃一的な基準があるわけではない。一応きびしくしろ、というのでどんどん取締り、裁判所に送った。非難はごうごうと起ったが、それでも裁判所に送られたカップルは大半罰金刑に処せられ、千五百リラ（約九千円）の罰金を払う破目となった。

運悪くフィアンセとのキスの最中に、不粋な警官に捕まったある青年はこのやり方を腹にすえかね法廷において、ローマ法をひきあいに出して、とうとうとぶちまくった。彼のいうところによると、キスには三種類あるという。

オスカラム——これは婦人のほおにする愛情のこもった軽いくちづけ。

バシウム——真の愛から生まれた唇への口づけ。

スアビウム——婚約者同志もしくは、そうではない男女間の感覚的よろこびをともなった唇への長い口づけ。

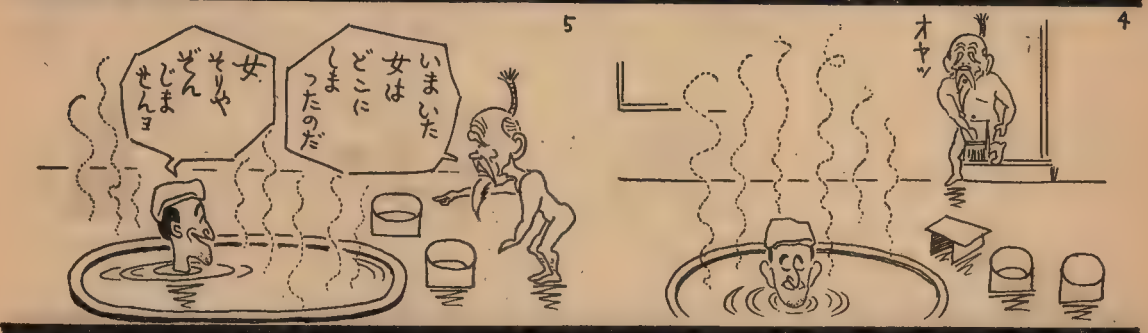
法で罰し得るのは第三のキスだけであり、彼の場合は明らかに第二の種類に属するものであるから無罪だと主張したのである。彼の熱のこもった弁論にがい歌があがり、彼と恋人は無事釈放された。

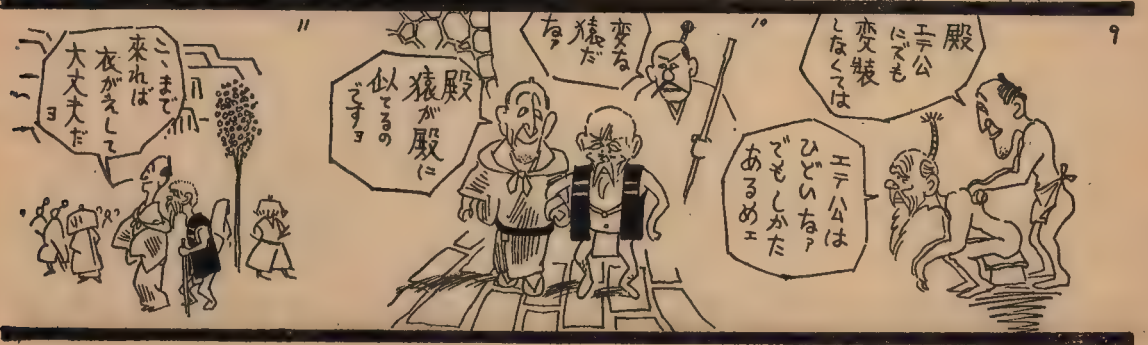
ニュース・ピックアップ 西から東から ニュース・ピックアップ 西から東から

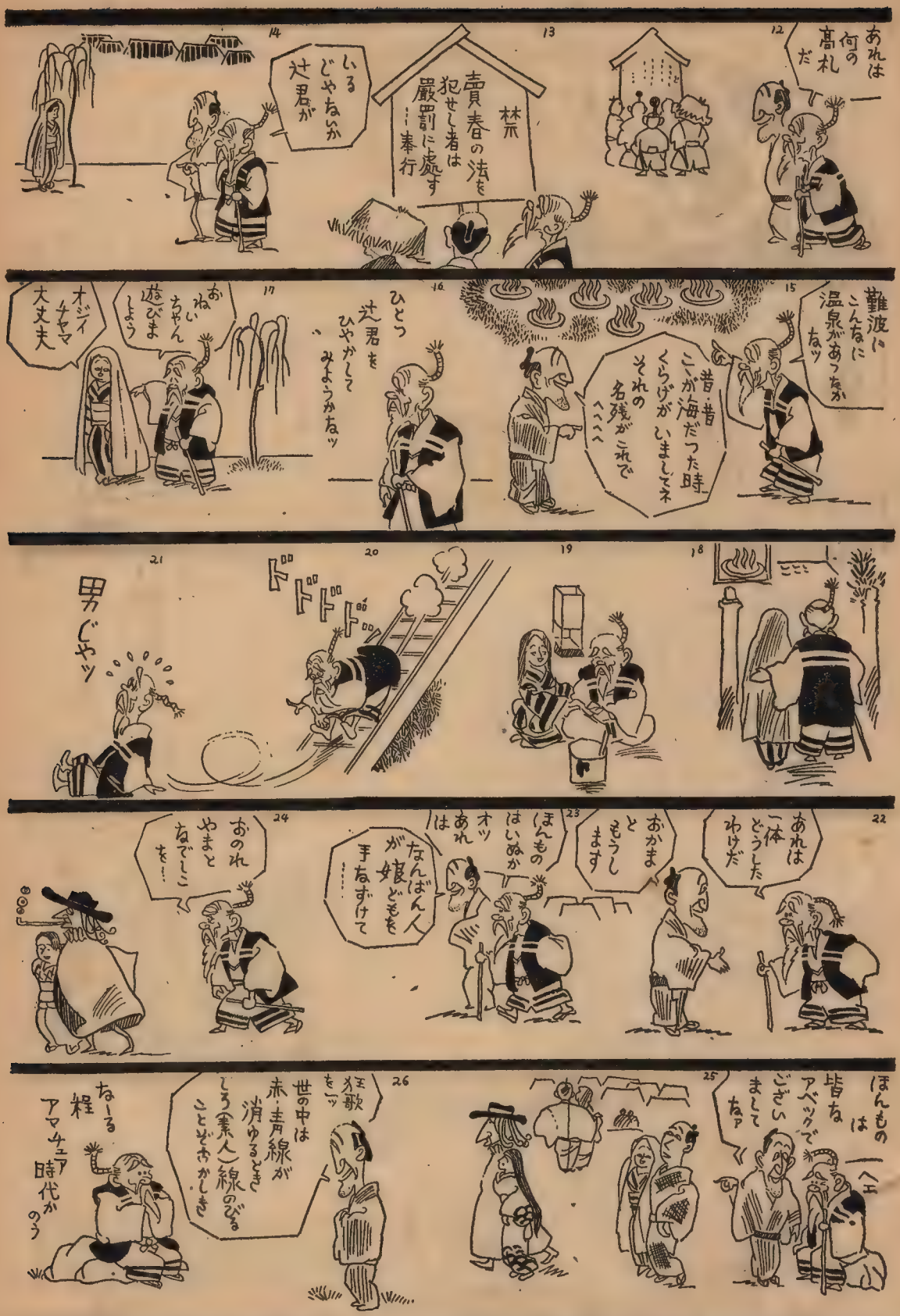
まんが太閤記

曽呂利新左衛門の巻

森 繁久彌






12
あれは何の高札だ
13
禁
売春の法を犯せし者は厳罰に處す
…奉行
14
いるじゃないか辻君が
15
難波にこんなに温泉があったかなッ
昔・昔ここが海だった時くらげがいましてネそれの名残がこれでヘヘヘヘ
16
ひとつ辻君をひやかしてみようかなッ
17
おねいちゃん遊びましょう
オジイチャマ大丈夫
18
19
20
ドドドドド
21
男じゃッ
22
あれは一体どうしたわけだ
23
おかまともうします
ほんものはいぬかオッあれは
なんばん人が娘どもを手なずけて……
24
おのれやまとなでしこを！
25
ほんものは一ヘエ皆なアベックでございましてなァ
26
狂歌をッ
世の中は赤・青線が消ゆるとき（素人）線のびるころぞおかしき
なーる程アマチュア時代かのう

東京アベック・コース❶〔300円コースの巻〕

なるべくロハですませる東京新アベック・コース。まずは2人で300円の巻!!

（次号500円コースの巻）

A）	
映画観劇料	160円
サンドイッチ・コーナー	120円
アイスクリーム	20円
	300円

B）	
映画観劇料	100円
サンドイッチ・コーナー	120円
アイスクリーム	20円
ハンカチーフ（女物）	60円
	300円

〔お待合せ〕

まず、ロハが第一条件ですが、いかに「お熱いのがお好き」でも、炎天下は、お嫌いざんしょう。

そこで、かの有名なる有楽町0番地の、有楽フード・センター、読売側出口、ジューク・ボックス前で、午後三時にデートいたします。

ここは、フード・センターの冷房が、そこはかとなくただよってくるし、おイスもあるし、ジューク・ボックスの音楽（もっとも、誰かが十円入れてくれるのを待つんですが）が聞けるし、ロハにしちゃイケます。

まあ、音楽が鳴ってない時は、冷房廊下を通りすぎるアベックの品定めでもしながら、「やっぱり、俺のアイコちゃんの方がよ、トテシャンだナァ――」なんて、勝手に鼻の下でも長くしていればよろしい。

〔スタート〕

まずは、「お好み劇場」の一覧表をごらんあれ。もちろん、上映している映画も問題でしょう。ですが、ですヨ。今日は、せっかくのご同伴なんですからネ。そこんトコを、しっかりハートに叩き込んで、座席数が一流館並みで、シートの坐り心地良く、ふんわか彼女の手を握っても、ふんわか応えてくれるような、ふんわかしたムードのあるところを選ぶんですナ。

〔コース〕

さあ、いよいよシネマへ。京橋際「テアトル東京」地下「テアトル銀座」へどうぞ。

ここは、くだんのふんわかムードにはズバリのところですから、せいぜいスクリーンならぬ、彼女をご鑑賞ください。（交際の深浅度にもよりますがネ）

○

現代生活に要求されるものは、まずスピード。そのスピードに＋安く＋美味しくのスリー条件をそなえたスナック・バーが、今、銀座マンのちょっとした話題になっている、銀座松屋地下のサンドイッチ・コーナー。

いわゆるセルフ・サービスの立喰いだが、ざるのお皿に、紙ナプキン、その上にホット・ドッグを盛りつけたあたり、なかなか心憎くい演出。おまけに、紙のおしぼりまでついてるとはグッド・アイデア賞もん。

（註・生キャベツ食べ放題。女の子に、これ美容にいいぜとか何とかいえば、彼女大喜びでモリモリ食べますヨ。タダだからいくらすすめても損はない）

味付けには、フレンチ・ソース、ケチャップ、マスタードが、置いてあります。

お飲物は、コーヒー、紅茶、ココアいずれも30円。ジュースは各20円明治牛乳は15円よりどざいます。

○

80円ではなく50円の映画をごらんになった方は、60円浮く計算ですから、松屋の一階ハンカチーフ売場で、彼女に一枚、彼女の好きなハンカチーフを買ってやんなさい。

女ってのは、こんなプレゼントに意外にヨワイです。

松屋を出てから、一路帝国ホテル、新館ロビーへ。冷房完備。

豪華なソファに深ぶかと身を沈めて、ゆっくり、何時までも、彼女とダベリングなさいませ。（大丈夫。これもタダ）

豪華な帝国ホテルのロビイ（ロハです）

○

さて、次はおまけに夜のアベックコース。少し汚職臭いのは別にして、虎ノ門特許庁裏あたり一帯は、眠れるビルのお蔭で、アベックにはもって来い。この辺で、彼女に、キスの特許でも許可して貰うんですナ。

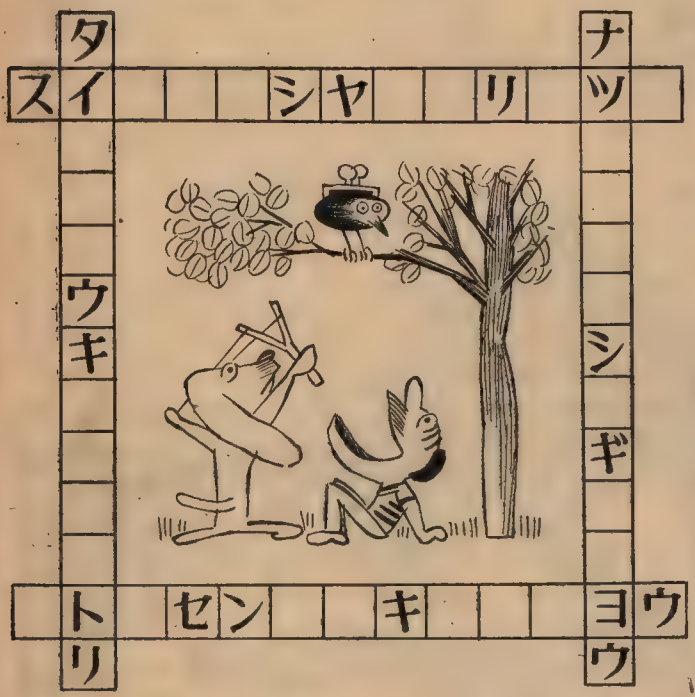
さて、のどがお渇きになったことでしょうネ。ところで、残るお金は僅か20円。それでも、捨てたもんじゃないですよ。今年のホラ流行の十円アイスクリーム。二つでメめて二十円。お金も使いようですヨ。

「お好みの劇場へ」

テアトル銀座―80円（ロード・ショウ並設備）
銀座文化劇場―80円（居心地80点）
ニュー文化劇場―80円（まあまあ）
銀座コニー―55円（何と申しましょうか）
丸の内名画座―55円（スクリーンに雨が降る）
東劇五階傑作座―55円（不傑作座）
築地名画座―55円（チョイとイカス）
松竹地下―50円（新築の強味）
有楽シネマー50円（入口より中身よし）
……いずれも冷房完備……

賞金10万円が当る ロケット・クイズ

いまはロケット時代――週刊漫画サンデーが、十万円を積んだロケットを、ボワーンとあなたのフトコロに打ちこみます。一家そろってたのしめる、新形式の「ロケット・クイズ」をどうぞ!!



⇦問題

■ヒント

〔上の列〕

①冷やして食べるとすごくうまい季節のくだもの。

②口からひっきりなしに飛び出すこともある。

③登山には欠かすことのできない持ち物。

〔下の列〕

①たばこの「ピース」にかいてある鳥。

②涼しい風がくるもの。

③サラリーマンにはこれが待ち遠しい。

〔左の列〕

①パンパンに張ってないと役に立ちません。

②そうじに使います。

③土俵の上が職場です。

〔右の列〕

①夏になるとオレは目方が四キロも減っちまうんだ。すごい……で。

②ご飯の中に入っていることがあります。

③成ると「金」になる将棋の駒。

〔パズルの解き方〕

解き方は、普通のクロスワードとおなじですが、言葉と言葉のあいだのマス目の黒つぶしは、自分で入れてゆくところが新しい形式です。

「ヒント」にふさわしい答を上の列と下の列は左から、左右の列は上から順に埋めてゆくわけですが例図のように、どの列も、かならず三つの言葉と、二つの黒つぶしが入ることになっています。

〔応募のきまり〕

☆賞金毎週十万円

①正解者のない場合は次回に加算します。

②正解者が二名以上の場合は、抽選により一名に五万円、残りの方に五万円を均分して差上げます。ただし端数百円未満は繰上げます。

③正解者が五十一名を越えた場合には抽選で当選者五十一名を決め、この五十一名に②の方法で賞金をさしあげます。

☆応募方法

週刊漫画サンデーにはさみこんであるクイズ応募用私製ハガキに必ず五円切手をはってお出しください。

応募の際は応募葉書の調査欄にかならずご回答をお書き込みの上、差し出してください。

実業之日本社社員及びその家族は応募できません。電話その他の問いあわせは一切お断りします。

☆締　切

八月十八日（火曜）午後三時までに到着のこと。

☆審　査

解答は出題者の原文に合致したものを正解とします。（解答原文は三菱銀行本店金庫に保管し、審査開始のときに問金庫から審査員が出します）

☆発　表

九月八日号〔八月二十五日発売〕

妖異大土教

高木彬光　永田　力画

（一）

この探偵事務所へ訪ねて来るお客は、だいたい変り者が多いのだが、今度の依頼者もすこぶるつきに変っていた。

「先生、死体を……探していただきたいのでございます……」

私立探偵、大前田英策の前に案内されると、その女は開口一番耳ざわりな金切声で叫んだ。

もう死んでいるかもしれないが――という但し書きのついた尋ね人なら、べつに珍しいことでもないが、最初から死体を探せという注文は、さすがの英策にとっても初めてだった。

女は三十四、五の女ざかり、ぴたりと身体にあった流行のスーツにしゃれたヘアカット、スタイルブックから抜け出して来たような感じだ。美人には違いないが、眼も鼻も口も、そして身体つきも、全体的にひどく大柄で、どこかあくの強い、奇妙にいや味をただよわせている。

しかも、いまは興奮のために、いささか取りみだしているようだが、ふだんなら、落着きはらっていて、万事に抜け目がなく、なかなか意地が悪くて、亭主を尻の下に敷いているような女だ――と、人相学の心得がある英策は、そんな判断を下した。

「死体というと、いったい誰の?」

面白そうな事件だという直感はしたが、英策は相手を観察しながら、わざと素気ない声でたずねた。

「うちの宿六――いえ、わたくしの夫のでございます」

「なるほど、ご主人が、何かの事情でおなくなりになったことは確認できるが、何かの事情で死体が見つからない――と、こうおっしゃるのですね。ただ、それが山や海で遭難したというような事情なら、私立探偵の領域ではなくて、山岳救助隊員か潜水夫にでも相談した方がよろしいでしょうが……」

「そんなことは、わかっております……主人の死体は、東京の町の真ン中でなくなってしまったのでございます……」

女は気違いじみた言葉を吐いた。

「死人の失せ物ですか?」

英策も少しあきれて相手の顔を見つめた。

博士が部屋のドアを開けると死体は消え、一塊の土の山がベッドの上にもり上っていた!!

「ええ、常識的には、そうとしか申し上げられませんの」
「常識的には？」
「ええ…死んだ人間が土くれになるなどということは、とても信じられませんもの…」
「何ですって？」
「迷信邪教の類を信じるのなら、主人はたしかに、土になってしまったのでございましょうが…まさか、そんな馬鹿なことは…」
「人が死ぬときに、よく土にかえる——という表現を使いますが、ご主人は、文字通りの土になったとおっしゃるのですか？」
「はあ…ともかく、主人の死体は、ちょっとの間に消えてなくなって、あとには土が一山残っていたのでございます…これが人間の仕業でなければ、わたくしも、あの気違いじみた大土教を信じなければならなくなるかもしれませんわ…」
「大土教？　何です、それは？」
次つぎと飛び出して来る奇怪な言葉に、さすがの英策も、完全に毒気を抜かれた恰好だった。
「主人が信仰しておりました、一種の新興宗教でございますの。わたくしはとんでもないインチキ宗教だと思いこんでいたのでございますが…ともかく、土を信仰する宗旨らしいのでございます。わたくしは頭から馬鹿にしていたので、くわしいことは存じませんが、何でも、万物の根元は土、大地にあって、人間も土から生れて土にかえる——土こそは、この世の苦悩から一切開放された、あるべき自然の姿だとか何とか…ややこしいことをよく申しておりましたけれど…」
「なるほど…」英策はかすかに溜息をついた。この事件に手をつけると、これから先、うんざりするほど、大土教の教義の講釈を聞かなければならないだろう…。
「それで、この教えを深くきわめれば、きわめるほど、拘束の多い人間の姿から早く解放されて、土になってしまうのだそうでございますの…主人は狂信者といってもよろしゅうございましたから、その教えが本当なら、大変な聖者の域に達していたのでございましょうが…なにしろ、死んで間もなく、土になってしまったのでございますからね」
自分の夫のことだというのに、女の口調には、どこか皮肉めいたところがあった。異常な事件にすっかり興奮はしているものの、まるで他人事に首をつっこんでいるような感じなのだ。
「ともかく、くわしいお話をうかがいましょう」
英策は鋭く相手を見つめていった。

(二)

女史タイプにはありがちのことだが、この女もよくしゃべった。そして、その割に要領を得ず、話はあちこちしがちだったが、それをまとめてみると、次のようなことになる。
女の名前は藤本富美子といって、銀座でかなり大きな洋装店を開いているということだった。相当な実業家だった父親から、莫大な遺産をゆずり受け、それを資本に、あとは腕と度胸と弁舌でその店をきりもりし、いまでは、デザイナーとしても、すっかり有名になっているらしい。
ところが、その夫の藤本達夫というのは、妻君とはおよそ正反対、小さな会社で、ようやく課長になれたという、平々凡々たるサラリーマンで、しかも怠け者で無気力で、だらしのないことこの上なし——という男らしい。もちろん、これは富美子の話だから、一方的な見解かもしれないが、妻の方が景気がよくて有名だということになれば、たしかに、そういうケースも生れるに違いなかった。
達夫にとっての、唯一のとりえは、彼がまれに見る美男子だったことだそうで、富美子もそれにひかれて結婚したらしい。しかし、いまとなっては、それも悩みの種で、女の子にもてる夫の浪費癖にはがまんができないという。
ところが、いつのころからか、達夫はさきにものべたように大土教という怪しげな宗教にこりはじめた。達夫としても女史的な女房に頭をおさえつけられていて、内心ではうつうつたるものがあっただろうから、それもあながち不自然な心理とはいえないかもしれないが、とにかく、彼はこの信仰にすっかりとり憑かれてしまった。
仏壇や神棚をおがむかわりにどこから持って来たのか、奇妙な土饅頭を五つ六つ並べて朝晩おがんでいるし、大地にひれふして何やらぶつぶついいながら、泥だらけの地面に顔を埋める。あげくの果ては身体を清めると称して、砂や土を身体にかぶったり、泥をなすりつけたりする。子供の泥遊びよりも、よほど始末におえないありさまだったそうだ。
そして、二言めには、「いまに自分は土になるのだ。そして、万物の根元たる神になるのだ」と、気違いじみた文句を吐いていたという。
ところが、それが実際に起ったというわけなのだ！
達夫は三、四日前から、気分が悪いといって寝ころんでいたが、何しろ日頃から仮病ばかり使ってさぼっている男なので、富美子は相手にもせず放っておいた。
それが、昨日になって、急に容態がおかしくなり、四十度ほどの熱を出して、昏睡状態におち入ったというのだ。
富美子は店の方に出ていたが、女中からの電話で、あわてて家へ帰って来た。
達夫の顔は真赤で、玉のような汗が流

、れ、意識もないらしく、ただうんうんと唸り声を発し、ときどき、「土……土……」と、うわ言をいうだけだった。

達夫が親しくしていた近所の、石沢医師がすぐに呼ばれて診察に来たが、彼はむずかしい顔をして、首をひねるばかりだった。そのうちにも、容態はまた急変して、しだいに呼吸はとぎれ、顔面も蒼白に変じていった。石沢医師が必死になって、カンフルなどを注射しても何のききめもなかったらしい。

一度、かすかに眼を開いて、石沢医師に何ごとかささやきかけようとしたのが最後で、それっきり、ぐったりとなって動かなくなった。

医者は、ちょっと様子を見ていて、「ご臨終です」と、悲痛な調子でつぶやき、それから、急にきびしい表情になって、一同を全部、その部屋から出した。そして、

「私の知識では、この死因は、残念ながら判断がつきかねます。実に不思議な死に方です。自然死ではないかもしれないという疑いを私は隠しません。私の知り合いの、権威のある医者にも見てもらおうと思いますから、それまで、一応、どなたも、この部屋に入るのはご遠慮ください。よろしいですね」

と、申し渡したのだという。

ところが、それから約一時間後、某大学の医学部教授という肩書きを持つ吉野博士が到着して、部屋のドアを開けると、驚いたことに、死体はどこかへ消えてしまって、ベッドの上には、土くれの小さな山ができていたというのである。

「ご主人がおなくなりになったというのは、何時ごろのことなのですか？」

英策は腕を組んで、考えこみながらたずねた。

「昨夜、たしか八時ごろだったと思いますけれど……」

「警察には連絡したのでしょうね？」

「ええ、死体がなくなっているとわかってから、すぐ……警察から人が参りましたが、わたくしたちの話にも半信半疑の態で……さっぱりわけがわからないらしいのでございます。それで、ぜひ先生にお願いしたいと思いまして……」

藤本富美子はしなを作っていった。

英策は、どうもこの女に好感は持てなかった。ただ、事件の異常さは、すっかり彼の興味をひきつけていた。

「わかりました。お引受けいたしましょう」

英策がきっぱりといい切ると、女はホッとしたように頭を下げ、そして、ハンドバッグの中から、もう小切手帳をつかみ出していた……。

（三）

とりあえず、現場を見ようと、英策は富美子が乗って来た自家用車で、すぐに田園調布にある藤本家へむかった。

木立ちにかこまれた、瀟洒な二階立ての建物だった。

最近では、この夫婦の仲も、すっかりさめきっていたのか、二階に二つ並んだ部屋が、それぞれべつべつに、達夫と富美子の寝室になっていた。

達夫が寝ていた部屋には、ベッドが一つ、サイドテーブルに洋服ダンス――それだけならば何の変哲もないが、部屋の片隅に、奇妙な神棚のようなものがあって、箱庭ほどの大きさの砂の入った箱の上に、赤土や黒土や白土など、さまざまな種類の土で造った丸い玉が並べられていた。これが大土教のご神体なのだろう。

ベッドの上のシーツは、警察で何かの参考資料にするために持って行ったということだったが、気をつけてみると、床の上にも、すこしばかりの土くれがこぼれ落ちていた。

英策は窓のところへ歩みよって、下をのぞいた。すぐ下に一階の屋根の一部がのびていて、窓さえ開いていれば、そんなに運動神経が発達していなくても、忍びこむことはできそうだった。

「昨夜、この窓は開けっぱなしにしてあったのですか？」

英策は、案内して来た富美子にたずねた。

「ええ……昨夜はむし暑かったので、風を入れた方がよいだろうと思いまして……」

「なるほど、そうでしたね」

英策はうなずいていたが、やがて、

「昨夜、石沢さんがみんなを出してから、誰もこの部屋に入らなかったと断言できますか？」

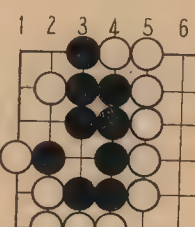
「ええ……わたくしと女中がドアを見張っていたのですから……しかも、石沢先生が部屋の鍵をおあずかりになったのです。先生も、電話をかけに、ちょっとの間この場をはずしただけで、あとはわたくしたちとずっといっしょでした……」

「なるほど。それでは、死体のほかに、この部屋から、別に何もなくなったものはありませんか？」

「さあ……わたくしの存じておりますかぎ

詰碁

出題　七段　村島誼紀

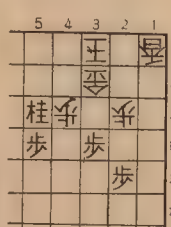


黒先でどうなる？

考える範囲は狭いがヘタをすると無条件で死ぬ。急所はただ一つ。

詰将棋

出題　七段　山田道美



▲持駒　飛、角、金、桂

（ヒント）持駒は多いが、やたらに追っては詰まない。何よりまず玉の1筋への逃げを警戒すること。考慮時間十分で、初段。

（解答は一〇四ページ）

りでは別に何も……」

英策はつかつかと洋服ダンスの前に進み出た。

「衣裳の類もなくなっていないのですね？」

富美子はしばらく探していたが、やがてうなずいた。

「夫がわたくしの知らぬ品を買って来ていたとすれば別でございますが、そんなこともございませんでしょうし……」

「それでは、ベッドの上にあったという土くれについての心あたりは？　もともと、この部屋に持ちこんであったものなのですか？」

「いいえ……そんなことはないと思いますが……女中に聞いてみましょう。わたくしの留守の間、夫の世話をしておりましたので……」

小ぶとりの、いかにも田舎から出てらしい十八、九の娘が呼び出された。永井和江という名前だという。

「たしかにどこにも、そんな土くれはありませんでした。どこかにかくしてあったのなら、ともかく……」

女中はそう答えた。

「わたくしは、これはきっと、大土教の連中のやったことだと思いますわ。主人をだしにして、奇蹟のように見せかけて、自分たちの信仰を拡めようと思ったのではありませんかしら？　そうでもなければ、死体を盗み出すことなんて考えられませんし、いくら何でも、本当に土になったということは……」

富美子は男のように、掌をにぎりしめてつぶやいた。

「なるほど、一応ごもっともなお考えですね。ただ、ご主人が死んでから、わずか一時間ばかりのうちに、どうして彼等がそれをかぎつけて、そんな真似ができるのでしょう？　それとも、この家には、ご主人のほかに、大土教の信者がいるのですか？」

英策は、するどく富美子を見つめながらたずねた。

「まあ、とんでもございませんわ。この家には、わたくしたち夫婦と、わたくしの弟と、この女中の四人がいるだけ――主人のほかには、誰も、あんな妙なものを信じている者はございません……」

「その弟さんというのは？」

英策がたずねかけたとき、背後から、

「ここにいますよ」

と、太い男の声がした。二十七、八の、がっしりした体つきの青年が立っている。ただ、その顔は、どことなく、女たらしらしい感じがただよっていて、そのために、せっかくの引きしまった男性的な容貌を、いくらか割引きにしている。

「弟の剛一です」

富美子がいいかけるのをさえぎるように、剛一は、

「初めまして。高名な大前田先生にお眼にかかれて光栄です。私は姉の世話で、あるデパートにつとめておりますが、月給は小遣い銭、まあ、姉の居候のようなものでして頼りにならぬのは、土に化けてしまった義兄と同じです」

と、聞きもしないことをべらべらとまくしたてて、

「ところで、昨夜のアリバイは――とお聞きになるのでしょうね。それが弱ったことに、昨夜はあちこちを飲みまわって、べろべろになって、十一時過ぎにご帰館になったような次第で……どこにいたかもろくに

八っ当りサングラス

○オートバイが消音器をはずしてバタバタとすごい音を立てて行くのを、なぜもっと取締らないのか。交通週間とか、なんとか週間だけしか、お巡りさんは点数を稼ごうとしないがおかしい。

○犬をつれて散歩というとテイサイがいいが、その目的は、屋外でのハイセツをさせるためであることは誰でも知っている。それが軽犯罪であることはきめられているそうだが、訴えた人も罰せられた人もないようだ。法律というものはカクも下らんものだといいたくなる。

○月に十五日の配給でも、もうヤミ米を買うのは商売屋だけらしい。結構、パン食、粉食で間に合って来たのに、なぜ、お米の配給制度がつづくのか。農林省の役人とヤミ屋が失業し、国鉄が減収になるから、なんてのはほんとうかね。

○某テレビのプロデューサーの中に、何々先生のところに行くといって手土産を買ったことにし、自動車に乗ったことにして、自分の家を建てたジンプツがいるそうだ。どこの世界も同じと嘆きたくなるね、全くの話が。

○毎朝の新聞を寝床であおむけになって読む時、バサバサと顔に落ちてくるのが折り込みの広告だ。癪にさわるから、一度も内容を読んだことがない。とにかく近頃は紙のムダがはげしい。デパートでもどこの店でも、あんなにムダづかいするほど、パルプ資源は日本にはないはず。アメリカの真似ですかね。

○突然の値上げにフン慨して、三大新聞の一つをやめたら、配達所から泣き込んで来た。だからいってやったのである。「君ンところは値上げしたってウチの新聞をやめるものはないというハラらしいから、止めたんだよ。別に不自由はしないよ、その後。」

○道徳教育を逆コースだといえば、進歩的だと思われるつもりでツベコベいっている方がたにモノ申す。むかしは常識として、また、良識として皆が実行していたことを現在やらないから、お忘れになっちゃいませんか、という程度のことにどうして、そうメクジラを立てて文句をいうのですか？　知っちゃいないよ、全くの話がね……。

○浅草は斜陽の街である、というと浅草ファンが怒るだろうが、昼日中、伝法院の横丁あたりは閑古鳥が鳴いてるようなさびれかた。六区の中も、黄色い水の中に氷をブチ込んで一パイ五円などとチンピラが売ったりしているようでは、埼玉県浅草区といわれてもしかたがあるまい。

新宿、渋谷、池袋に追いつく日があるとは思えない近況である。

覚えていないのですよ」と、まるでからかうような調子でいった。

（四）

これ以上ねばっていても、何の収穫もなさそうなので、英策はわずかに落ちていた土くれをハンカチに拾い集めて、この家を出た。次に、石沢医師を訪ねるつもりで、住所をたずねると、すぐ近くだから——と剛一が案内役を買って出た。

なるほど、白塗りの石沢医院の建物までは、歩いて五、六分ばかりの距離だった。

取次ぎに出て来たのは、二十歳ぐらいの、いくらか神経質そうな感じのする看護婦だったが、そのとき剛一が、彼女にすばやく眼くばせしたように、英策には思われた。

石沢医師と藤本家は親交があったという話だったから、その関係で、剛一がこの若い看護婦に手を出しているのかもしれないと、英策は考えた。いや、きっとそんなところだ……。

剛一は英策を、ちょうど手のあいていた石沢医師にひきあわせて、そのまま帰って行った。

「藤本さんとは、深いおつきあいだったのですか？」

英策は二人きりになると、早速質問を開始した。

「ええ、ご主人の方とはね……性があっていたのでしょう」

石沢医師は、眼鏡の奥で、眼をパチパチさせながら、つぶやくようにいった。小柄であまり風采の上らない男だった。しかも、職業柄か、その顔の表情はほとんど変化しないので、まるで生気というものが感じられない。

「それでは、大土教についてもご存じですね？」

「いや、それだけは、私にもわけがわからないのですよ。なぜ、あんなものに藤本さんがとりつかれたのか……彼は、そのありがたいご宗旨をさんざん私にもくどきましたがね、どうもちんぷんかんぷんで……私も、科学者のはしくれですからねえ……」

「なるほど、それで死因について、何か疑問があったということですが……」

「ええ、情ない話ですが、私にはわかりませんでした。とにかく、あんなに原因不明の高熱が出て、急死したということは、私の知るかぎりでは、例のないことなのです。まるで、超自然の力で殺されたような……」

石沢医師は急に黙りこんだ。しばらく、不気味な沈黙が流れた。

「みんなを部屋から出したのは、どういうわけなのです？」

「それは……他殺の疑いがあるかもしれないと思いましたので、一応、現場を保全する必要を感じたからです」

「なるほど……しかし、外傷とか、毒殺の兆候などはなかったのですね」

「解剖したわけではありませんから、はっきりしたことはいえませんが、私の見たかぎりでは、そのようなことはありませんでした」

「藤本達夫氏には、とくに持病といったようなものは？」

「べつにありませんでしたね…」

「失礼な質問ですが、死んでいたことは、たしかなのでしょうね？」

相手は初めて顔色を変えて、

「お疑いになるのは勝手です。私は自分の診断を信じます」

と、たたきつけるような調子でいった。

はっきりした根拠はないのだが、どうも英策には、この医者が何かの秘密を握っているような気がしてならなかった。ただ、いまとなっては、死体の行方をつきとめないかぎり、彼の言葉を疑ってみてもどうにもならない。何か、割り切れぬものを感じながら、英策は石沢医院の門を出た。

「また、この事件にも首をつっこんで来たね。しかし、提供できるような情報はゼロさ。最初はこちらも、たちの悪いいたずらだろうかと思ったぐらいなんだ。捜査の進行状態はさっぱりだね」

その夜おそく、大前田英策が警視庁へ顔なじみの黒崎警部を訪ねて行くと、警部はそんなふうに話し始めた。

「シーツの上の土は、ただの土だ…少しも怪しいところはない。もっとも、あの家の庭の土とは、土壌の性質が少し違うようだ」

「うむ、それは僕も調べて見たよ」

英策はうなずいた。そして、

「大土教というのを、くわしく洗ってみたかね？」

「調べてみたが少しも要領を得ない。変なお説教を聞かされて、うんざりしたのが関の山だ。あれは気違いの集りだよ。藤本達夫が土になったのは、偉大なる彼の信仰心のあらわれだとぬかしやがった」

「そんなところだろうと思ったがね…ほかに手がかりはないのかい？」

「いまのところはね…いろいろ関係のある連中の昨夜の行動を洗ってみようと思っているが…いつも、あんたには借りがあるから、かくそうとは思わないよ。ただ、誰かが死体を盗んだとしても、いったい何のために、そんな馬鹿なことを…？」

黒崎警部はうなるようにいった。

「うむ…それに、原因不明の怪死とはねえ」

英策がつぶやくようにいったとき、電話のベルがけたたましく鳴りひびいた。

「え、何？　何だって…よし、すぐ行く！」

受話器を手にしたまま、黒崎警部は呆然としたように、

「大前田さん、医者の石沢茂が殺された…」

これは英策にとっても、まったく予想していなかった出来事だったのである。

（次号完結）

ウイークリー・オラクル　今週の占い

8月11日から17日までのあなたの運勢です。
家をでる前にちょっと、この頁をごらんください。

〔1月生れ〕あなたのライバルがあなたをジッと観察しています。あなたの危機は午後に多いでしょう。今週はムダづかいが多い。

〔2月生れ〕思いもかけぬ人から好意を寄せられます。その好意をうけるかうけないかが、あなたの運命のわかれ道、というほどのことはありませんが…。三字の苗字の人に気をつけなさい。

〔3月生れ〕三月生れは浮気だ、なんてヨロコンでいてはいけません。今週はなるべく、緑色のアクセサリーをおつけなさい。ネクタイ、ベルトその他ハンカチだってその方がいいことをもたらすでしょう。

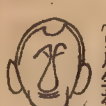
〔4月生れ〕大体において午前中にいいことが多い週です。他人にいいことをするようにつとめれば、なお、いいことがふえます。なァに、落ちたペンを拾ってあげる程度でもいいことはいいことなんです。

〔5月生れ〕なるべく、さっさと家におかえりなさい。そうして、ラジオかテレビ、または読書に、ヒッソリとすごすこと。これが来週からの幸運をまねくのです。

〔6月生れ〕ギャンブルに強い週ですね。大して意気込まずにいるほど強い。しかしヤマを張ってはいけませんよ。なりゆきにまかせておいても、勝つものは勝つ、という運勢です。

〔7月生れ〕病気に気をつけてください。寝冷え、腹こわし等。あとはしごく順調です。

〔8月生れ〕安心しきっていた愛情に、うっかりしていると影がさす。その原因はあなたなんですから、ね。大体、あなたは気が多すぎる。



〔9月生れ〕ね、あなたは純情だっていわれたでしょう？　やや過大評価の気味があるが、そこで一ふんばりすると、モノになります。

〔10月生れ〕失せものにご注意。いろいろなものをなくしやすい週ですぞ。品物ですむうちはいいですがね。とにかく気をつけること。

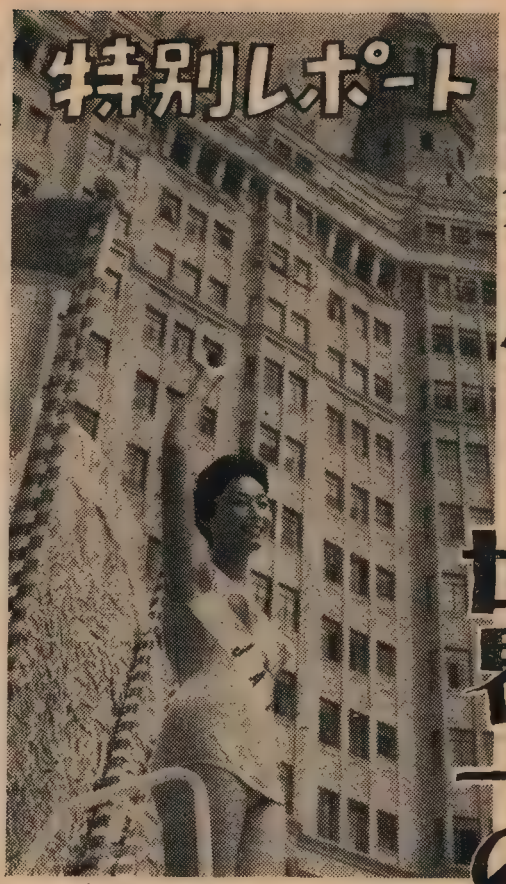
〔11月生れ〕なんとなくホンワカホンワカとするようなことばかり起る週です。とにかく評判がいい、好かれる、どうです、少しおどんなさいよ。

〔12月生れ〕年寄にウケルことばかりつづいておこる。まア、将を射んとせば馬を射よということもありますからね。せいぜい年寄りのごきげんをとりむすぶこと。

特別レポート

米国務省を悩ます『ミス・ユニバース世界一の美女』

ミス・ユニバース選出には、政治とスキャンダルがついてまわる。



（ミス・ユニバースに選出された日本代表児島明子さん）

頭を悩ます国務省

「ことしは、どうにか、うまくいったようだ」

ミス・ユニバースには日本代表児島明子が決定したが、審査委員たちは、異口同音にためいきともつかぬ声をもらした。

もともと、ミス・ユニバースの選出は、アメリカ合衆国カリフォルニア州の〝観光都市〟ロングビーチ市主催で、ユニバーサル映画会社、マックス・ファクター化粧品会社、カタリーナ洋品会社（水着類製造）、婦人服店などの協賛になっている。すべては、主催者、協賛者たちのPRなのだ。もちろん、スポンサーたちの代表が、審査員の席をしめているが、選ばれた美女が、彼らのお気に召すことが第一条件だ。

ところが、この一部の人たちのPRが、アメリカ一流のマス・コミの威力により、世界的な行事に発展するにつれ、思いがけずも、アメリカ政府の高等外交政策にまで、影響するようになった。

つまり、参加四十八カ国代表のうち、どこの国の代表が一位の栄冠を勝ちとるかが、それぞれの国民の大きな関心のマトになったからだ。

「ミス・ユニバースの選出で、一番頭を悩まされるのは、ワシントンの国務省（日本の外務省に相当）の首脳者たちだ」

ということさえ、公然といわれている。

つまりは、ミス・ユニバースの選出には、アメリカの外交政策が、反映しているというのだ。事実、これまでの審査の結果も、そのことを、はっきりと物語っている。

代表選出の醜聞

こうした事実と審査の欺瞞性がはっきりと、全世界の人々の目の前にさらけ出されたのは、一九五六年のことだ。

この年のミス・ユニバース・コンテストは、アメリカ国内の地方代表選出から、世界大会当日、さらに、その後まで、醜聞に終始した。

まず、オレゴン州代表選出にあたり、審査員をはじめ、一般州民が、一番美しい容姿のリラ・ガールベルグの当選確実と信じていたのに、彼女より劣るソンジヤ・ランゼムが代表に決定した。

ソンジヤは、ミス・ユニバース地方大会のスポンサーであり、審査委員長であるアーブ・ローテンベルグのもとで、働いていた女性。アーブが、他の有力審査委員を買収して、彼女をミス・オレゴンに当選させたのだった。

それよりひどいのは、その年のミス・アメリカで世界大会の一位と目されていたレオナ・ゲイジ（十八）が二人の男児の母であることが、コンテスト前日にバクロされたことだ。しかも審査員たちがそれを知っていた事実である。

この思いがけぬ醜聞に、ミス・ユニバース選出は、ごうごうたる非難をあびながらも、その年は、アイオワ州から選出されたアメリカ代表キャロル・モリス（二十）が第一位のトロフイを獲得した。

ところが、このとき、中南米諸国民は、

「こうした不正は許せない。そのうえ、われわれの代表は、一位のアメリカ代表より、はるかに、美しい」と、審査員のみか、アメリカ国務省当局に、くってかかった。

最高（トップ）の外交戦（レベル）

この中南米諸国の不満に、一番あわてたのは、ワシントンの国務省首脳者たちだ。

「これでは、南アメリカ、ラテン・アメリカ諸国との友交関係にヒビが入る」

と、ともすれば、アメリカに悪意を抱き、小国間で革命・動乱さわぎを演じている中南米諸国とのデリケートな外交関係と国民感情を憂慮した。

そのせいか、翌年、一九五七年には、ペルー代表が一位、ブラジル代表が二位、キューバ代表が四位、さらに、その翌年、五八年には、コロンビア代表が一位、ブラジル代表が二位、そして、また、ことし、ブラジル代表が五位という、「大サービス」となった。しかも、国内感情を考慮して、アメリカ代表は、必ず、五位以内には、入れてある。

そのうえ、五七年度、ペルー代

表のグラディス・ゼンダー(十七)は、大会規定の満十八才に五ヵ月足りなかったのだ。

そのため彼女が、失格しようとしたとき、ワシントン駐在ペルー大使は、国務省に故ダレス長官を訪ね、さらに、ロングビーチへ飛び査審委員たちに、

「ペルーでは、十七才六ヵ月を越えておれば、法律的に十八才として考えるのだ」

と、奇妙な論理を主張してまわった。

もちろん、大使をはじめ、ロスアンゼルス駐在ペルー国総領事も〝最高の外交戦術〟を展開したことは、いうまでもない。

その結果、審査員のスポンサー代表ローレンス・コリンズは、

「ペルー代表の入賞をあらゆる好感情をもって歓迎する」と、一位決定をほめたたえた。

しかも、ペルー代表の父親は、さらに、わがままな条件をだした。

「マックス・ファクター化粧品会社の宣伝のための六ヵ月間のヨーロッパ旅行には、付添いとして、娘の母親をつけること。米国内をまわることは、おことわりする。カタリーナ社の水着宣伝のために娘は、水着モデルになって歩くには不適当だ」

というのだった。

この条件も、「最高の外交戦術」のため、審査当局は、目をつむってのまざるを得なかったのだ。

岸首相のみやげ

「こんなに、世界中で、一番感謝されない仕事はない。もし、ある国の代表が、ミス・ユニバースに選ばれないとなると、われわれ審査員は、その国はもちろん、アメリカ国内でのあらゆる方面から、おびやかされる。しぜん、総花式にならなければならない」

(アメリカ代表に選ばれたときのレオナ・ゲイジ)

と良心ある審査員の一人は、いっている。

このことは、過去八回のコンテストで、一度も同じ国の代表が一位にえらばれたことがないという事実が証明している。

ハリウッドの有名な映画評論家シドニー・スコルスキーは、このミス・ユニバース審査を、「あらかじめおぜんだてした、スキャンダルにみちたデッチあげだ」

とさえいっている。

こうした内部事情を見てか、八年前、このコンテストの創設以来の最大スポンサー、ユニバーサル映画会社は、ペルー代表が一位獲得の年以来、それまで続けてきたミス・ユニバースと自動的に一年間契約することを打切った。

事実、それまで、ミス・ユニバースやアメリカ代表や次点者など「世界の美女」が六十五人、ユニバーサル社と自動的に契約したが、一人として、スターになった女性はいないのだ。

その六十五人のうちには、うまく、金持ちの男をつかまえ、幸運な結婚をした女性もいるが、それは、片手の指の数にも足りない。大部分は、ハリウッド付近の狼のえじきになって棄てられたり、金持ちの男をあさり歩いたりしている。

或るアメリカの雑誌では、こう非難している。

一　ミス・ユニバース選出は、一海水浴場の客よせのお祭りに、衣裳屋、化粧屋などがスポンサーになって、自社の製品のPRをしているだけのものだ。

二　用意周到にたくまれたサギであるからコンテストとはいえない。

三　地方予選は、欲深かで、無節操な各界のボスどもの手にぎゅうじられている。

四　ロングビーチの世界大会の審査員のなかには、スポンサーの意向次第になる、いかがわしい人物がいる。

五　レオナ・ゲイジのようなスキャンダルがある。

六　候補者が審査員やスポンサーと共謀している者やワイロを出す者がある。

こうした非難が、果してあたっているかどうかはわからない。

しかし、すでに、本年四月に発行されたアメリカの雑誌には、「ミス・ユニバース一位の中南米代表は、片づいた。つぎは、東洋かヨーロッパの国の代表だ」

と書いてある。

そして、選ばれた結果は、日本一位のほか、ヨーロッパ二国、南米一国、アメリカ代表も加えるという「そつ」のなさだ。

偶然の一致かもしれないが、こんどの日本代表一位が発表が、ちょうど、アメリカについた岸首相を喜ばせたタイミングと、有力な(外遊みやげ)となったことはまちがいないようだ。

王子製紙
十條製紙　代理店
本州製紙

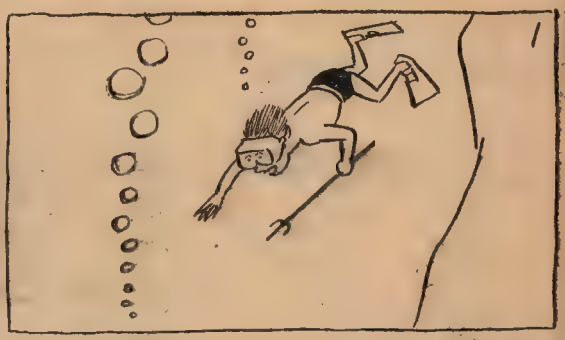
三幸株式會社

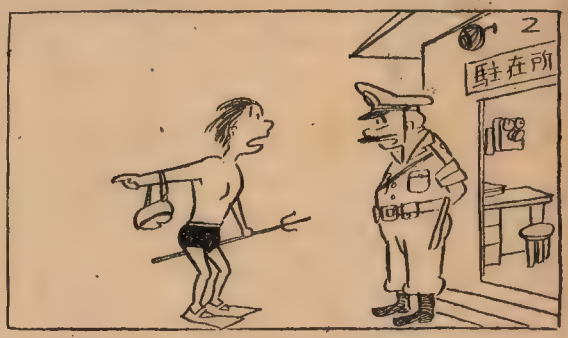
東京都中央区銀座西二丁目五番地（三幸ビル）
電話　京橋（56）代表 8561
支店　大阪・名古屋・札幌

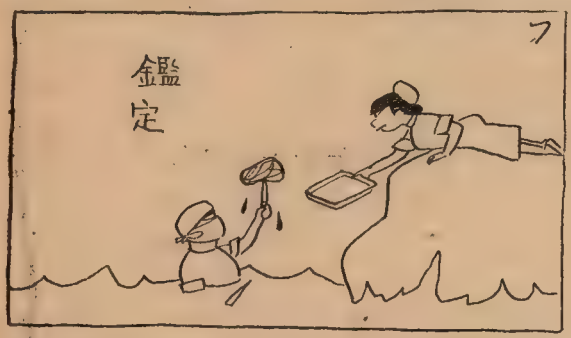
スリラー・メモ

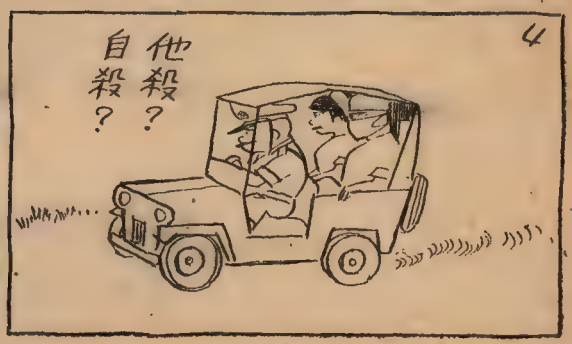
海底の死体

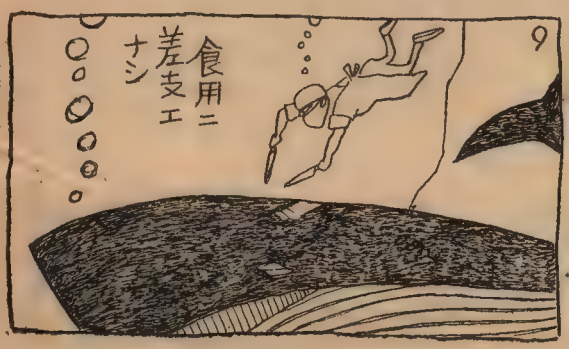
松下井知夫











海外傑作マンガ

■西部のパーキング・メーター

■ちゃっかりアベック

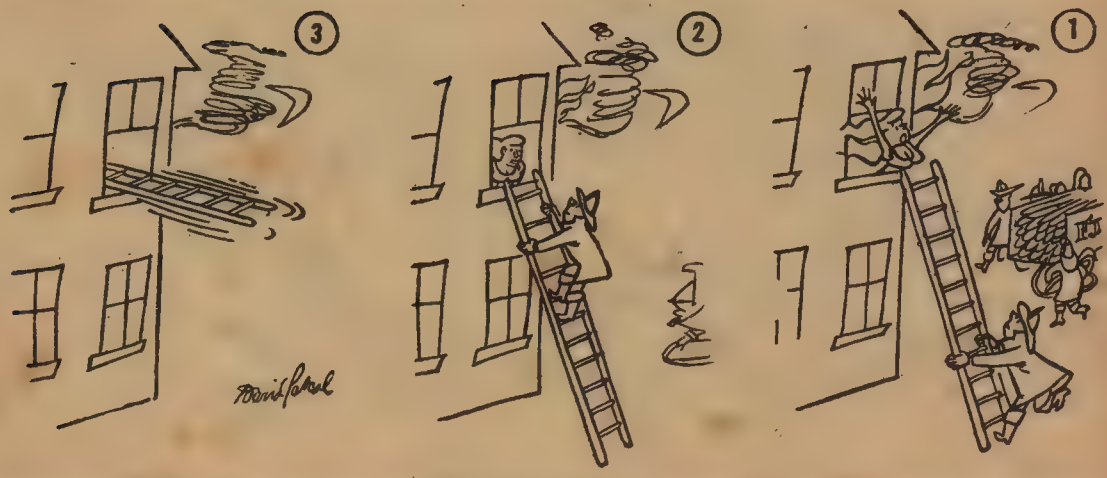
■衛生工事店の店先でアワテ者
「トイレを貸してください」

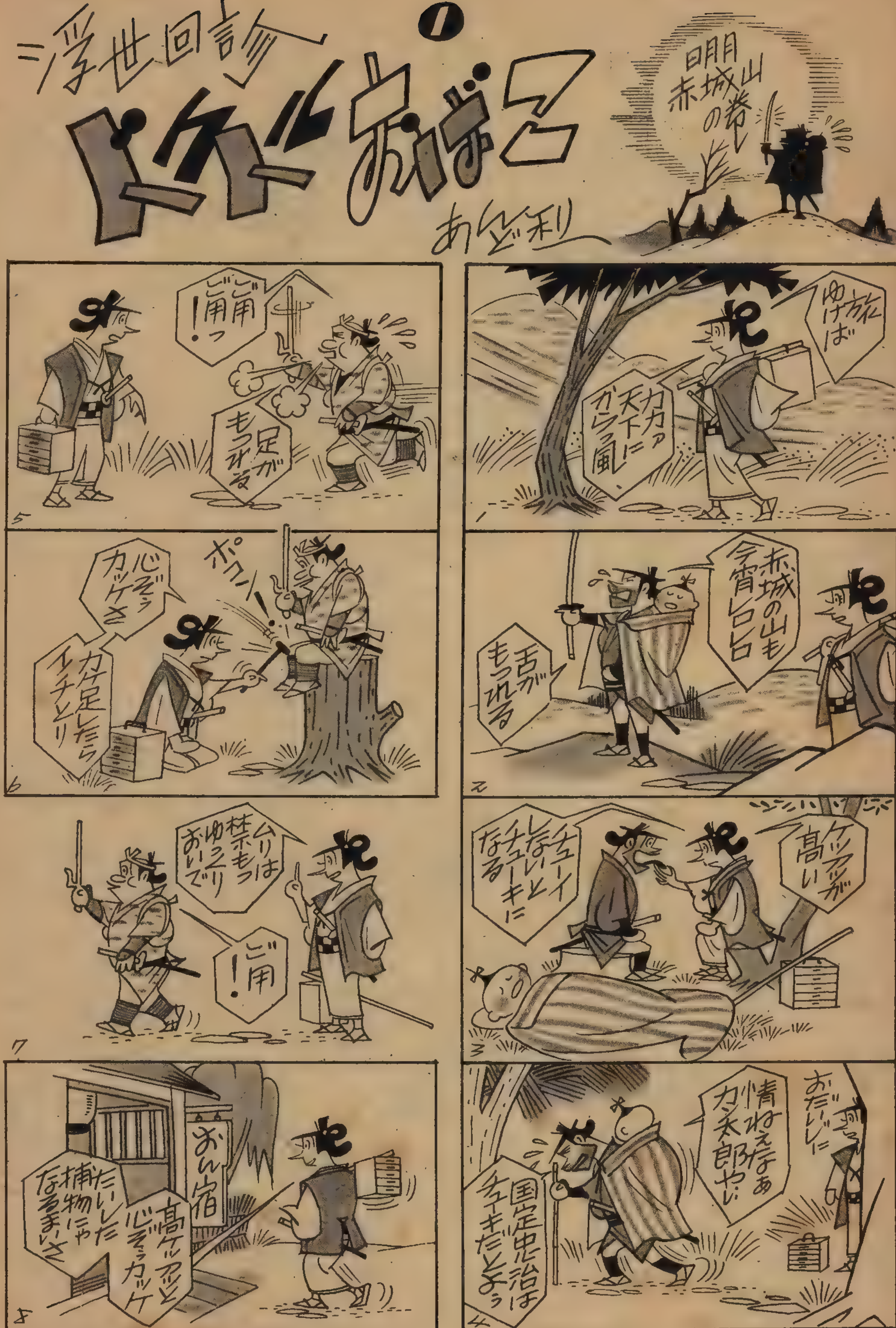
■とんだ魚釣り

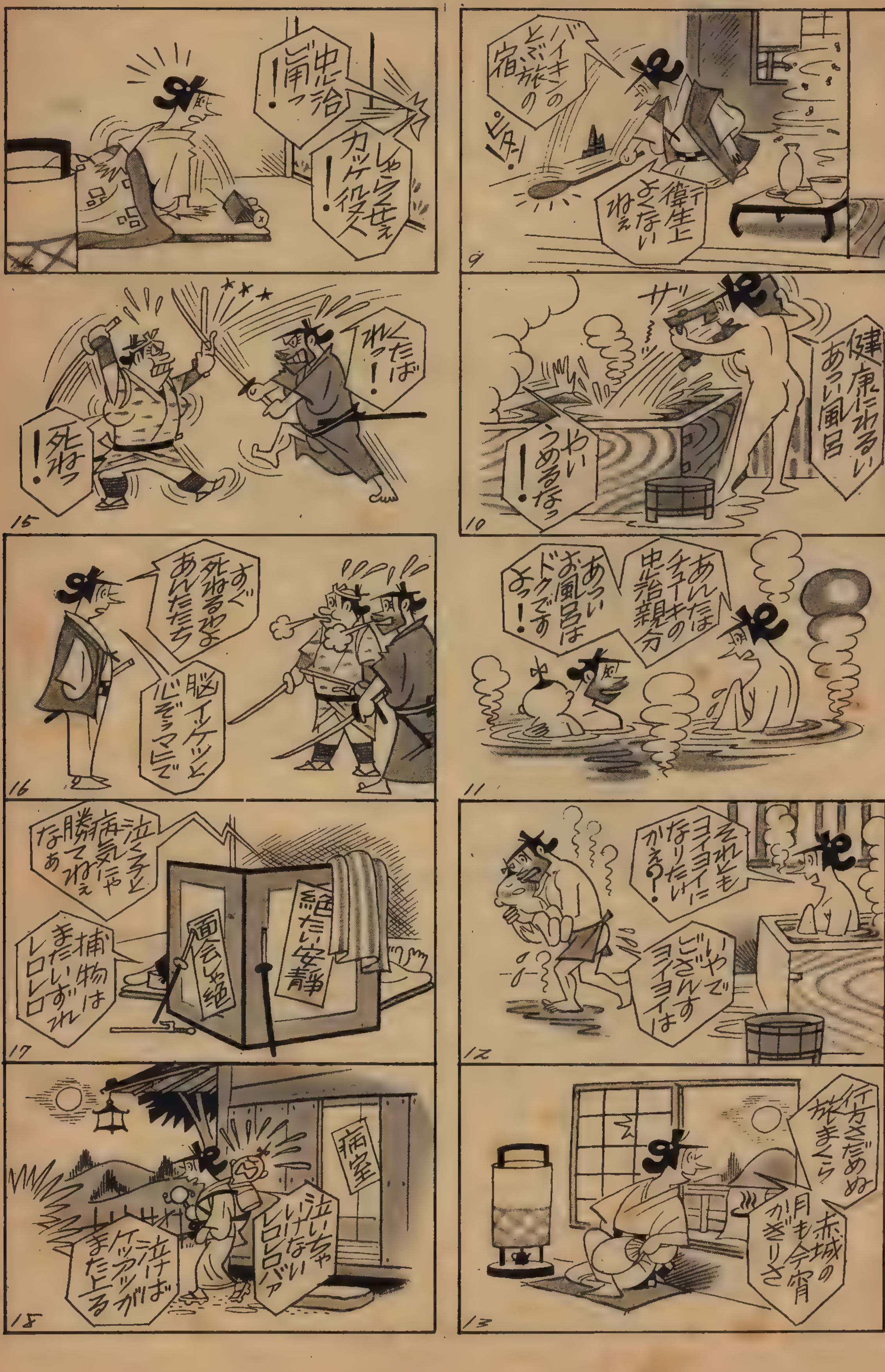
海外傑作マンガ

■モモ色消防夫

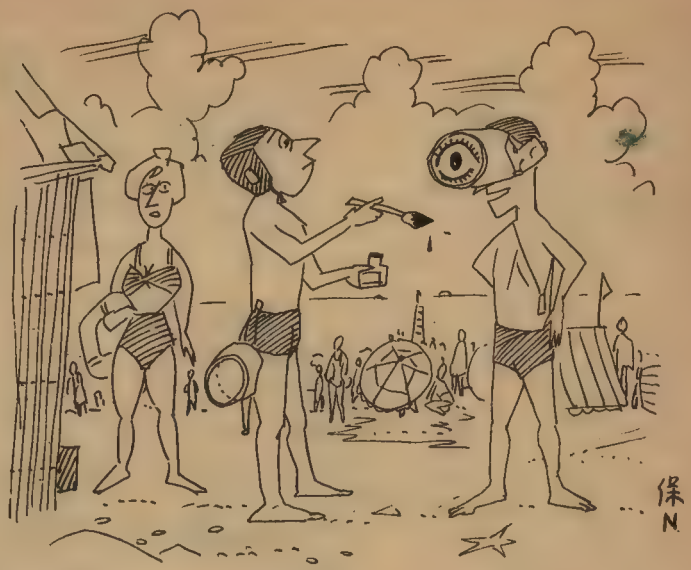
■「どうだい、どう料理しようか」「食べちまうにはちょっと惜しいよ」




浮世回診
ドクターおぼろ ①
明月赤城山の巻
あんどう利
旅ゆけば
カカァ天下にカラッ風
赤城の山も
今宵
舌がもつれる
ケツアツが高い
チューイしないとチューキになる
おだいじに
情ねえなぁカン太郎やい
国定忠治はチューキだとよう
ご用ご用っ!
足がもつれる
ポコン!
心ぞうカッケさ
カケ足したらエチとり
ムリは禁もつゆっくりおいで
ご用!
おん宿
高ケツアツと心ぞうカッケ
たいした捕物にゃなるまいさ


バイキンのとぶ旅の宿
ピタ!
衛生上よくないねぇ
ザーッ
健康にわるいあつい風呂
わいうめるなっ!
あんたはチューキの忠治親分
あついお風呂はドクですよっ!
それともヨイヨイになりたいかえ?
いやでござんすヨイヨイは
行方さだめぬ旅まくら
赤城の月も今宵かぎりさ
忠治ご用っ!
しゃらくせぇカッケ役人!
くたばれっ!
死ねっ!
すぐ死ねるやまあんたたち
脳イッケツと心ゾウマヒで
泣く子と病気にゃ勝てねぇなあ
捕物はまたいずれレロレロ
絶たい安静
面会しゃ絶
病室
泣いちゃいけないレロレロバァ
泣けばケッアツがまた上る

漫画大会



⇨「これでいけば今晩のお化け大会は絶体だ」

永井　保

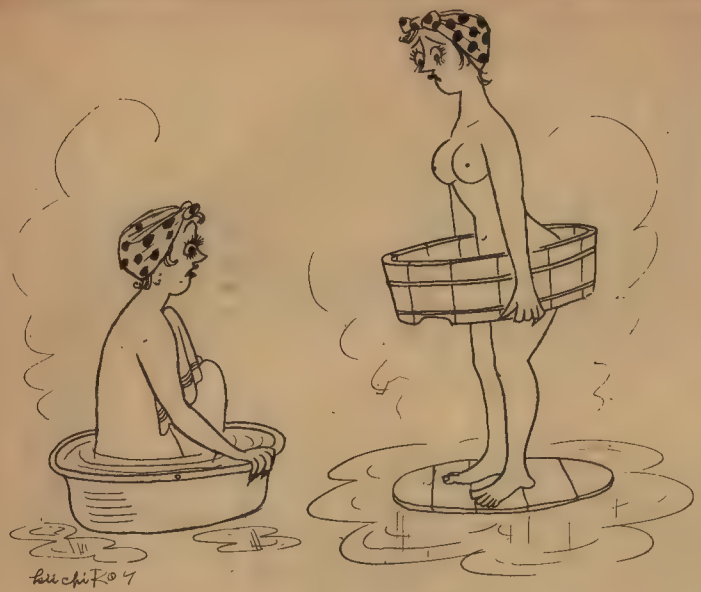
⇦ 林間学校
先生「皆さん、外へ出てはいけません」

南　義郎

⇨ モモ切り魔
「へへへ……バックルがカミソリとは気がつくまい」

御法川富夫

暑気払い

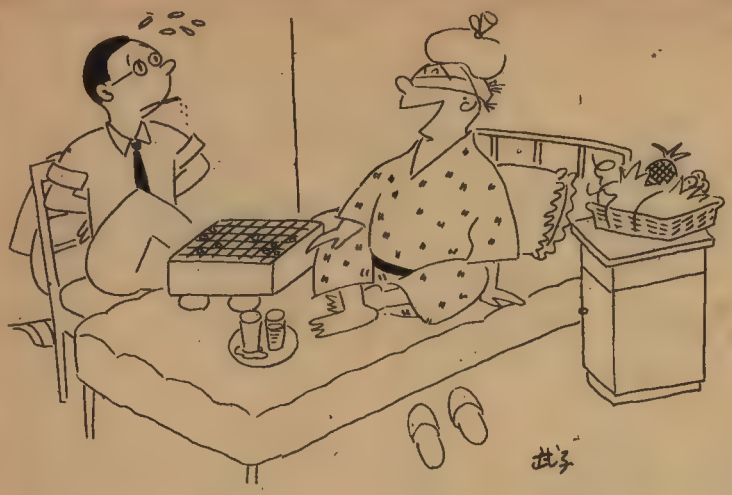


⇦
行水の近代化
「やはり化学器具の方が安全だってことがわかったわ……」
山下紀一郎

⇨
交通事故
「運転手を逃すな！」
矢崎武子

⇦
新調の自転車でキャンプに行った二人
永井 保

暑気払い漫画大会



⇦将棋狂
「オレが交通事故で頭をイカレたときいてやって来たんだって？　お相憎さまだな」
矢崎武子

⇨童心にかえった恋人
「ねえ、そんなことあとにしない……」
山下紀一郎

⇦暴力獅子舞
「キャンプ村に行って一稼ぎしよう」
御法川富夫

⇨オリンピック準備整う
「このように近代化を計りまして……」
南　義郎

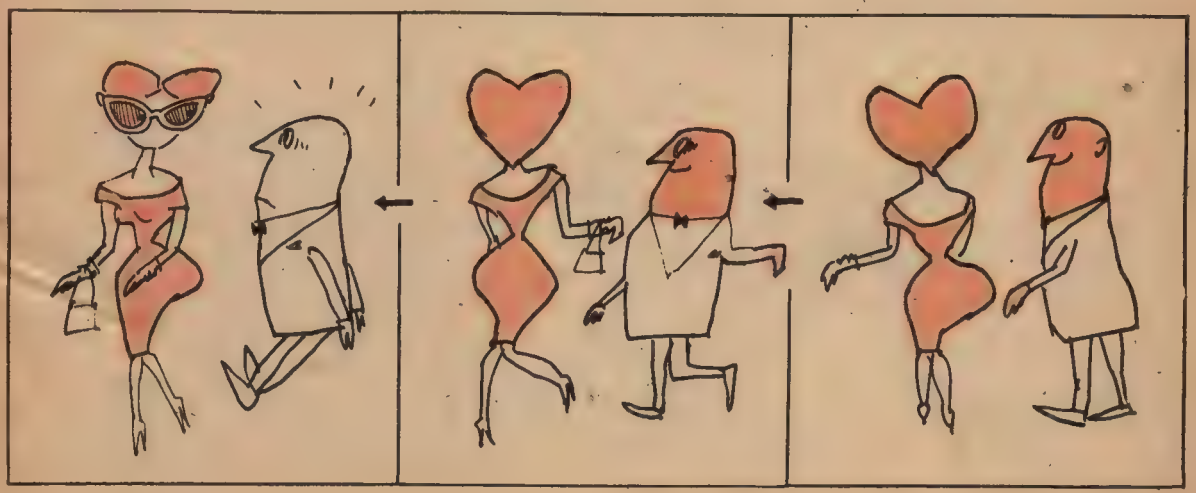
現代忍術伝

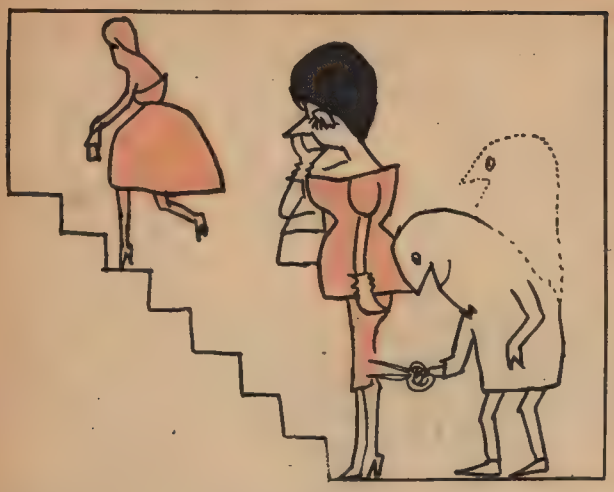
サルトビサァ子

境田昭造

ミスター・ピンク

富田英三

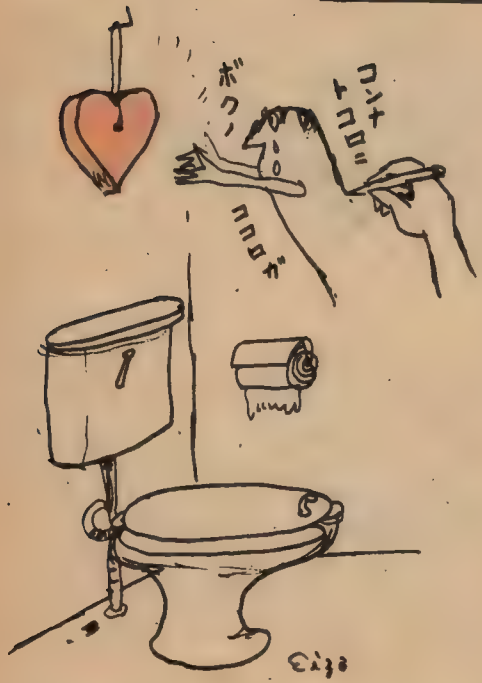


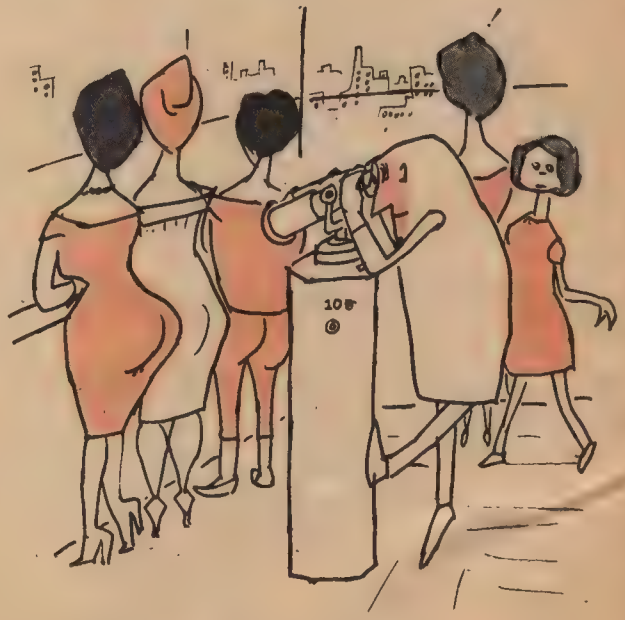


かわいそうに……階段があがれない

「まあ、H……」

さアさ、ハートはいかが？





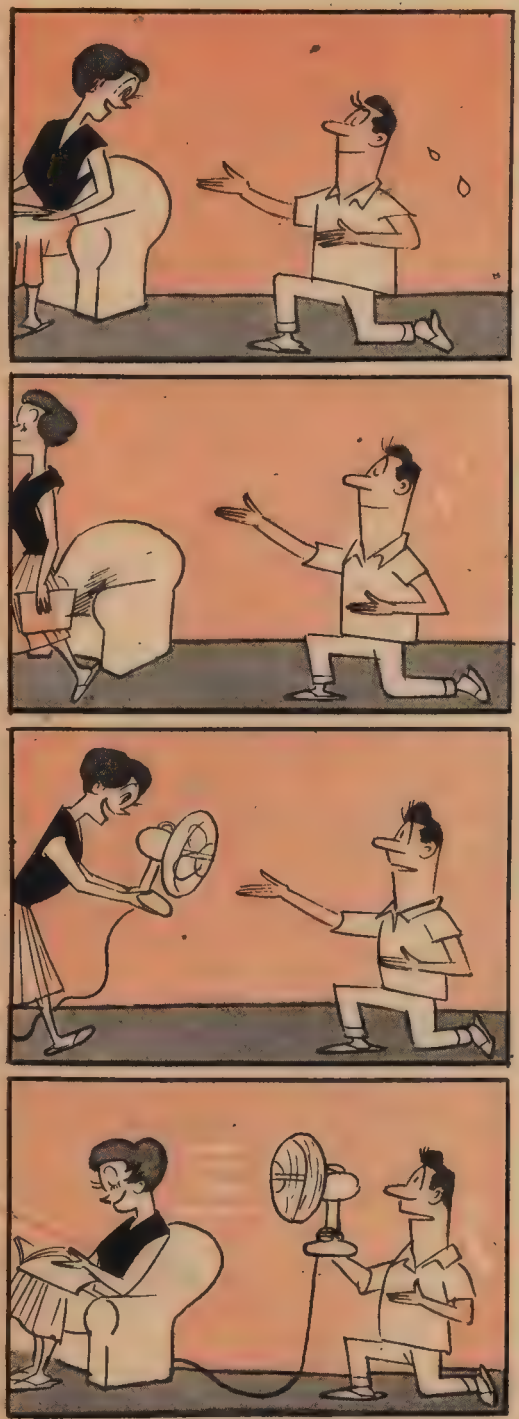
おお
なやましい！

チエコさんの青春日記

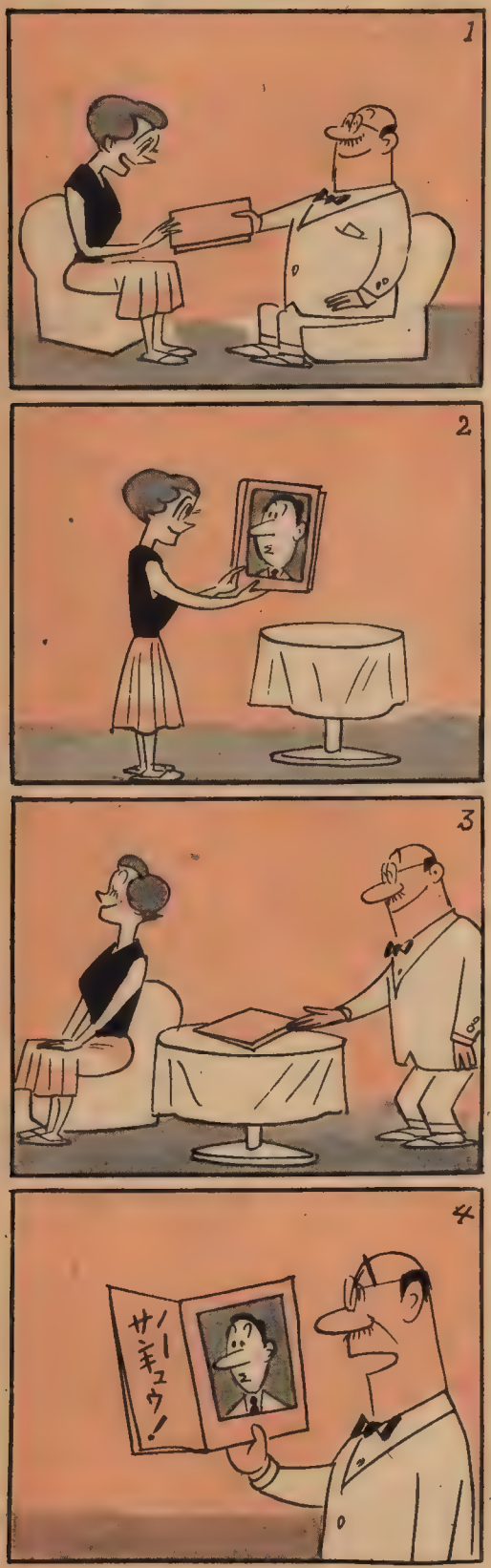
塩田英二郎

♧夜の散歩♧

♧暑い日の求愛♧



♧見合い写真♧



♧ニューファッションのヒント♧

ファーブル先生昆虫記

佐川美代太郎

19
15
11
20
16
12
21
17
ハチだ!!
13
22
18
14

こんにちは、お化けです！

改田昌直

海水浴場の怪⇨

『ギョッ、足がない……』

⇦オリンピック・ブーム

「あっ、五つ目小僧」

「五輪小僧といってもらいたいね」

⇨ウラメシヤ～～～

「ダーク・ダックス調ね　イカスじゃない！」

郵便はがき

五円切手をはってください

東京中央郵便局

私書箱第二〇七号

週刊漫画サンデー

「ロケット・クイズ」係行

ご住所

ご氏名

ご職業

年令

切り取り線

第1回 8月18日 締切

第10回 ロケットダクイズ

面白いと思った漫画に○をつけて下さい

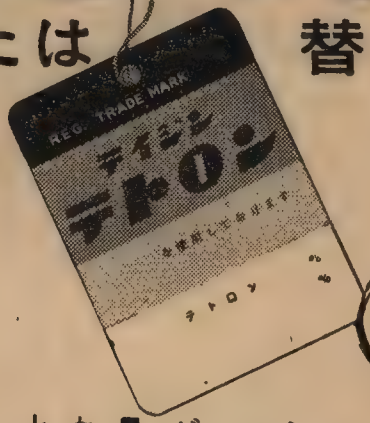
土堤坊主（清水　崑）……44頁
日出造似顔漫評（近藤日出造）……40頁
イチャモンねえちゃん（杉浦幸雄）……55頁
ミスター珍社員（西川辰美）……8頁
凸凹団地（秋好　馨）……18頁
漫画白書（横山泰三）……10頁
忍術武士道（荻原賢次）……58頁
スットン京チャン（井崎一夫）……54頁
お天気評定（金親堅太郎）……59頁
とんだトバッチリ（小川哲男）……30頁
昔むかしお巡りさんがありました（岡部冬彦）22頁
チエコさんの青春日記（塩田英二郎）……86頁
ミスターピンク（富田英三）……84頁
俺たちゃライバルだ（小島　功）……24頁
お暑いです！（石川進介）……39頁
プンプンレーダー（那須良輔）……7頁
まんが太閤記（森　龍　猛）……62頁
ドクトルおばこ（あんど利一）……78頁
海底の死体（松下井知夫）……74頁
こんにちは、お化けです！（改田昌直）……90頁
サルトビサア子（境田昭造）……83頁
ユルフン太平記（佐藤六朗）……26頁
プァーブル先生昆虫記（佐川美代太郎）……88頁
まゆつば旅行記（服部みちを）……28頁
夏のアララカルチョ（やなせたかし）……23頁
漫画特集真夏のオリンピック（森吉その他）……31頁
暑気払い漫画大会……80頁
海外傑作漫画……75頁

クイズご解答の際は必らず上の調査にお答え下さい。

TEIJIN

テイジン・テトロン

シャツまたは　替ズボンが



幸運の鍵

全国百貨店・小売店にて売出し中

いま評判のテイジン・テトロンシャツや替ズボンに〝特賞スバルが当る〟幸運の鍵（抽せん券）がついています……

■応募方法　抽せん券はお手もとにおかないで　黒赤金のラベルを同封して大阪西局区内　帝人テトロンセール係へお送りください……

〆切　8月31日（当日消印有効）

特　賞・スバル360……五台

一　等・ラビットマイナト……四〇台

二　等・宮田ファミリー号（折畳式）…一〇〇台

三四等・テトロン製品……二一、〇〇〇本

発　表・9月末日……朝日・毎日新聞紙上

二等以下は、賞品発送をもって発表にかえます

若尾の裸体にいどむ新人

パンツ一枚のアラワな恰好でいどむとあっては、藤巻君ならずともこれには少しばかりたじろがざるを得ない。キャメラもコワイが、スリップ一枚でベッドに仰向けに寝ている若尾先輩に折重なる藤巻君はハレものにさわるような思い。

「藤巻君！　もっと若尾ちゃんを強く抱いて。まだまだ、感じがでないよ」

後才増村保造監督の言葉もドライだ。冷房中のセットとはいえキカばこそ、見る方がハラハラするほど熱がこもる。

○

『処刑の部屋』以来二年ぶりでこうしたベッドシーンを撮る若尾ちゃんは、さすがはベテラン、テストなしで見事演じきる。撮り終った藤巻君、

「何しろ相手は大先輩ですから、テレてしまってどうしようもない」

という。びっしょり汗ばんだ肌をタオルでぬぐう。役得というにはまだ早いようだ。

「相手は大先輩なんて」と汗だくの藤巻公義

この写真は映画『美貌に罪あり』のワン・シーン。待望の夢かなって田舎をあとにスチュワーデスとなって華やかな都会に出た若尾文子が、ある夜会の席で、「あなたとの時間をもっと有効にするため」と、紳士と思い込んでいた男に、無理やりに肉体を奪われようとする若尾ちゃんと、新人藤巻公義君の格闘シーン。

大映のトップ女優、大先輩に

ムムウピンクのサクランボ 松竹のセクシー攻勢

〝若い娘は　ムムウ　ピンクのサクランボだよ　ムムウ　つまんでごらんよ　しゃぶってごらんよ　ムムウ……〟

これはまたセクシー・コーナーを刺激する歌だが、これがなんと松竹映画『体当りすれすれ娘』の主題歌の一節というのだから恐れいる。

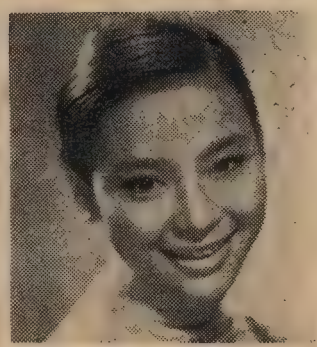
もともと松竹といえば〝映画界の良識はウチ〟という誇りをもっているが、最近の他社の〝グラマー旋風〟〝エロとアクション〟の激しい攻勢にたまりかねて、ついに百八十度方向転換を決意したらしい。

主題歌だけでなく、スクリーンでも主演の九条映子がシュミーズ一枚でそれこそ〝体当り演技〟。真夏のセットで九条の相手役をつとめる伊藤雄之助の感想が、

「暑い。今年の夏は！」

ともかく〝攻撃は最大の防御〟の兵法から生れたこの松竹の『すれすれ娘』映倫などにもスレスレぶりを大いに発揮しそうだ。

新魅力登場



水まゆみ（日活）

今年19歳、ピチピチとはりきった感じのお嬢さん。映画より先に新聞広告などに使われて大いに宣伝ずみだが、それだけ現代的な若さの代表的選手である。『男なら夢を見ろ』では裕次郎の情婦役に抜擢され、肌もあらわな賭りを披露したが「恥しくって」をほおを赤らめる純情さだ。まだ何でもやりたい年頃で卓球、洋舞、日舞ととなす。理想の女優はヘップバーン。「すきなたべものは」との質問に、なんらためらいもなく「肉」と答えた。その肉体は世の男性の目をみはらせるに十分。

良重を驚かせた娘たち

水谷良重が審査員をつとめる「ミス、ハイティーン」のコンテストが芸術座の『可愛い不良少女』上演を記念して行われたが、応募者のなかには、ネグリジェを着てスンナリした足をベッドにのばした写真を送って来たのが数人。『可愛い不良少女』の意図を十二分に理解しての応募と、水谷審査員は感激したりあきれたりで、「アタシはやっぱり〝可愛い不良少女〟にもなれないワ」ととめ息をついたそうな。

今週の見どころ

▼戦国群盗伝（東宝）

『七人の侍』色つき紙芝居版。鶴田浩二の豪族の若殿と、三船敏郎の浪人者とが、野武士の一党の親分になって関八州を荒しまわる。ワイド・スクリーンもせましとばかりに、といいたいところだが、どうしたんでしょうね。エキストラの数よりも景色のほうが広すぎたんでしょうね、こりゃあ。色模様のほうは、司葉子の田舎娘はとってもいけないが、上原美佐のお姫さまがまあまあ。

▼海底探検世界一周（フランス）

うだるような夏場にお熱いラブ・シーンでとってもかなわない、というお客さまにはこちらがゴキゲンだよ。フランスの野郎どもが四人、金を出し合ってオンボロのヨットを一隻買ったとき。これで南洋の海を世界一周。旅費は道々、アクアラングで海底にもぐっては、でっかい魚と大格闘、つかまえた人喰いザメかなんかを鳥の人びとに売りつけて儲けたというからふとい連中だね。おまけにこの海底記録映画まで撮って丸儲け。コンチクショーといいたいところだが、オール・トリックなしというのがミソ。

▼尼僧物語（アメリカ）

オードリー・ヘップバーンが最高に名演技する映画。一言よけいなことを喋ったといっては自己批判し、気違いに殴られたといっては私が悪うございましたと神さまにあやまる辛い修道生活から、恋をしているくせに互いに知らん顔をしている生ぐさい熱気のあるアフリカ奥地の伝道生活など、神さま一筋に生きある尼さんの半生記。東映の山本八はたった三週間ばかり禅寺にこもって精神修養をしたというが、この尼さんの爪のアカでも飲んだらいい。でも、このヘップバーン、清らかな顔をすればするほど色っぽい。ウソだね、こんなきれいな人社尼さんにはならないね。

ザギンのチャンネーも顔まけ

大学のお兄ちゃんに
ひねられた団令子

文化放送で芸能スターとファンが〝三つの歌〟を遊ぶ『私と貴方の三つの歌』の八月六日放送に団令子が出て、十八歳という大学のお兄ちゃんと『五ツ木の子守唄』などを歌ったが、二人のやりとりが会場をわかした。

この番組は芸能人の人気のバロメーターみたいなもので、石原裕次郎や小林旭もこの番組に出て人気のカーブが急上昇したといわれる。

さて大学のお兄ちゃんと銀座のお姉ちゃんのやりとりは、団「私の映画みてくださる？」大学生「お姉ちゃんシリーズは全部みてます」団「私って案外おしとやかでしょ」大学生「そうです。中島そのみが活発だから食われてるね」団「……？　はっきりいわないでよ」大学生「最近団さん太ってきたけど、少し運動した方がいいよ。山登りなんかどう？」団「あら私スポーツマンよ。山にだって登ってるわよ」大学生「最近どこかへ行った？」団「比えい山」大学生「ケーブルカーだろ」団「この人はっきりいうわね」といった風でどうやらお兄ちゃんの勝となり、楽屋へ引き上げた団「お姉ちゃんが食われるとは面目ないワ」と汗をふいていた。

超ドライなコメット・スターズ

『女子大学生―私は勝負する』という映画は日本版『危険な曲り角』として十代の生態が奔放かつ刺戟的に描かれているが、中でも関係者の話題になったのは、この作品で登場したコメット・スターズというトリオだ。野川美子、松麻子、柏木優子の三人だが、その私生活のドライぶりは舌をまくほど。プロデューサーをとらえて「おじさん」と呼び他の出演者から「先生というのよ」とたしなめられると「そうね、あの道じゃ先生ね」などという類だが、今度KRでは『この三人』という連ドラを企画しているが担当者は今から恐れをなしている。

なにしろその一人柏木優子はかつてチョイ役でラジオ出演中東山千栄子をつかまえて「オバサン、あんた割かし巧いわね」とやったツワモノだからだ。

（コメット・スターズの面めん）

（双生児ブームが生んだ新タレント）

双生児のジャズ歌手ザ・ピーナッツの人気にあおられてか、また一組の双児タレントが生れた。

八月三日から始まった連続ドラマ『ウチのお父ちゃん』第二部の『駅まで十分』（ラジオ東京）では、双児の少女タレントを募集し、浦和市岸町に住む高校生の姉妹・薄羽紀代子、紀久子を選出して放送を開始した。

姉妹は某建設会社重役の家庭で、昭和十八年生れ、今年十六歳、滝野川高校の二年生だ。女ばかりの姉妹の末に生れた末っ子及び末っ子ダッシュである。二人の役は、加東大介の〝お父ちゃん〟と乙羽信子の〝お母ちゃん〟の子供で、明るく朗らかな双児の少女役。向いの食料品店主・小林桂樹らと活躍するサッキちゃん、コズエちゃん姉妹だ。二人そろってテニス、バスケットのスポーツ好き。好物もバナナ、メロン、スシ――〝三月生れ〟でちょっぴり気まぐれな近代ムードも共通だそうな。

末っ子双生児薄羽姉妹

今週のベストスリー

▼ゴールデンコンサート（文化放送、十三日午後九・〇〇―一〇・〇〇）五年ぶりで帰国した江藤俊哉の協奏曲のタ。文化の独占だけに、のがせないききものとなろう。演奏する曲目は、ベートーベン作曲「バイオリン協奏曲」と、同じくベートーベン作曲の「序曲プロメテウスの創造物」。

▼劇映画「夜のうぐいす」（NHKテレビ、十四日午後八・三〇―九・〇〇）

NHKがはじめて作ったテレビ映画。民芸映画部が協力している。ドラマは、谷川岳を背景に若い世代の奔放な生き方と現代のモラルを追求するものだが、製作費千三百万（三十分もの八本なので一本当り百五十万。既成のテレビ映画は平均七十万）といわれ、NHKが本格的テレビ映画といっている点に興味が湧く。カメラは〝本ミッチェル〟といわれる最新鋭機を使っているので美しい画面になるはず……。

▼テレビドラマ（KRテレビ、十四日午後一〇・〇〇―一一・〇〇）山中貞雄作『人情紙風船』前進座のユニット出演。昭和十二年のヒット映画をテレビドラマ化するもので前進座の若手中村梅之助（故右衛門の息子）らが中心になり故右衛門や河原崎長十郎はワキに回る。

演出は岡本愛彦、映画の名作をテレビ向きに脚色したもので歌舞伎ファンにも見逃せない作品。

スポーツ サンデー・ファン

四分五裂の名門阪急

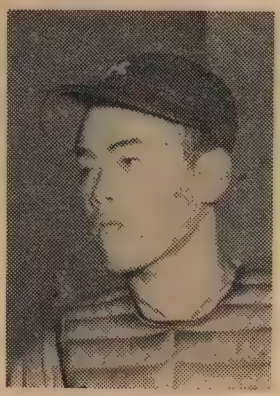
←戸倉監督

まだまだ続く お家騒動

球団初まって以来の不振で四面楚歌だった藤本監督が、ついに第一線を退いた。かつては第一次黄金時代の巨人をひきいて一代の名監督と謳われた人だがチーム内部が四分五裂のこのチームでは、腕の振いようもなかった。したがって代って新監督となった戸倉前コーチの前途も手離しに楽観できない。今度の監督更迭が震源地となって、余震はまだまだ続きそう。

まず、戸倉とは犬猿の仲の伊達ピッチングコーチのクビは確実。球団幹部では藤本前監督一本槍できた木地社長、阪本代表は今シーズン限りで退陣、代って村上専務とその親任厚い西村前監督が権力の座につくものと見られている。村上専務は故小林一三翁から阪急球団の創設を委任された実力者だけに一応期待される。ここ暫く、二軍監督という陽の当らぬ場所に雌伏していた西村は、選手間に人望がある。それだけに球団首脳に祭り上げられるよりは、もう一度ベンチにという野望もあるだけに、西村―戸倉間にまた新たな冷戦の起る可能性もある。眠れる勇者が目覚めるのはまだまだ先のことのようだ。

佐々木選手のお父さんの土性骨



オールスター戦が終って、やっとペナント・レースも後半に入ったばかりなのに、来シーズンの充実を目指して各球団は早くもストーブリーグの準備。今シーズン最も多くのスカウトにねらわれているのは、明大の佐々木捕手。打ってよく、守ってまた土井以来の名手といわれ、殊に大洋、巨人がご執心。

最近大洋は、親会社が下関に水産会館を作ることになったが、基礎工事に必要なジャリを、入札もしないで砂利業をしている佐々木の父親に依頼した。つまり、将を射んとすれば馬でその父親をからめ手からねらったわけだが、どっこい、このお父さん、なかなかの気骨者で、「どっこいその手は食わぬ」と二百五十万の利益は確実ということの仕事を、ポンととわってしまった。

こんなことで、息子の契約金がたたかれては、という商人らしいソロバンに佐々木選手のお父さんは木よるものだろうが、この事実に各球団はあらためて褌をしめ直して佐々木獲得に乗り出している。

来日するボート界の名門

英国ボート界の名門であるオックスフォード大学クルーが八月十六日に来日する。

デビッド・エドワーズ　H.R.A.エドワーズ

今度のオ大は春のケ大との対抗レースに快勝しているし、七月はじめテームズ川で行なわれたヘンレーレガッタでも優勝したハーバード大（世界最強を誇る）に半艇身まで迫った実績の強力チーム。

コーチのH・R・A・エドワーズ氏（五四）はオ大卒。一九二六年と三一年の対ケ大戦をはじめ一九三一年のヘンレーレガッタでは兄弟で舵手なしペアに優勝、同時に舵手なしフォアとエイトも優勝した経歴を持つ往年の名選手。三二年のオリンピックには舵手なしフォアで英国に金メダルをもたらしている。

息子のD・C・R・エドワーズもここ三年間対ケ大戦の正選手でいっしょに来日する。英国正統派漕法の真ずいを拝見したいものである。

今週のスポーツ案内

▽プロ野球
▼11日（火）巨人～国鉄（後楽園）大洋～阪神（川崎）広島～中日（広島）大毎～阪急（駒沢）南海～近鉄（大阪）
▼12日（水）巨人～国鉄（後楽園）大洋～阪神二連戦（川崎）広島～中日二連戦（広島）大毎～阪急二連戦（駒沢）南海～近鉄（大阪）西鉄～東映（平和台）
▼13日（木）巨人～国鉄（後楽園）大毎～阪急（駒沢）西鉄～東映（平和台）
▼14日（金）大洋～巨人（川崎）
▼15日（土）国鉄～阪神、巨人～広島（後楽園）近鉄～阪急（日生）西鉄～南海（平和台）
▼16日（日）国鉄～阪神、巨人～広島（後楽園）中日～大洋二連戦（中日）大毎～東映二連戦（川崎）近鉄～阪急（日生）西鉄～南海二連戦（平和台）
▽第四十一回全国高校野球選手権大会（参加二十九校、八日より十六日まで、甲子園球場）
▽第十二回全国高校男女バスケットボール選手権大会（十二日より十六日まで熊本市）
▽第二回福島競馬（十五、十六日）

淡谷のり子の代償恋愛

五十路にかかっても　色香の衰えぬ秘密

淡谷のり子というと、今や、ブルースの女王としてよりも、むしろ、身上相談の猛烈話せるオバちゃまとして、若い連中に、きこえているが、その淡谷が、八月三十日、「酒・うた・男」の三十周年ならぬ、歌手歴三十周年を記念してリサイタルを開く。

ところで、ブルースの女王の人気が、未だに隠然たる勢力をもっているのは、その声の艶もさることながら、お色気の艶の方も、相当モノをいっている。

そのせいか、どうか、淡谷のり子の楽屋はいつも、ヒゲ族からウブゲ族にいたる男性群で賑わっている。

ところで彼女は、このところ専らひとりッ子の令嬢の三角関係的恋愛に、「子供の恋愛って、自分の恋愛より辛くてねェー。どうしようもないの」と、懸命であるが、和田肇、大山秀雄、矢田茂とつづく恋愛遍歴をすべて仕事の糧として来た淡谷のことだ。「恋人がいなくて、あの溢るる色気とは、と思っていたら、なるほど、子供にかこつけた代償恋愛とはねェ――」とはどんなにご清潔に暮らそうと、ブルースの女王とともに悩殺の女王の名は、ちっとやそっとでは、沈没しそうもない。

〔スリー・キャッツ〕
前から梅田和代、上原由理江、小沢桂子

値切りのチエミ

「あんた、お茄子一個のお値だん知ってる」と得意がったコーちゃんを初めとして、芸能人はこのところ、世帯ヅクのに懸命。とり分け、自らカカア天下をもって任じる江利チエミなどは、自宅界わいの八百屋、魚屋など片ッ端から値切るので「値切りのチエミ」として有名だ。

さて、その値切りのチエミはハズの高倉健のお小遣いをも、値切りたおし、彼氏の現在の一日のお小遣いはたった百円也。百円亭主は、何もサラリーマンだけとは限らないというお話。

三匹の牝猫

ここに登場する〝女猫〟三匹はその名も、〝スリー・キャッツ〟というコーラス・グループ。

「当らない時は色仕掛けでゆけ！」という、レコード会社のスランプ打開策にのって、浮かびあがった〝女猫〟たちだ。

さて、コロンビアレコード側では、十九歳から二十一歳までのこのお若き女猫達の肢体にものいわせて、男心を掴もうという魂胆だが、その女猫達の、めどからどんな、セクシーな泣き声が出るか、まずはお楽しみ。

レコード紹介

『望郷（ペペ・ル・モコ）』　フランク永井

フランク永井

★ききどころ　フランクお得意の半音のたくみな歌い方。

★寸評　往年の名画が思い出せる年輩ならそのよすがに。80点。

★歌いどき「おれの女がいっちまう。あの眼、あの唇、あの匂い……」一人さびしい夜などに。

『キス・ミー・プリーズ』　大津美子

★ききどころ　ベギー葉山風の音色と歌い方。ムードだけを楽しめばよろしい。

★寸評　25歳―35歳向。85点。

★歌いどころ　一節にキス・ミー・プリーズという言葉が三回ずつ出る。

今週のリサイタル

大野外オペラ「ローエングリン」
（8月15日6時半・神宮外苑国立競技場）

去年「アイーダ」をやって大成功、その柳の下をねらう。みどころはアドバルーンによる装置の宙吊りと馬50頭のパレード。砂原美智子ら延1500人が出演するが、歌も演奏も事前に録音。去年の経験によると競技場の中はひどくあついからそのつもりで。指定席より一般席、それもできるだけ高くに陣取った方がすずしい。（300円，200円）

今週の新人

〝ササヤキ声〟の名手

松尾和子

有能な新人歌手が現れた。松尾和子。二十四歳。背は150センチに足らず、目方が38キロにみたない。美人である。うたうのもしゃべるのも蚊のなくような声。

練習のときなんか伴奏のピアノの音しか聞こえない、といわれている。なんともタヨリない歌い手と早合点する向きも多かろうが、その声、ひとたびマイクに乗ると、これがたぐいマレなセクシー・ムードをただよわす。彼女のウィスパリング（囁き）これがめっぽう色っぽいのだ。デビュー盤は佐伯孝夫作詩・吉田正作曲の『グッド・ナイト』それにフランク永井と掛け合いでうたう『東京ナイト・クラブ』の二曲。

ナイトクラブでうたっていたのをフランク永井がスカウトした、というのは新人売り出しのためのデッチあげで、事実はディレクターが発掘したもの。遊び好きのトノ方にはコタエられない色気。オトナ向きの歌手として今年度新人王の最右翼。所属はビクター。

戦中秘話

慄の渦にまきこんだ

殺人事件の眞相

昭和犯罪史上もっとも戦慄すべき十代の犯罪!!

一切の報道が禁止されて今日も一般に知られていない事件の真相は?

芸者屋の第一の惨劇

いま、われわれの周囲には日夜、さまざまな犯罪が行われている。新聞は「凶悪犯の激増」を伝えている。しかし日々に起るこうした事件も、大低の場合、自分にはかかわりはない——と人は考える。(もしも、自分にもその災難がかかって来たら……)と気に病む人があったとしても、新聞やラジオで、事件の様子や、いきさつを知ることで自分とはちがった世界の出来事だ、と思いこむ。——人は本能的に、他人の不幸から自分を切り離そうとし、勝手に自分に都合のいい条件を組み立てては、その小さな安心感のなかに生きている——といった方がいいかもしれない。

ところが、ここに目をおおうような、むごたらしい事件が起る。人びとはその真相については、何一つ知らないのに犯人は、何人の生命も保証しないことを事実によって示してゆく——としたらどうだろう。

これは「昭和犯罪史上もっとも戦慄すべき十代の犯罪」といわれながら、一切の報道が禁止され、今日なお一般には知らされていない特異な事件だ。

昭和十六年の夏——太平洋戦争の直前で、男という男が「最後の戦列」にかりたてられていたころだ。浜松市郊外の、このあたりも「祝出征」の旗と「万歳」の声——暴力的な興奮と、悲愁が、終日うずまいていた。

第一の事件は、そうしたころの八月十八日の未明に起った。現場は、浜松市から北へ、二俣町に通ずる遠州電気鉄道の貴布祢駅に近い「老松」という、待合兼芸妓置屋。抱え芸妓二人が殺された、という女将の届け出で、浜松署から捜査主任らがかけつけた。

被害者は勝奴、君香という、どっちも十九歳の若い妓だった。スソに水色のぼかしのある白い麻蚊帳の中で、勝奴はすでにこと切れていたが、君香にはまだ息があった。眠っているところを、いきなり刺されたらしく、蚊帳のつり手も切れていた。

「だれが、いつお手洗にいったかまで知っています。それほどあたしァ目ざといんですが……」女将は、悲鳴ひとつ聞かなかったという。廊下を走ってゆくような人の気配に起き出し、ふすまを開けてみると、ちょうど一人の男が、表座敷から走り出て、便所の入口の縁側から、淡い月の光りのある裏手へ、けだもののように飛び出してゆくところだった。瞬間に眼に止めたその男は、小柄で、白シャツ、黒っぽいズボン——というのが女将の証言である。

勝奴の傷は心臓とみぞおちの二ヵ所、君香は胸と肩の、これも二ヵ所。匕首(あいくち)ようの鋭いもので刺されている。ことに勝奴は心臓を背中まで突き通されているから、うめき声ひとつたてられなかったろう。君香の方だけは、なんとか助かるかもしれない、という状況だった。

ガソリンは血の一滴、といわれたころで、浜松から自転車で捜査主任一行が現場についたのは、事件発生から一時間半ばかり経過した午前四時すぎ。死体検視を終ると、すっかり夜が明けていた。

この家は、周囲を板塀でかこいその内側に、植込みをつけた二階建。階下が表の六畳に続いて奥へ四畳、五畳、中廊下をへだてて六畳、四畳半、三畳、二階が八畳二間となっている。犯行は表六畳の間で、奥五畳に寝ていた女将が、廊下の突き当りの便所から出てゆく犯人を目撃した。

そこで便所を調べてみると、その高窓のガラス戸が二枚ともはずされている。内部には土砂が落ちている。また便所の外には、別むねの湯殿にあった洗い台があり犯人はこれを足場にして、地上一メートル半ほどの高窓から入ったものらしい。裏手の木戸は錠がはずされ、そこから畑にかけて、不鮮明な足跡があった。しかし、犯人の遺留品らしいものは一つもなく指紋も照合可能なものはない。

捜査は第一日、第二日とも、足取りしらべで得るところがなかっ

特別読物

20年間埋れ
東海を恐怖と戦慄
浜松大量殺人

料亭を血にそめた殺人

現場は第一事件があった老松から、ほんの一キロほどの小野口村の料亭「山水」。犯人の手にかかったのは、女将の山野ツル(44)女中太野きよ(16)雇人林重吉(60)の三人だが、今度はこの三人とも命を断たれている。ただ、どういうわけか、女将に添寝していた養子の広三(10)だけが凶刃をのがれた。

犯行の手口は、侵入方法からして第一事件の場合と全く同じだ。凶器も先の鋭い七首のようなもので、三人とも、胸または背から、確実に心臓部を刺し通されている。

ことに不運だったのは雇人の林だった。年こそ六十だが筋骨の逞ましい、日ごろ力自慢の老人で、女暮しの山水では、世間の口もうるさくないというので、力仕事にはいつもこの老人を頼んでいた。そういう関係で、老松事件にふるえ上った女将が「当分、寝泊りしてくれ」と拝み倒すようにしてこの日から来てもらった、つまり用心棒の第一夜だった。晩酌に一本つけてやったのが悪かったのか、女将女中と殺されたのにも眼をさまさないでいるうちに、深ぶかと胸を刺された。しかし、さすがに男だけに、いちおうは犯人に立向った様子で、林だけは全身に九ヵ所の傷をうけていた。広三少年が眼をさましたのもこの時で、瞬間に凶行と知って表に飛び出している。

第二事件の発生で住民の恐怖は爆発的に拡がった。老松事件は、被害者が若い妓、というので、男関係のもつれ、とうわさするもの、強盗におびえて刺されたのだろうと考えるものもあった。ところがこの第二事件をみると、そのどちらでもないらしい。

このあたりは、遠州電鉄にそって積志、小野口、北浜と村が続いているが、料亭や芸妓屋が点てんとならんで、浜松の一つの色街を形成している。夜ともなると、貴重なガソリンを、惜し気もなく匂わせた車が、軍人や役人たちを搬んできて三味線と嬌声で別世界をつくりあげる。——あるいは、花柳界というこの世界にうらみを持つ者の仕業では？　という風評は当然だった。

捜査本部も全く色を失った。時局柄、容易ならぬ事件で、しかも、第三、第四の事件発生が予想されるからだ。静岡県警は警察部長以下が捜査本部に乗りこんだが、自信のもてる捜査方針は立たない。

第一事件については、二人の被害者の男関係を洗ってみたが、若い妓だけにそれらしい材料は出てこない。物盗り説——これは老松の場合、犯人は便所から侵入してから、六畳と四畳半の客間、四畳の仕立部屋と、それぞれ閉めてあったフスマを開けて入っている。それなのに物をさがした形跡がない。ことに仕立部屋には、この家の全財産、衣類、現金、貴金属などをしまいこんだタンスが三組もあるのに、手もふれていないのだから、この説は薄い。被害者の女たちに、全く抵抗のあとがないところをみると、変態男という線も弱い。

とすると、例えばうわさのように、うらみを持ってはじめから凶行を目的としたもの、ということになるが、これもおかしい。若松の芸者部屋は表の六畳の間だ。少なくともここで一、二度遊んだ客なら、それくらいは分っている。また犯人は客筋でないとしても、当夜、電燈をつけたままにして寝ていたのは芸者部屋だけで、外からも、塀越しに蚊帳の影が二間のガラス戸に映って見えた。山水の場合もそうで、やはり電燈をつけたままで、それが外からも見えたのは女将の部屋だけなのに、犯人はそこに入る前に、わざわざ二階の客間を回っている。発見される危険をおかして、なぜそういうジクザクコースをとったのだろう。凶行以外に何か目的があったのでないか？県下のベテラン刑事はほとんどこの事件に投入された。浜松市内から、事件現場周辺の小良、前科者の調べは百数十人にもなった。犯人は突き刺すことになれている——米の検査員が怪しいという風評も、すてておけなかった。銃剣術のうまい在郷軍人も、マークされた。一軒一軒、一人ひとりの臭いをかいでゆくような捜査が、しばらくつづいたころ、事件は意外な方面から急転回した。

事件は三年前にも

それは、手口班がカードを調べているうち、これとよく似た事件が、三年前に、しかも隣り村にあったことを発見したのだ。積志村の大和屋という芸妓置屋だった。時期も同じ八月二十一日の午前二時で、女将の松内けさ(38)と芸妓とみ子(31)が重軽傷を負わされている。

当時の訴えによると、女将が人の気配に目をさますと、一人の男が枕もとに坐っているので、起き上ろうとすると、いきなり突いてきた。犯人はさらに二階に上って眠っている芸妓のとみ子の背を二突きして逃走した、というもの。二人とも重傷だったが、命は助かっている。さっそく女将をよんで聞いてみると、事件の性格は今度のと瓜二つだ。

「色男に斬られた、といわれたんですよ。わたしァ、口惜しくてネ、いまでも犯人に似た男をみつけると、あとをつけてみるんですよ。今度の犯人もあの男だと、あたしァ、何度駐在に教えてやったかしれやしないのに……」

右のほおに残っている傷跡をひきつらせて、女将は盛んに同一犯人説を主張するのだったが、事実捜査主任は、女将のまくし立てる言葉のなかから、いくつかの重大なデーターを得ていた。

その一つは「犯人はオシみたいな若い男」ということ。「ウーン」という一種の特別な発声のほか、一言も話さなかったということだ。これは山水事件の広三少年の二事件が起った二十日の午前三時ごろ、北村の家に入ってゆく白シャツ、黒ズボンの若い男を見たという者が現われた。

その男は、自転車で浜松から浜名郡赤佐村へゆく途中だった。小野口の二俣街道で休んでいると山水の方から、一人の男が走って来て、街道を北へゆく。その男も何気なく、これを追うように、ゆっくり自転車を走らせてゆくと、前の男は間もなく街道から西の小路に入って、一軒の農家に姿を消した。事件を知ってから、気になるので、その農家をのぞいてみたら、北村という家だった、という、有力な聞きこみだった。捜査当局は雀躍したが、しかし、それだけではまだ逮捕はできない。さらに傍証をかためるために、専属の刑事二人を張りこませ、成市に眼を光らせたが——これがとんだ見込み違いだった。今度は容疑者であるその成市の家が襲われたのだ！

山水事件からおよそ一ヵ月を経過した九月二十七日にである。北村文三方は、秋の養蚕時で母屋を蚕室に使い、八人の家族は全部廊下つづきの離れで、寝起きしていた。事件の発生は例によって午前二時ごろ、犯人は階下の八畳と六畳に寝ていた七人を次つぎと手にかけ、このため文三の四男正四(27)は死亡、文三(59)とその妻きん(59)、正四の妻ゆみ(26)文三の三女きの(21)の四名は重傷、次男安二の長女良子(6)は軽傷と、六人も凶刃をあびている。無事だったのは二階に一人寝ていた成市と、ゆみに抱かれていた正四の長男定一(3)の二人だけだった。

顔死の体で隣家にころげこんだ文三の知らせで、事件はすぐ捜査本部に報告された。捜査陣が現場についたのは、届出後二十分とはたっていなかったろう。成市の専属捜査員二人が、真直ぐに二階にかけ上っていったことはいうまでもない。(おそらく成市はいまい。寝床はもぬけのからだろう)と予想した。

ところが、本人はちゃんと、そこにいた。寝とぼけた眼で「何かあったか」と手真似できいている。床に手を突込んでみると、温い。階下の現場はまるで血の海だというのに、成市の体にも、布団にもそれらしいものはついていない。成市の容疑は、完全に見込み違いだったのだ。現場を調べても、犯人は外部から侵入したことをはっきり示していた。

住民のおどろきはさらに大きかった。商家もサラリーマンも、いつ襲われるかもしれないという恐怖だ。村には自警団が組織された。しかし屈強な若者は、職場や勤労作業に動員されている。犯人の凄腕はいままでの事件で痛いほど知らされている。例の午前二時前後になると、だからこの自警団も詰所から動こうとしない。

浜松署の捜査本部には、さらに警視庁の後援部隊も加わった。新事態に対する捜査会議は連日開かれたが、はっきりした方針はやはり立たない。結局、もう一度徹底的に洗い出すほかにない、ということで、付近およそ一万戸の一斉調査にふみきった。

不良青年四百人、匕首を持った者五十人、変質者六十三人、前科者千二百人。このほか、ここ二、三年間に警察に留置された者、帰還軍人、はては債務関係、事業資金関係まで洗い出したが、依然として当りがない。

〝悪いことには、この「一万戸捜査」で住民が口をきかなくなってしまったことだ。目に見えない犯人の復しゅうを怖れたこと——それもあるが、むしろ、個人生活をあばいたり、ささいな材料で連行取調べをする警察に対する、怒りと、不信だった。

新聞は一行も書かないし、ラジオでもこの事件には一切沈黙している。人のうわさだけが電撃のように村々を流れ、それが奇妙に変形してはね返ってくる。隣りの息子さえ、犯人の顔に見えてくるのも当然だった。

『魔の八月』の第四の殺人

第三事件後、犯人が鳴りを静めているのも無気味だ。そして、こうした状況は翌年まで続いた。やがてまた、あの「いやな夏」が来た。「夏になったら犯人が動き出す」だれいうともないうわさが流れていたからだ。

しかし、警察もこれと同じ考えだった。事件が一時、終熄したのは季節犯的なものという推理だ。「魔の八月」に入ると、警察は検察庁との大合同会議を開いた。捜査再出発。ところが、犯人の方もこの推理にたがわず動きはじめたのだ。

第四の事件は八月三十日、時刻は前よりすこし早い午前零時半ごろ。ねらわれたのは、大和屋事件の現場に近い積志村の農家、伊野鶴造方。戸主の鶴造（56）妻とし（53）二女みつ（19）三男已之助（15）の四人が殺された。現場を調べると、二女みつの前歯三本が抜け落ちている。これは犯人に噛みついたためらしい。また部屋の中から、小刀の白ザヤ一本、一尺ほどの人絹小幅の黒っぽい布片、学生帽子のアゴヒモ一本が発見された。被害者のはげしい抵抗にあって、犯人ははじめて遺留品を残していったわけだ。九文七分のズック靴の跡もいくつかみつかった。

遺留品の出所追及を骨にして、警察はようやく着実な捜査に入ったが、一方、住民の恐怖は想像を越えたものだった。日本刀、竹ヤリ、さては目つぶしまで用意し、家人は交替で不寝番をして夜の明けるのを待つ、という状況。緊張と恐怖から、ついに何人かの発狂者が出たという報告まであった。

文字どおりの「恐怖旋風」だ。

――しかし、それから一ヵ月半どうにか第五事件の発生を待たないで事件は解決した。犯人は、第二事件でマークされた、十九歳のツンボでオシの少年、北村成市だった。遺留品の布片を追及した結果、それは浜松市の某織物問屋が扱った、まだ市販されていない試織品で、その問屋の店員をしている成市の兄の久が、自宅に持ちかえったものと分り、成市の逮捕となったものだ。十月十二日、成市はろう唖学校の先生の通訳で、九人を殺害、八人に重軽傷を負わせた合計五つの事件を、実にすらすらと自供したのだった。

それにしても、これほどの犯罪をおかした犯人が、十九歳の少年とは誰にも意外だった。何がこの少年を地獄に追いやったのか――一言でいえば、不具者の劣等感、家族の冷遇、それに時局の圧迫だ。

成市は三歳の時に中耳炎でツンボになった。学校では劣等児扱い、兄姉たちでさえ、手真似で話しかけても、それを理解してくれようともしない。この不具の息子に対する父母の仕打ちはもっとひどかった。まだ学校にも入らないころから、屋根裏のような離れの二階に一人で寝かされた。食事さえ一人だった。彼は、孤独よりひどい、呪われた生活だったのだ。

こういう少年に、おそろしい思春期がやってきた。もちろん娘たちは、だれ一人相手にしてくれない。欲求と劣等感が鬱屈する。近くの花柳界では毎夜大人たちが美しい芸者と遊んでいる。近所の同じ年頃の男たちは、誇らしげに志願兵として出てゆく。そして自分は、犬猫のように扱われるだけ。

これは誰が悪いのか？　世間の奴らが憎い。みんな自分の敵だ、と彼は信じた。彼の悪魔的精神は、だから一朝一夕につくりあげられたものではなかったのだ。――そこに最も悪い「金欲しさ」の欲求が起った。

浜松の医者から「ろう唖学校にゆけば一人前になれる」といわれた。一人前になれるという言葉ほど彼に魅力ある言葉はない。どうしても、学校にゆこうと思った。しかし父は相手にしてくれない。

それでは働いて――と、足を棒にして歩き回ったが、これまた相手にしてくれる者がない。ある夜思い悩んで歩いているうち、目にしたのが料亭のドンチャン騒ぎだったあの現実。この現実――と、その間に、犯罪への穴があったのだ。金を盗もうと決心した。

しかし、自分は耳がきこえない。人に追われても分らない。だから目的を達するには、まずその家にいる者全部を殺してからでなければ……。匕首を買えば怪しまれるので、刺身包丁を買うと、金切りノコギリ、ヤスリ、金剛砂、イシで、刺殺し易いような匕首をつくった。白サヤも自分でつくった。これができると、毎夜二時に起きて、突きの練習を続けた。覆面用の布、それに手袋も用意した。父母や兄姉を手にかけたのは、自分の身辺があぶなくなったからで、外部からの侵入とみせるためには長いこと計画を練った。しかし、金をとるという目的は、すべて失敗した。これはあくまでも一家皆殺しを前提としたからで、犯行後は、発見されるという恐怖で夢中で逃げている。

こうして、さしもの事件も解決を見たが、哀れを残したのは北村一家だった。嫁にいっていた成市の姉は身重の体で離婚されて帰った。父の文三はしばらく行方不明となっていたが、間もなく天竜川で死体となってみつかった。

（お断わり）生存者その他のご迷惑を考え、氏名、屋号などは仮名としました。

オフセット・活版

小倉印刷株式会社

東京都墨田区東両国3の5
電話　墨田（63）1469．1568．4470

新人漫画スクール

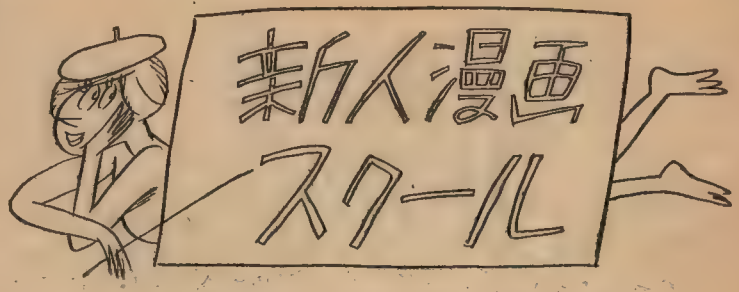
担当教授 小川哲男

（総評）

漫画の専門誌ですから、点はうんと辛くすることにしました。

それにしても第一回はひどすぎました。とくに案の貧困は夏枯れのためばかりでしょうかね。

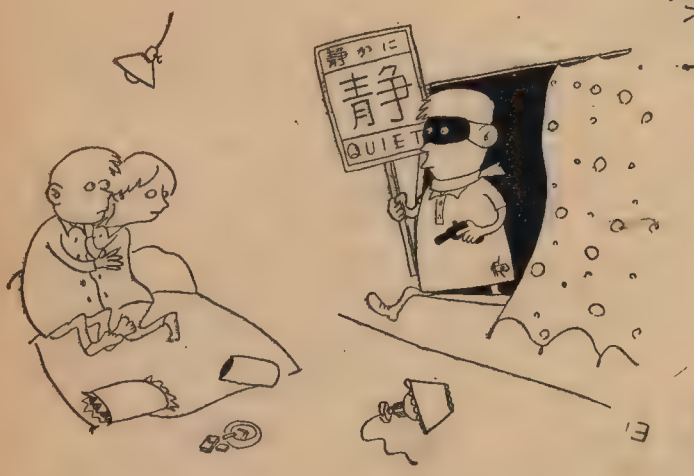
このくらい悪口いったのだから、どっと傑作が集ることを期待します。われと思わんものは、今こそフンキして既成作家をドキンとさせてください。



ここなら安心 （八王子） 東海林さだお

〔採点〕

気の弱そうなお巡りさん、気の弱そうな人物、そして気の弱そうな作者。一緒になってオドオドしていないで大きな気持でのびのびとおかきなさい。このくらいで安心はできますまいよ。〔58点〕



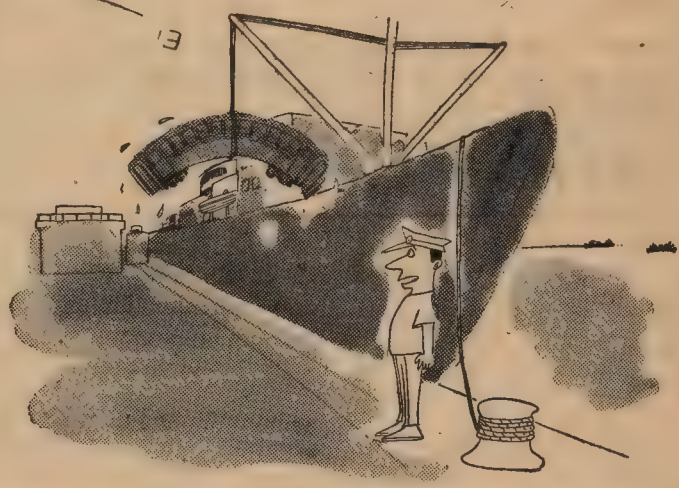
規則は守りなさい

（東京・目黒） 水島義邦

〔採点〕

ちょっと変った絵柄で可愛らしさはあるが案が貧弱，フランス小話を絵にしたようなまんがでは物足りませんね。

説明文はまずい。このキャプションのためにしゃれが急に泥くさくなってしまった。〔56点〕



猛暑

（名古屋） 加々美博

〔採点〕

スケールは大きいが描写力が不足で，猛暑のムードが出ていない。だから説明がないとわからないところがつまり弱点なんです。〔50点〕

⇨▽今週の第一席△

簡易サービス・カー

（高知県香美郡岩村東金地）

岩本武雄

〔採点〕これほどシャープな絵をかく人なのに、他の二、三枚を見ても案が安易すぎるのはおしい。むこうに普通の自動車も並べて描いたら、サービス・カーも生きそうな気がするんですがね。〔65点〕

⇦ ザイルの効用

（東京・練馬）坂井俊一

〔採点〕達者な絵だが，達者と雑をまちがえないでほしい。もう一枚の絵など、画面の字がすれて汚れているのを平気でいる無神経さはいけない。まんが家は無神経では絶対いけません。〔62点〕

⇩ 長い立ち話だなア

（土浦）小林道利

〔採点〕これもキャプションが悪い。（長話し）だけで充分である。絵はなかなか神経を使ってあるがこんな案をかくほど、材料に不足した日本の生活ではないでしょうにねえ。〔55点〕

新人漫画スクール校則

漫画専門の週刊誌として創刊された本誌は、新人発掘に全力をつくし、漫画界に新風を送りこんで行く方針です。とくに本欄は新人の登竜門たらしめて行きたいと思いますので、左記規定により、ふるって投稿して下さい。

(1) 投稿は十八センチ×二十六センチに黒、または黒インキを使用し、必らず未発表の創作に限る。

(2) 作品の裏に題名、住所、氏名、年令を明記。

(3) 郵送中折れぬように工夫のこと。

(4) 宛先は東京都中央区銀座西一ノ三実業之日本社「週刊漫画サンデー」編集部「新人漫画スクール」係。

(5) 締切日は毎週土曜日。

(6) 応募作品は一切返却しない。

(7) 賞金はその週の最高点者に三千円、入選作千円

(8) 担当教授は小川哲男氏。

連載忍術時代小説

江戸忍法帖

〔第一回〕

山田風太郎
栗林正幸画

・甲賀七忍・

一

月もなく星もない寒夜であった。雪洞をさげてゆく小姓には、雪洞がそのままのかたちで、透明な氷になってしまうかと思われた。

「雪になるかもしれぬな」

と、主人が言う。

主人が、じぶんの屋敷の中なのに白い頭巾をつけているのは、むろんこの寒さをふせぐためだろうが、雪洞に眼だけのぞかせたその横顔をあおいで、彼は主人が別の人になったのではないかという錯覚にとらえられていた。将軍家御側衆、大老格、十万石の大守というのに、まるで大町人のように享楽的で愛嬌のない眼が、いま、暗く、ぶきみに、冷たくひかっている。

「御意」

と、小姓はふるえる声でこたえた。

主人はそのまま、だまって林の中へ入ってゆく。いかに屋敷が宏大だといっても、場所は神田橋門内、ひるまは遠く巷のざわめきが潮騒のようにつたわってくるのに、いま、まるで深山のなかへわけ入ってゆくような気がするのは、決して夜のせいばかりではないと感じられた。

「灯を消せ」

と、主人がいった。小姓は雪洞を吹き消した。葉のおちつくした林に物音はない。夜空にそそり立っているであろう梢もみえず、周囲はただ漆のような闇にぬりつぶされた。主人はなおだまっている。小姓は、主人がふっと闇に溶け去ったような恐怖におそわれて、寒気にしめつけられる胸から、思わず叫び声をたてようとした。

「甲賀町のものども」

と、しかし主人の呼ぶ声が、やがてした。すると、まったく物音のない林のなかから、ささやくような返事がきこえたのである。

「お召しによって参上」

「七忍衆よな」

「御意」

どこからきこえてくるのかわからない。前の方からのようでもあり、後の方からのようでもある。上からふってくるようでもあり、地底から、わきあがってくるようでもある。遠いようでもあり、近いようでもある。——いや、人の声というより、それは闇そのものの声のようであった。

主人の声が、きっとなった。
「御用を申しつける」
「はっ」
「人ひとり殺せ」
「かしこまってござる」
と、返答は山彦のごとく応じたが、やや不審げに、また嘲けるように、
「人ひとり殺すに、われら七人は不要と存じまするが」
「余人ではない。相手は、厳有院さま御落胤じゃ」
闇は、沈黙した。——声も息もきこえなかったが、驚愕したことはあきらかであった。それはそうだろう。厳有院とは、前将軍家綱のことだから。
しかし、闇の忍者たちが沈黙したのは、おそらく二重の衝撃からにちがいなかった。なぜなら、前将軍家綱には、ついに世子が生れなかったからだ。それだからこそ、上州館林の一大名にすぎなかった家綱の弟綱吉がそのあとを嗣いで、いま五代将軍たり得たのである。
「恐れながら……そりゃまことでござりまするか？」
「まことじゃ」
と、白い頭巾の人はすかさずうなずいた。
「この大事、余人にゆめ知られては相成らぬが……余が見込んだ忍者、甲賀七忍といわれるおまえらじゃから、とくに言う。御先代さまに、たしかに若君はいまさなんだ。じゃが、御他界のおり、御懐妊中の御手つきの御中臈がひとりあったのじゃ。番町の旗本沢木伝右衛門の娘でお丸の方と申す。……運なるかな、命なるかなその御胤は水になりなされ、御遺腹の沙汰はやんだ。と、余らは承知しておった。それが……そのお胤が水になったという公儀への届けはいつわりにて、若君は無事御出生、ただいま御存生あそばしておることがこのごろ相わかったのじゃ」
「御先代さま若君……そりゃ、まことでござりますか？」
闇の声がくりかえしてもういちどきいたのは当然だ。実にこれは容易ならぬ事実である。
「証人がある。若君御誕生のことを当時承知していたお方がある」
「それは？」
「水戸の御老公」
しばらく、だまって、
「なにゆえお丸の方が、いつわりのお届けをなされたか、なにゆえ水戸の御老公が、今日までそれを口外されなんだか——実はその点では、余にも不審のことがないでもない。ただ若君御存生のことは厳たる事実じゃ。まず、これだけのことは知っておけ」
「御先代さま御他界のおり——と申せば、延宝

漆のような闇の中で、白頭巾の主人は「人ひとり殺せ」といった。物音一つしない林の中から七人の忍者は「かしこまってござる」と山彦の如く応じた。

八年五月――」

「当時お丸の方には、御懐胎五月であったと申す」

「すりゃ、若君は、ことし二十才におなりあそばしますなあ」

「葵悠太郎と申しあげるそうな」

頭巾の人の声は、粛然として、ふるえをおびたしゃがれた声に変った。

「もし、そのお方が、公然お名乗りあそばして世に出でられたならば……いうまでもなく、六代将軍家たるはそのお方じゃ。いまの上様に御世子はない。ただおひとりの御子徳松さまはおん年四つにて御夭折あそばした。さりながら、上様とていまだおん年五十五、今明年にも御世子が御誕生あそばすやもしれない。いや、上様はそのことをのみ、日ごろ祈っておわすのだ。しかるにここに御先代まの御子が名乗り出ておいであそばしたならば、たとえ現将軍家に若君が御誕生なされても、御血脈の順として江戸城のあるじとはならせられまい」

「……」

「いやいや、いまの上様とて、いかなる御運に相なるやはかりがたいものがある。水戸の御老公という、世にもうるさいお方がおわす。そもそも上様が五代様とおなりあそばす際ですら、いろいろと文句の多かったお方じゃ。ただ、御老公は、その若君が御成長なされていまの江戸におわすことを御存じでない御様子。……実はの、過ぐる日、その若君の御家来という三人の男がひそかに余のところへ参って、はじめて余もそのことを知ったのじゃ。彼らは、一応余にその事実を報告するが、もしそれにて埒あかねば、小石川の水戸邸に参上すると釘をさしおった。以来、いろいろと手をまわして調べたところ、彼らの申すことはまことと相きわまった」

「……」

「ただ、その若君が――おん名を葵悠太郎と名乗らせられておるということ以外――いま江戸のどこにおられるかは、また何をしておられるかは一切不明じゃ。家来もそれを申さなんだのは――おそらく、余が今夜おまえらを呼んでかかる用を申しつけるようなことがありはせぬか――と、それをおもんばかったものであろう」

かすかに苦笑の語韻がもれたが、すぐ凍りつくようなひびきにもどって、

「されば、おまえらに申しつける御用は二つ」

「はっ」

「葵悠太郎どのを探しあてて、おん首頂戴仕れ」

「殿。……それは御上意でござりましょうや」

「いや、上様は御存じあそばされぬ、と言っておこう。じゃが、このことを首尾よう果たしたら、恩賞はかならず上様よりえまわるぞ」

意味するところはあきらかであった。

「御先代様の御落胤と思うなよ。また上様の甥御様と思うなよ。ただ巷の素浪人葵悠太郎と思って討て」

「はっ。……して、もう一つの御用は？」

「さっき申した三人の家来――二十年若君をおまもり申しあげたはわれら三人――と言いおったが、それがしびれをきらして、小石川の水戸邸に推参いたすおそれがある。ながらく御病床にあった老公が、このごろ御本復あそばしたからじゃ。彼らを水戸邸に近ずけては相成らぬ」

「かしこまってござります。して彼らの人相風態はいかようでござりますか」

「一人は、白髯胸までたれた鶴のごとき老人じゃ。織部玄左衛門と申す」

「……」

「もう一人は、背は六尺ゆたか、耳よりあごにかけて髯に覆われた大男、里見隼人と言った」

「……」

「最後の一人は伴兵馬と申し、年は二十四、五、ひたいに三日月のごとき刀痕がある」

「……」

「年ばえ、姿、まちまちじゃが、しかしその眼光、身のくばり、いずれもなかなかの剣客であるとみた。油断は相ならぬぞ」

闇の中で、冷たい波のように、声なき笑いがゆれたようであった。ややあって、ひとりの声が、

「殿。……このことは、殿以外どなたか御存じでござりましょうか」

「たわけ、これほどの大秘事、他にもらしてなろうや」

その一刹那――小姓は闇黒の天から、ふいに一陣の風が巻きおちてくるのを感じ、

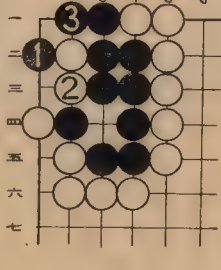
「あっ」とさけんだ。そしてそれが彼の最後の声であった。上から垂直におちてきた何者かが、刃をさかしまに、彼を串刺しにしていたからである。

異様な叫びに、白頭巾の大守がはっとしてふりかえったとき、闇中にかすかに鍔の

詰碁の解答

〔出題　六八ページ〕

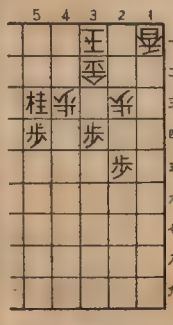
黒先コウ　黒1で1三だと白2黒1五白3で黒死。また黒1を2だと白1三黒1白1一で黒ダメヅマリで3の所へ入れない。黒1と打って白2で1三でも黒3から打ってコウにする以外にはない。



詰将棋の解答

▲1三角△2一玉▲2二金△同　金▲3三桂△1二玉▲2二角成△同　玉▲2一飛△1三玉▲2四金△同　歩▲同飛成△1二玉▲2一竜△1三玉▲1四歩△同　玉▲2四竜まで（十九手詰）

「1三角」が玉の逃げ道をふさぐ手筋。これを、同香、2二合はいずれも4一飛まで。あとは「2二金」…「3三桂」と手がかりを作って、解決する。▲持駒　飛・角・金・桂



鳴る音がひびいた。その襲撃者はたかい梢からおちてきて、一瞬に小姓をたおし一回転して地に立ったのだが、それはふつうの視覚ではとらえられなかった。ただ、さすがに大守は本能的な恐怖におそわれた。

「な、何をいたす！」

「ふびんながら、殿とわれら以外に、この秘事を知るものを成敗してござります」

と、殺戮者は、沈痛な笑みをふくんだ声でいった。

暗殺の命令者自身が茫然として立ちすくんだとき、闇中で七つの声が、呪文のようにながれた。

「仰せ、かしこまってござる。必ず、甲賀七忍の名にかけて！」

二

お茶の水のながれは蒼黒く淀んでいたが、幾千万かの鵞毛に似た雪片は、湯島の聖堂の宏壮なシルエットを、幻のように天に霞ませて、道も樹々も、もうまっしろであった。

「へん、これくらいの雪がなんだい。それより商売商売、かせがなくっちゃ、きょうのおまんまもたべられないや、ねえ、姉ちゃん」

それほど早い時刻ではないが、雪のためで、まるで夜明前のようにみえる。——その雪のなかを、三つの人影が小石川の方へあるいてゆく。

そのうち二つは、獅子舞いだった。威勢のよい声をはりあげているのは頬つぺたのまっかな十くらいの少年で、いま娘と呼ばれたのは十七八の愛くるしい娘だ。声は元気なく、本人は意識していないらしいが、世にもかなしいことをいわれて、あたまにつけた獅子がしらの下で、姉は返事に窮してただ白い歯をみせた。

「そんなことをいうおじさんの方が、おまんまのためにどっかへゆくんだろ？　おれ、ちゃんと知ってるんだ」

「何いうの、たあ坊」

と、娘があわててもいっこうへいきで、くるくるした眼をかがやかせて、

「仕官の口をたのみにゆくんだろ？　ね、おじさん」

「仕官——とは、また大した言葉を知ってるな、たあ坊、そうじゃ、仕官の口をさがしにゆくのだ。しかし、どうしてわかったな」

「どうだい、あたったろ！　そりゃあね、おじさんが急にそんな立派な紋付袴をつけて澄まして出てきたからさ、よくまあ、そんなきものを質にも入れないで、いままでとっといたな、かんしんだな」

相手の武士は笑いだした。耳からあごへかけて豪傑然たる髯をはやし、背は六尺ゆたかで、胸も肩も岩のようにあつい。

「しかし、おじさん、よしたがいいぜ。人に飼われてペコペコしてさ、それで餌もらって男一匹かい。おいらみたいに風の中をとんぼをきって暮してごらんよ、ほんとにおまんまがうまいから」

「いや恐れ入った。残念だが、おれにはおまえのような芸がない。さればによって——」

「ペコペコか。そういえば、おじさんたち、ほんとに芸がないな。虚無僧のくせに、尺八はおッそろしく下手だし——あれじゃ、だれだって喜捨する気にやなれないやね。悠太郎さまなんか、このごろつまらないとみえて、寝っころがっているばかりじゃないか。ありゃ、そうとうな横着者だな」

「たあ坊！　およし、悠太郎さまの悪口をいうときかないよ」

「ああ、ねえちゃん、痛いじゃないか！　姉ちゃんったら、悠太郎さまのことってえ

と、すぐにムキになるね。隼人のおじさん、この姉ちゃんはね、悠太郎さまが好きなんだよ。こないだ、夜中に、猫ののどをくすぐるようなへんな声で、悠太郎さま……とねごとをいってたよ」

娘がまっかになって、もういちど笛でピシリとぶとうとするのを、たあ坊はみごとに宙がえりしてにげた。

「まちな、丹吉――」

と、娘が夢中で追っかけるのを、少年は雀の子みたいにとんでにげながら、

「おじさん、あばよ！　ぶじ仕官の口がきまったら、今夜一升買っといで！」

声はもう三十メートルもむこうの雪の中だった。隼人のおじさんと呼ばれた武士はからからと笑いながら見送っていたが、やがて合羽の襟をかきあわせ、小石川の方へいそぎはじめた。雪は霏々としてますますふりしきる。――と、彼はふと立ちどまった。ゆくてに何やらぼんやりと立ちあがったものがある。

三

はじめ、それが立ちあがったともみえなかった。雪のなかに、その人間も真っ白であった雪をかぶったせいでもない。真っ白な顔や、真っ白な装束、腰にさした一刀の鞘まで白塗りでただ頭巾のあいだからのぞいた顔の皮膚だけが異様な青銅色であった。

――異な奴？　となんめて二三歩ちかずき、急にはっと合羽に手をかけたとき、その白い影が、陰々たる声音で呼びかけた。

「里見隼人であろう？」

「何者だ？」

「と、いうところをみると、さては里見隼人だな。ふむ、水戸屋敷へ参るか」

「ええ、無礼であろう、そこをどけい」

奇怪な相手は、隼人の言葉などどこ吹く風と、

「これ、うぬの主、葵悠太郎はどこにおる？」

ぱっと里見隼人のからだから合羽が宙に舞った。同時に、六尺にあまるその巨体が、砲弾のようにとんで、白い影に殺到した。

「何奴だ、名乗れ！」

ひっつかんだはずの白い影は、すでに三メートルも向うに立っていた。

「葵悠太郎のすみかはいずれじゃ、答えればうぬの命だけはたすけてとらす」

ものもいわず、隼人の腰から閃光のしぶきがほとばしり出た。体格にふさわしい長大な豪剣が横なぎにうなりをたててはしって、雪けむりがぱっと立った。

その雪けむりの中に惚然と敵の姿はきえていた。

「よし、悠太郎のすみかはあらためて探す。せめてきょうは、うぬを水戸より冥土におくってくれる」

声は、片側の六尺の土塀の上にあった。なんたる飛燕のような身の軽さ――白い影がキラリと刀身をぬきはらったとき、里見隼人の巨体も、みごとに塀の上におどりあがっていた。

「や？」

さすがに愕然として、あとずさりに――しかも疾風の速度ではしろうとする白い影に、隼人の豪刀が追いすがり、からくも受けた相手の刀は二つに折れた。

「何びとの命にておれのまえにあらわれたか申せ！」と、隼人は大刀をふりかぶって叱咤した。相手は茫然として立っている。

「推量はつくが、うぬの素性を、うぬの口からききたい。言え！」

「言えぬ。それが、忍者の掟。――」

「なに忍者？　忍者とあらば――ええおれはいそぐ。ならば掟をまもって死ね」

真っ向から唐竹割りに切りつける豪刀を白い忍者は腕をあげて肘でうけた。

――と、あやしむべし、隼人の刀は鏘然たる音をたててはねかえされたのである。

はっとしながらも、刃は反転して、ふたたび相手の細首を横に撫いでいた。が、そんなところに何も鎧っているはずもないのに、刃身はまるで鋼をたたいたように砕け折れたのである。

「肉鎧」

相手は笑った。

折れた柄を宙になげて里見隼人はおどりかかっていた。ふたりのからだはからみあったまま、どうと雪の路上におちた。二三度ころがると、隼人は相手のくびに手をかけて――この豪力無双の男の背に戦慄がはしった。相手の全身は――たしかに甲冑や鎖繻絆のたぐいを身につけていない、あくまでしなやかな肉と皮膚でありながら、鋼鉄のかたさをそなえていたのである。

「うぬ、化物め。――」

隼人は歯ぎしりしながら、相手の頭をつかんだまま立ちあがった。のしかかって、

「柳沢か――うぬを使うは柳沢か！」

と、絶叫した。

頭をしめつけられたまま相手はうす眼をあけてニヤリとした。

「隼人、あの世へ土産にきいてゆけ。――おれはいかにも柳沢手飼いの忍者、甲賀七忍のうち、八剣民部。――」

「またおれは七忍のうち、天羽七兵衛！」

ふいに頭上で声がして、隼人が顔をふりあげた一瞬――彼の眼は、天空から落下してくる白い影と一閃の光芒を見た。

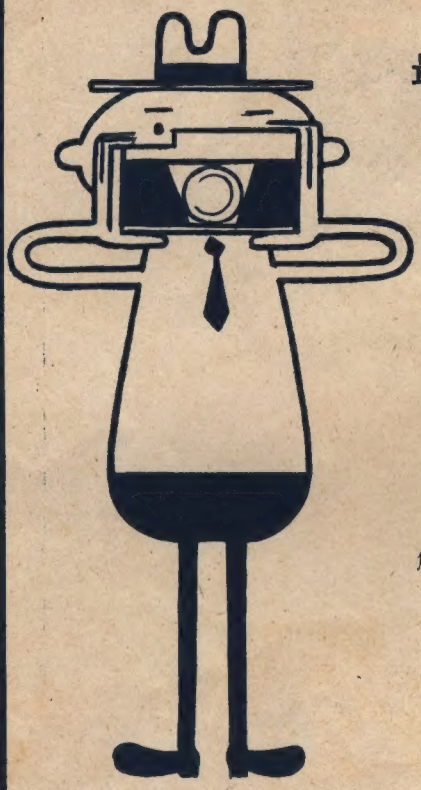
「甲賀忍法、むささび落し！」

隼人の腰には鎖のような八剣民部の腕がまきついていた。にげもかわしもならず、里見隼人の肩から肺へ――腹腔まで、灼き金のようなものがつらぬきとおっていた。

路ばたの欅の梢から真一文字におちてきて、里見隼人を串刺しにしてしまった白い影は、そのままむささびのように一転して地上につっ立っている。ツ、ツ――と八剣民部が離れた。そのふたりの眼前で、しばらく無念の形相で仁王立ちになっていた里見隼人の巨軀は、やがてどうと前のめりにたおれ伏した。

（つづく）

次の週刊漫画サンデーの発売日は
8月18日
〔毎週火曜発売〕



最も使いやすい新時代のカメラ

フジカ35-ML

定　価　18,410円
皮ケース　1,090円

レ　ン　ズ：フジノンF2　45mm
シャッター：シチズンMVL　B・1～1/500秒
　　ライトバリューシステム
ファインダー：パララックス自動匡正式
　　ブライトフレームファインダー
焦点調節：リモートフォーカシングシステム

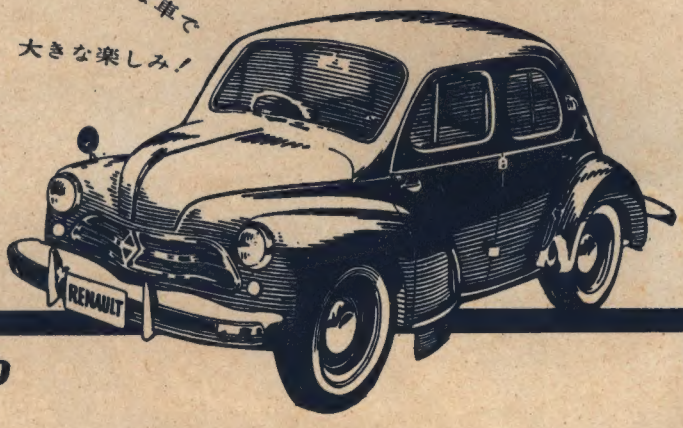
富士フイルム

コップ一杯のガソリンで4キロメートル

日本で育った…

日野ルノー

小さな車で
大きな楽しみ！



合理的な設計・経済的な性能そして悪路に強いすばらしい乗り心地は、車を愛する方ならどなたもご存知のはず……シックなパリのセンスを母に日野のすぐれた技術を父に日本で生まれた日野ルノーは今では100％の国産化を達成して、よりたくましく育っています……

Hino　日野自動車

週刊漫画サンデー

週刊漫画サンデー　八月二十五日号

昭和三十四年八月二十五日発行（火曜日発行）

第一巻　第一号　通巻　第一号

編集人　峯島正行　発行人　増田義彦

発行所　実業之日本社

東京都中央区銀座西一ノ三　電話(56)五一二[illegible]六番

創刊号に[illegible]特価四十円